

---

# 工学系オタクの戦術機論

type-00

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

工学系オタクの戦術機論

### 【Nコード】

N2954R

### 【作者名】

type100

### 【あらすじ】

作者の妄想の産物、しかも初執筆なのでご容赦を  
マブラヴオルタの世界に工学系オタクの知識もったやつがいたらどうなるか、いずれやってくる死亡フラグを回避するためにどう行動するか？という話になる予定

携帯での投稿につき一話あたりの分量少ないです

タイトル自体その場のノリでつけたので話の方は適当に妄想垂れ流してただけだったり

どうでもいいことですが最初のコンセプトは「武御雷を防衛戦で暴れさせたかった」ってだけです

でも戦術機戦最強はラプターです

武御雷は年間30機という生産数が兵器としては致命的な気がただ単体能力は最強の部類だとは思いますが

戦争するとなると武御雷1機作ってる間にアメリカはラプター3機以上作ればいだけですし、戦ったらラプターなんじゃと

異論は認める

BETA戦に入りました。まあ、そこまで長くないと思います

## 第1話 命を大事に

1980年帝都のある武家屋敷にて

「徴兵制復活ねえ……」

大陸のBETA戦線の状況悪化により徴兵制度の復活が帝国議会で議決されたらしい

今朝の帝都新聞の見出しにはヒゲのおっさんの写真とともにそのことに関する記事が書かれていた

「まあ、俺には関係ないか」

というのも自分の家系は征夷大將軍を輩出する五撰家のひとつなのだから

征夷大將軍は現在でこそ実質的権力は大きくないが、先の世界大戦で某チート国家のお米の国に負けるまでは国の舵取りをしていたこともあり象徴としての国民からの人気はものすごく高かったりする

そんなことだから五撰家である自分の家もかなり格式高くいわば皇族のような立場なのだ

しかしながらこの国には徴兵制度からなる帝国軍とは別に將軍を守る斯衛軍というのがあり、有力武家からなるこの軍は当然五撰家の一員である自分も将来配属されるはずなのでどっちにしる兵役にはつかないといけなかったりする

「斯衛の青なんてすごく名誉んだけど対BETA戦考えるとただの死亡フラグだよなあ」

（というか既に世界人口の3割が死んでるってどうなのよ、どう考えても死にすぎだろ……。世界大戦でもんな死んでねえぞ。

確か記憶の中の知識によるとこの世界って20年後の大規模作戦に失敗したら地球放棄して他惑星に逃げるんだよな。俺は皇族みたいなもんだから移民団には入れるだろうけど将軍が地球に残るとかになつたらヤバいかもしれない……

それ以前にBETAによる日本侵攻での防衛戦で死ぬ確率高すぎる。マジなんとかしないと詰みゲーとか嫌だぞ）

そんなふうに一悶々と悩んでる彼、斉御司和司は所謂前世（？）の記憶がある転生者のような存在だったりする

実際には後に香月博士が提唱する因果律量子論からなる因果の流入による記憶の流入が近いかもしれない

それなのにこのような庶民的（？）性格になったのは幼少期からそのような記憶や知識に曝されたため多大に影響された結果だった

今より幼少期だったころはこの記憶を夢だと思っていたこともあり、それとなく周りに風潮して変な子供だと若干心配されていた

それが前世の記憶だと確信したのが今朝の徴兵制度の新聞を見たときで、BETAという単語を初めて見たことによりそれに関係する事柄が芋づる式に思い出した結果、この世界が前世では架空の存在であったことがわかったからだった

(はあ、どうしよう……。積みゲーにしたいぐらい詰んでる気がする。とりあえず本土防衛戦だな、その後は個人的に生き残るだけなら第5計画が発動したほうがいいんだが日本も助かることも考えるなら第4計画か

どう立ち回るのが重要だけど未来知識をバラすのはアウト、精神病院なんていきたくない。ただでさえ変な子扱い気味なのに)

彼は若干5才の身でここまで論理的な思考が出来てることがおかしいことにまだ気付いてない……

齊御司和司は1975年に五撰家のひとつである齊御司家の次男として生まれた

言葉のある程度理解し話せるようになる3才くらいまでは他の子供より成長の早い、まだ普通の子供として見られていた  
五撰家をはじめとする武家は優秀な血を多く取り入れているので、少しくらいの成長の早さはさほど驚かれるものではない

しかし、言葉を理解しそれにより彼自身最近まで夢だと思っていたことの内容がわかり出すと変わった言動が多くなり、周りの評価も将来有望な子から少々変わった子というものになっていた

(俺の今の年齢が5才か……。今の状態で「将来BETAがくるんで戦術機の配備と開発に力を」とかいつても、また変な事をつて思われるだけだよな。下手すると電波だ  
最低でも9〜10才にはならんと。

しかし俺って5才の癖に思考が5才っぽくないよな。記憶あるせいで変に老成でもしてんのかな？実は頭すごくいいとかだったら移民船切符的に嬉しいな……

ってこれだ！優秀な血筋の五撰家で凡人なわけないじゃねーか、だいたい前世でだってこっちでいう帝大行ってたんだし

そうなるとドンくらい頭いいかが問題だな。香月博士並とは言わんが世間的に天才の範疇には入りたくないな

とりあえず難しい計算を暗算してみてと……2の二乗は4、4の二乗は16、16の二乗は256、256の二乗は65536、65536の二乗は4294967296……

やべー、これはIQ180前後あるかもしれん。

前世が130くらいだったけど明らかにそれ以上だわ

これなら【僕の考えた最強の戦術機】が作れるかもしれん！！  
核動力搭載戦術機とか考えただけで盛り上がってき  
た！）

ちよつと希望が見えると楽観的になるのは前世譲りになるのかも  
れない……

小型核動力なんて架空世界でもとんでも粒子やら超技術が必要な  
ものを創れるはずないことは少し考えたらわかりそうなものなのに

彼はこの絶望に溢れた世界で死亡フラグを回避することができるの  
だろうか？



## 第2話 手の掛かる子供ほどかわいいのか？

冷静になって考えてみたら最強のオリ戦術機なんて無理だわ  
だいたい核動力に必要な某粒子があるかもわからんし理論も思いつ  
かねえ

今のところ頭いい恩恵って思考速度早いのと計算能力くらいか…  
とりあえず現状把握とこれからどうするかの具体的方針考えないと  
BETAに食われるなんて最悪の未来は絶対に回避しないと……

まずは現状か

まずは俺自身についてだな

身体能力はまだ5才ってこともあって剣術ははじめたばかりだし未  
知数

同年代の武家の子供見た感じ平均より下って感じかな？まあ戦術機  
乗っても青だし護衛着くだろ、前出なきや接近戦はそこそこでいい  
はず

ただ戦術機のるにも体力ねえと集中力きれて死ぬから剣術系の習い  
事は真面目にだな

戦術機適性は武家だしあるだろ……前世では結構乗り物酔いしてた  
がきつと大丈夫！

知識、知能面はオタクだったおかげか日本のこれからの流れはだ  
いたいわかるな、俺の影響でどうなるかは未知数だが後20年弱でB

E T A が来るのは確実だろう  
知能についてはすでに帝大入学レベルあるはず、なんだけこの世  
界は60年代に月基地作ってるようなインフレ世界。実際は高校レ  
ベルかもしれん  
今は変わった子扱いだがこれから頭いいって思われるようにしよう。  
うまく行けば10才前後でいろいろ関われるようになるかもしれん、  
五撰家だし  
末っ子でこともあつて親も祖父母も甘いしな……、多少の我が侷は  
聞いてくれそうだ。

家族の話出たところで家族構成を簡単に説明すると祖父母に現当主の  
父と母、そして次期当主予定の兄である

祖父は典型的な武人で祖母もそれに習って典型的な日本女性で二人  
とも礼儀や作法に煩く、兄は今は次期当主として落ち着いているが  
前はうるさく言われたらしい  
俺にとつたら甘々な爺さんなんだけど

父母はその反動か公務でないときは意外とくだけていてどちらかと  
いうと武家らしくない  
まあ本人も各財閥のトップと仲がいらしく財閥の後援やらやって  
るらしく、武家というより事業家と言った方がいいのかもしれない。  
まあそのせいで兄は武家として祖父に厳しくされたとか……

話がそれだが重要なのはこれからどうするか

第一にこの知能が天才の部類に入るなら兵器開発系に進めばいいはず、うまく研究者として成功すれば前線回避も可能かもしれないし斯衛のあり方からして可能性低いけど

そしてやるとしたら電子演算系統かな、本編でも有効なことはわかってるしなX M 3

次点が天才に入らない場合か、この場合は衛士として死なない程度に鍛えないとな。青として護衛着くとはいえある程度動かせないとその内戦死するのは間違いない

結論からいうと自分の頭脳がこの世界で通用するかどうかかわからないと方針が決まらないのである

ここはこの家に生まれた利点を使わしてもらおうことにしよう

「父上、戦術機が作りたいです」

「（また変わった夢とやらの話か？）戦術機とは撃震のことか？そなたのような子供が作れるようなものではないぞ」

「う……、ではどうすれば作れるようになりますか？どうしても自分で作ってみたいのです」

「うむ、今のそなたではちと厳しいであろう。しかし、そのように真剣に頼むのも珍しい。確か算術が得意だったな、戦術機にはさらに複雑で高度な学が必要なのだ。そなたが望ならばそれらが学べるようにするがどうする？」

（ちと厳しい所ではないが……、珍しく真剣な様子だし学ぶこと自体不利益はないか。しかし乗りたいではなく作りたいとは、このよくな年頃なら乗りたいと思うたがやはり変わっておるのかな）

「ありがとうございます父上、戦術機のためなら頑張ります」

普段不真面目なやつが真面目になると応援したくなるっていう、まあこれで必要な基礎知識はなんとかかなりそうだ  
五撰家にくる教師役なんだからかなり出来る人が来るはず

ここで目に留まれば言うことなしなんだが、まあこればかりはやってまないとわからんな

第3話 キンクリ！しかし何も起こらなかった（前書き）

なかなか思ったように書けない不具合

### 第3話 キンクリー！しかし何も起こらなかった

1983年

死亡フラグを避けるべく頑張る決意をしてから早いもので3年の月日が流れ、一応の主人公である斉御司和司は8才になった  
ヨーロッパではベルリンが陥落したというのに日本はまだまだ対岸の火事状態で呑気なものである

こっちは死亡フラグ回避のため必死だというのに

あの後どうなったか

結論から言うと自分は天才の範疇になるらしい  
個人的に地球残留フラグが遠のいてよかった、これでオルタ5が発動しても問題なしだ

この3年何やってたかというところ、戦術機に必要な工学の勉強>剣術や作法などの武家関連の勉強>武家同士の交流のループだったと思う  
割合としては6:3:1くらいか、最初こそ3:6:1だったが自分の頭脳が認められると才を伸ばすために多くの時間を取れるようになった

最初の1年はほぼ基礎的な数学と物理学に費やしたが、個人的には

もつと進みたかった。自分にとっては復習のようなものだからだ  
まあ、目的であった周りの認識も1年が終わる頃には変わっていた  
からそこまで不満はない

どうやら5才までの言動は天才特有の奇行と判断されたらしい、香  
月博士もビニール破ったりするんだからそういうものなんだろう

2年目からは戦術機に必要な応用分野に入り、大抵はそこから各パ  
ーツごとの専門分野に行くらしいが一応それぞれの基礎だけは学ぶ  
ことにした

わかっていたことだが戦術機は一人じゃ作れないもんな…

2年目からは教師役の人が複数になり、たまに曙計画に参加してた  
人が来て戦術機について教えてくれたりしたのは驚いた

父がコネ使って富岳重工から呼んでくれたらしい…さすが五撰家パ  
ネエ

そして最近はやつと目的の電子演算系について学んでる

なんとしても後2年、つまり85年までにキャンセル搭載した新O  
S作らないと…

86年の瑞鶴とイーグルのDACCTは巖谷中佐（今なら大尉くらい  
か？）に負けか引き分けてもらわないと困る

あれで勝ったことで斯衛の次期戦術機配備が遅れる一因になってる  
んだし

俺は瑞鶴でBETA戦なんてしたくないぞ……武御雷が最高だが、  
最低でも第2世代機で出撃したい

まあ武御雷に乗ったところで自分じゃ性能引き出せないけどな

最近じゃ剣術の修行時間の減少と才能も微妙なせいかどう考えても  
どう年代の武家の子より弱いという

今現在、武家の流派同士の交流試合にても対戦相手にぼこされてる  
最中っていつ…

立場上面と向かっては言われないが女の子にまで負けると周囲の目  
が痛い

「気にするな。お前には別の才があるう、いつかお前が手がけた戦  
術機に乗る日がくると信じているぞ」

「兄上……」

そう言っただけを励ましてくれるのは齊御司宰、俺の兄である  
兄は爺さんに鍛えられ、俺と違って才もあつたから若干13才にて  
すでに大人顔負けの強さを誇ってる  
いい兄なのだが、兄が強いせいで俺の弱さが余計目立つっていつ

「まあ気にしたら負けかなと思ってる」

「何か言っただか？」



「いつ、いえ。独り言です」

聞かれて困ることじゃないけどね

しかし早く戦術機において結果残さんとただの軟弱者と周囲の武家に思われてしまうな……

原作キャラに会った時に『あの斉御司の出廻らしか…』みたいな目で見られたら泣けるわ

## 第4話 つぎは実はすごいんです

1984年

「やっとOSがいじれる」

ここまで来るのに早4年、長かったような短かったような周りの反応見る感じかなり早いようだけど、周囲自体五撰家関係の半チートだったり戦術機に関わってる秀才だったりだから評価基準がわからん

「しかし、OSいじるのってもっと簡単だと思ってた。流石最高度の科学の結晶は伊達じゃない」

そう、この戦術機。OSいじるのだけでもひと苦労なのだ  
開発を重ねることに新しいプログラムを上から重ねまくってるみたいであり整理されてない  
流石はメイドインアメリカ、ちゃんと動けば中身は粗悪でもいいってか……

香月博士はこれを『バグだらけ』とか言ってたけど、どっちかと言うと『無駄だらけ』があつてる気がする。無駄が嫌いらしいから無駄 バグって思考なのか？

しかし、香月博士とテレパスうさぎはこれを数日で整頓したんだからマジチートだよ

まあ、あの人は人間の脳作ろうとしてたくらいだから戦術機の脳であるOSくらい片手間でもいけるってのは当然か

まずはバグだらけのこのOSの整理頑張ろう、こういう地味な作業は得意分野と言えるしな！

……………数ヶ月後……………

「美しいと思わない？この整理されたプログラム！」

「確かに前より多少軽くなって見た目も見やすくなってますが……………」

「ぬ……………、あまり期待した反応じゃない」

「そりゃ、機体の性能が上がったわけじゃないですからね。軍の予算も見た目わかりやすい本体や武器に取りれますから、こんなの誰もやりたがりません。実際最新のシミュとPC揃ってるここは開発部より豪華ですよ」

このような哀愁ただよう発言をしたのはOSの教師役の人である。

教師と言っても教えてもらうつことはもうほとんどなく、今では一緒に開発やってるような関係だ  
本来ならお役御免のはずなのだが自由に研究できることが居心地いらしくなぜか居座っている

研究って金がかかるからな……、そういう意味じゃ最強のパトロンがいる俺は幸運なんだろう

「でだ、OSの整理も出来たことだし新しく取り入れてみたい機能があるんだ」

「あまり無茶なのはリリースしますよ？ただでさえCPUのスペース的にギリギリなのに」

「いや、プログラム自体は簡単なんだ。所定動作の途中でそれを中断できるようにして、新しく別の動作を入力出来るようにするって感じなんだけど」

「確かにそれなら簡単に組めそうですね……、ただ動くかどうかはちょっとわかりません」

「まあ、やればわかる」

やっとキャンセル搭載型OSが作れるぜ。これが出来たら兄との模擬戦で初勝利掴めるかもしれない！

そう、実はシミュレーター来てからそれに乗ってるのだ。流石に実機は無理だが、シミュレーターには無理言って乗せてもらった

その際の適正検査で自分がB-で兄の初検査時がA-と知って複雑な気分になったりしたが、適正は肉体の成長や訓練で多少あがるらしいと聞いてなんとか持ち直した。

そんなことがあってシミュレーターにはもう2、3ヶ月のっている。適正が高くない一回に2時間ものれない上、毎日のる時間があるわけじゃないので82年に瑞鶴が登場してから訓練してる兄には勝てるわけがなかった

「このOSが完成の暁には兄上なんぞあつという間に叩いてみせるわ……」

「変なこと言っていないで手を作業してください。近日中に完成させるんでしょ？一応五撰家のかたなんですから少しは自覚もってください」

「あ、はい……」

外では真面目にしているからいいじゃない、武家社会って前世の記憶もちの自分には疲れるのよ  
父だって私事だとだいぶくだけてるし

もう84年か、アメリカはあの傑作機のF-15Cイーグル配備するんだよな……

確か今の日本は次世代機を国産でしかも第3世代機つくろうとしてるんだっけ。耀光計画とか聞いた気がする

個人的には見栄張ってないでイーグルのライセンス生産して欲しいんだが、BETAの危機に晒されてない今じゃなあ

G弾事件起きてない今ならまだ対米感情マシだと思ったけど、お上はそつでもないか

政治家には米の傀儡連中多いみたいだが、多分軍部の方が前大戦の敗北を根にもってるのかな？

んでBETAの方はヨーロッパで大暴れ中と、今頃フランスあたりは地獄絵図とかしてるはず

さらに余勢をかって南進開始とか物量乙すぎる

来年にはイギリスで本土防衛開始だったはずだからヨーロッパはもう終わりだろう

「どうでもいいけど戦術機の揺れって思ってたより軽いけどもう少し楽にならないものかな？」

「私は適正ないから軽いなんてもんじゃないですよ。そこらへんは門外なんでわからないですね……」

だよなあ。しかし、適正伸びなかった時のこと考えたらもう少し耐  
G性能よくないと死ぬる……。OS一段落ついたらそっち方面もや  
りたいな

## 第5話 失敗は成功の母

齊御司家の瑞鶴シミュレーターにて

「これは一人の人間にとっては小さな一歩だが、人類にとっては偉大な飛躍である」

「馬鹿なことってないでうごかしてみてください、バグはかないかチェックしないといけないんですから」

「わかってるって、つい言ってみただけだ。んじゃ、通常機動で問題ないか試したあとキャンセルいれてみる」

さて、キャンセルをOSに組み込むこと自体は簡単に1週間足らずで出来たが……

「どうです？」

「通常機動は問題なく操作できてるな」



「こつちでもバグらしいバグは見れませんね」

「んじゃキャンセルいれてみるぞ」

さて、これで戦術機のOSに革命を起こせるはず！結果がわかってる問題なんて楽すぎて困るぜ

こんなでOS開発者として特許とれて金も入るなんて美味しすぎるわ

うし、ここの跳躍をキャンセルしてブーストダッツツ……

「あがつー！！……つてえ、なんで急に転けたんだよー！！」

「……」

「しかも、動かねー。ちくしょー、動け！動いてよ、僕の瑞鶴！」

「フリーズしてますね、CPUの処理能力が若干足りなかったみたいです」

「なんでそんなに冷静なの？」

「なんとなくこんなオチかと予想してたんで……」

ぐ…、戦術機に使うCPUだから現在での最高性能のはず。これ以上の処理能力もつてるとなると戦術機につめないようなかぶつたしな

「とりあえず、外部にCPUくっつけてみてシミュレーターだけでも動かせないかな？」

「多分出来ると思いますけど実機では無理ですよ」

「わかってる、シミュレーターでこのOSが有効かどうかかわかればいい。どのくらいかかるかわかる？」

「使えそうなCPU自体はここにもあるんで比較的すぐ出来るかと」

ちくしょー、フリーズとか予想外すぎる。キャンセルくらいいけるかと思っただが

現状の戦術機用CPUで動かそうと思ったらCPUの発展待たないといけないのか……

そういや、記憶によるとデュアルコアとかいって並列にCPUつないで処理能力あげるとかあったけどこれ使えないか？  
シミュレーターで結果出たら実機で試せるように父を通して言うてみるのもいいかもしないな

……翌日……

「早いな、1日でできるものなのか？」

「OS自体は出来てるので、つないでインストールするだけだったんで」

「そんなものか、じゃあ早速動かしてみる」

今度こそいけるだろうといういろいろ動かしてみた結果、キャンセル自体もちゃんと作用してこのOSが動くことが確認出来た

「致命的なバグはないですね……、後は微調整だけでいけるでしょう。即応性の低下もほとんどありません

ただ、動作を中断して即時に次の行動に移ることから間接部への負

荷がかなり増えてますね……。継戦能力の低下と整備費の増加が予想されますが、それだけの価値があるんですか？」

「多用しなかつたらそこまで負荷にならないはず、致命的な隙だけキャンセルするようにすればそこまで心配することはないと思うぞ。それに、近接戦で隙が消せるってのはかなり強みになる。射撃主体の米だとそうでもないけど、接近戦主体の日本だとかなり重要はあるはず」

「技術畑の私にはよくわかりませんが、一応剣術やってる和司様が言うんですからきつとそうなんでしよう」

「なんか嫌な言い方だな、やっぱもっとわかりやすく見せないと駄目か……。兄上に模擬戦やってもらって勝てたりしたらインパクトあるか」

「そりゃ勝てたら驚かれるところの話じゃないですよ。現状だと振袖一閃じゃないですか」

くそ、笑ってやがる……。だが見てろ、硬直消せるなんて知らない兄がいきなりキャンセル見せられたら流石に動揺するはず、うまく運べば勝てる可能性あるだろ……。多分。

「やってみなきゃわからんだろ」

「まあ、何事も挑戦です。頑張ってください」

こいつ絶対無理だと思ってやがる。俺だって勝つのは厳しいと思ってるけどさ

とりあえず、これでキャンセルは出来たわけだ。次いれるとしたら先行入力だけど、これはCPUの処理能力があがらんと無理だなこのキャンセルが評価されて電子演算系の分野に予算出るようになって5年はかかりそうだ

つまり、このキャンセル搭載OSをどうにかして認めてもらわないといけない。兄との模擬戦頑張らないと…

それにしてももう84年か、そういや去年原作キャラの煌武院悠陽が生まれたんだよな。次期將軍家ってこともあって、盛大に祝われてたっけ

容姿はかわいらしいんだが髪が紫なのは、日本人は黒髪黒眼って先入観ある俺からしたらちよっとした拒絶反応が…

まあ、斉御司家が黒髪黒眼な家だっただけにこの世界のとんでも髪色はインパクト強すぎた

もうだいぶ慣れたけど、生誕式典の時にいた月詠家見たときはヤバかった

真那さんも紹介されたけど、鋭い目つき＋緑髪は思わず逃げそうになっただし

顔の造りが綺麗な分余計に迫力が……

月詠家で思い出したが五摂家には警護担当の御側役の赤の武家があり、自分の担当の人はそこまでひどい髪色じゃなかった

別の意味でひどかったが……

自分が10才になったら正式に来ることになるらしいでそのうち紹介できると思う。

まあ、そんなことよりOSだ

第6話 兄より優秀な弟などいない(前書き)

マブラヴはEX、アンリミ、オルト+wiki少々の知識しかありません

本編意外で出た設定とか知らないんで妄想で間違った設定使ってる可能性が高いです

## 第6話 兄より優秀な弟などいない

### 兄弟での模擬戦の日

「ついにこの日がやって来た……、私の興亡この一戦にあり。今日こそは勝たしてもらいますよ、兄上」

「えらく気合いが入ってるようだが、そう簡単にはやらせんよ。珍しくそちらから模擬戦などというからには日頃研究してるものが形になったようだが、半端なものでは私の機体にはかすらせん」

「まあ、やってみればわかります。前置きはこれくらいにして早く始めましょう」

「では、お二方ともシミュレーターに搭乗してください。今回は試作OSの性能試験もかねているため、不確定要素をなくす目的で障害物のない平野での戦闘となります」

さて、これからが本番だな

いつもの対戦の兄の動きだと、こちらの射撃を避けつつ後退させないよう牽制射撃



徐々に間合いを詰めて、こちらがじれて接近戦に移ったところで硬直取られて撃破

つてな流れだったな。毎度同じやられ方なんだが力量差があるせい  
でどうにもならん。唯一の救いが射撃でやられないことか

兄は根っからの武人だけあって締めは接近戦の長刀にこだわるから  
な。射撃で狙われたらキャンセル使う前に落とされる

だから唯一チャンスあるとしたら、最後の締めの時

こちらが接近戦で隙さらしたところで絶対に長刀で切りかかるはず  
ここをキャンセルして逆に切りかかれはいくら兄でも避けられまい

……

「こっちは準備できた、いつでもいける」

「こちららも準備完了だ、さて和司。今回は少しは違うんだろうな？  
少しは粘ってもらわないと毎度張り合いがないぞ」

選択した装備はお互い標準的な盾＋長刀＋突撃砲

ただこちらが長刀1本の迎撃後衛なのに対して兄は長刀2本の突撃  
前衛だったりする

兄上、長刀で戦いたいのはわかりますが青の自分達は指揮官的地位  
なんだからあまり突っ込めないと思うんですが……

「コールサインは宰相がオーシャン1、和司様がオーシャン2とします。それでは状況開始してください」

.....

ぐっ、今のはヤバかった。牽制射撃のくせに油断するとやられそうになるのってどうなのよ

一応平野での戦闘だからかなりの距離から開始したけどもう随分詰められてる……

接近戦になるのも時間の問題か

うまく盾と回避合わせられでどんどん詰められる。牽制射撃は避けていく盾を使わざるを得ないんで下がれない……

「どうした？このままではいつもの焼き直しだぞ？」

んなことわかってるっ、こっちはいつもの展開に持っていきたいわけだし

ただ兄がいつもより多少警戒してるせいできつい、ふとした勢いでキャンセル使いそうになるがまだ使うわけにはいかないし

「そちらから来ぬならこちらから行くぞ」

「っ!!」

きた！長刀に持ち替えてブーストかけながら突っ込んでくる  
下手な射撃は命とり、すぐさまこちらも長刀を装備

「はああ！」

突進に合わせた長刀による斬撃

当然のことながらかわされ硬直に兄の操る瑞鶴の斬撃が迫る

「これで終いぞー！」

ここだ！斬撃を出してしまった兄の瑞鶴はその動作が終わるまで入力を受け付けない……

素早く長刀の斬撃をキャンセル、兄の攻撃に合わせカウンターをとろうとする

「まだまだっ！」

「なにっ?!」

決まった！このタイミングなら避けられない！

「オーシャン1胴体部被弾。致命的損傷により大破  
オーシャン2頭部及び胴体部被弾。致命的損傷により大破  
状況終了してください」

……。最後の最後で相討ちとかないわ

チート使って不意打ちしても勝てない俺って……

最後どうなったかというと非常に単純である。兄の斬撃が早すぎてキャンセル使っても避けられずそのまま頭部から突き刺さったのだ  
兜割りってレベルじゃねーぞ

せつかく兄に勝てる最初で最後のチャンスかもしれないのに……  
泣ける。

それより気になるのは評価だな。相討ちとはいえ普段ボロボロに負ける俺が兄の機体大破させたんだ  
それなりに評価されると思うが……

複雑な気分でシミュレーターから降りる自分に兄とOSの教師役、

さつきまで簡易オペレーターやってた彼が駆け寄ってきた

「まさか宰様を大破させるなんて！半信半疑だったんですがこのOSはいけますよ。間違いありません！」

「相討ちでそこまで言われるなんてなんか複雑だな…」

「何言ってるんですか。あなたが宰様と相討ちなんてよほどの天変地異がないと起こりませんよ」

笑いながら言われたんだがキレていいのかな？これ……

「天変地異とまではいかんがまさかお前に大破させられるとはな…」。しばし呆然としてしまった。最後の斬撃時、縦切りを途中で中断して横薙ぎにつなげていたがそれが新OSとやらの機能なのか？」

「はい、所定動作を中断して次の行動に移れるようになっていきます。ただ実機ではCPUの処理能力が若干たりないためまだつめません。使えるようなら父上に掛け合っただけでなんとかしてもらえようにするつもりなんです…」

「そうか、接近戦でそのような機能が使えらなら脅威だな。実際落とされたわけだし、実機につめるなら間違いなく使えるだろう…、私からも父上に掛け合ってみよう」

「ありがとうございます。ただこの機能、仮にキャンセルとします。が、キャンセルの使いすぎは駆動系、間接部に負荷がかかるため多用はできないかと」

「それでもそのキャンセルとやらは画期的だ。接近戦主体の日本だと余計にな」

これでなんとかなったかな…。俺だけじゃなく兄からも父上に掛け合ってくれるらしいし

なんとか実機につめるようにしたい

困った時の父頼み、戦術機作ってる財閥にも軍部にもコネあるとかうまくいけばトライアルまで持っていけるかもしれないし、評価されれば早いうちから開発の中心近くでOS研究できるかもしれないな

それにしても兄に勝ちたかった…、次からは同条件だろうし勝つのは不可能。次に出来るだろう先行入力はそこまで差が出るものでは

ないし

ちくしょー



第7話 幼なじみ襲来（前書き）

登場人物増えて来ると混乱する不具合

斯衛の言葉使いとかわからないんでかなり適当だと思います

## 第7話 幼なじみ襲来

1985年

兄との模擬戦から1年と数ヶ月  
あれからいろいろあった

兄と一緒に試作OSについて父と話をする、兄と引き分けたことが非常に驚かれすぐさま知り合いの財閥や斯衛の開発部にかけてあった

ただし、いくら五撰家とはいえ9才の子供の作ったものでは信用が得られないため、教師役だった水戸さん開発、発想は自分という風になった

実は水戸さんは曙計画の電子演算系の担当者の一員で予算削減の際に首きられそうになったところを呼ばれたらしい  
そんなすごい人だったなんて……

とまあ、水戸さん開発なら信用も置いてシミュレーターでも結果が出たのでCPUの開発に予算が出ることになる

また、アメリカ製F-4がもとである撃震と瑞鶴はまだ設計上余裕があったので、現状より大きなCPUでも積むことが出来るとわかったため比較的すぐに実機での検証が可能となった

その検証で新OSは

遠距離ではキャンセルによる恩恵はあまりないが接近戦ではかなりのアドバンテージを得る

キャンセルの多用は駆動系間接部に多大な負荷を与えるが、多用の自重又は間接部の強化で負荷が許容範囲に収まる

と評価された

接近戦を重んじる斯衛ではすぐさま従来OSとのトライアル行われ、斯衛での採用が決まると帝国軍でも採用を望む声が高まり採用が決まった

そして先日ついに斯衛から先行配備が始まったのだ

ここまで来るのに5年…長かった気がするが、86年の瑞鶴イーグルのDACTに間に合ったから個人的には満足である

新OSに対する海外の反応はというと極端で

接近戦と生存能力の性能上昇はBETA戦の最前線の国では試験導入を望む声が多く、具体的には現在でも衛戦を行っている欧州各国、去年からヒマラヤを挟んで激戦地とかしてるインド、そしてソ連中国である

日本としても対BETA戦における新OSの性能は欲しい情報なので順次輸出することになると思う

それに対し、主にアメリカはあまり興味を示さなかった。アメリカの戦術方針自体が射撃主体の遠距離戦闘な上、戦術機は依然としてアメリカの独壇場であるのが理由かと思われる  
思いたくないが一番の理由が日本のイエローモンキーが作ったOSなんて使えるのか？って考えかもしれんしな

どちらにせよ世界各国に新OSが広まるのはまだまだ先になりそうだが、一応特許やらもとってるので早く広まって欲しい。  
金自体に困ってるわけじゃないがCPU関連の企業に投資して開発を加速させたいのだ。

CPUの能力あがらんとOSいじりようないしなあ

いい感じのCPUできるまで前々から考えてた耐G機能について研究するのもいいかも、自分の戦術機適性の低いし

しかし問題はXM3みたいなカンニング出来ないから下手すると何の成果もなしがあり得る……

なんか本編でも使えたXM3以外のいい装備なかったか？

「そつだ。電磁投射砲作るつ……」

「電磁投射砲……ですか？確か以前から開発計画ありましたけど技術的な問題から開発は暗礁にのりあげてたと聞きますが」

「しかし、実現したらかなりの威力だと聞いたぞ？」

「理論上は、です。さっきからぶつぶつ呟いてますけどいい加減現実逃避はやめてください。もうすぐ時間ですが謁見部屋に行かなくていいんですか？」

「うっ、そつというのはギリギリまで言わないのが優しさだと思うんです」

「今がその時です。早く逝ってきてください」

あの野郎『いつて』のニュアンスが『逝って』だったぞ。

……謁見の間にて……

いつ来ても広いな。齊御司家に連なる武家が揃う正月とかは人が詰まってあまり感じないがやっぱり広いわ  
こういう時は五撰家の凄さを思い出すな

しかし、ついにきたか。あいつとは剣術はじめたころからの付き合いだが、どうも苦手なんだよな……

だいたい警護対象相手をボコボコにするとかないだろ（剣術の試合だから問題ない）。加減というものを理解して欲しい。しかも、威圧感パネエんだよ。怖がらせるとか本末転倒だと思っ

そして今その人物が父と一緒に目の前にいる

「この者が今日からそなたの警護を担当することになる本多だ」

「今日から和司様の御側役を勤めさせてもらう本多です。以後宜しく御願います」

「こちらこそ宜しく頼む。そなた程の武人と共にあれるなど名誉なことだ」

「そのような過大な評価、私には勿体なく存じます」

「これからは共にあるのだ。あまり堅苦しくしないでいいぞ」

.....

.....

と一応公式の場なんで真面目にこなしつつ、立ち会いは終わった。これで俺の安息の日々は終わった……そしてこれからは威圧感あふれるこの護衛にS A N 値削られる日々の始まりである

「それでは参りましょう和司様」

「どこに行くんだよ……」

「道場に決まっています。護衛対象の技量がわからないと護衛に支障がでるので。」

「昔ボコボコにしたじゃないか」

「今現在の状態を把握しないと駄目です」

「おい……、どこを持って……。」

やめる、引つ張るな！自分で歩くから勘弁してくれ。やめるんだ忠篤  
篤」

そう、名前でわかる通り今日から俺の護衛になるこいつは本多忠篤  
残念ながら男だ

あの本多忠勝の本多家の子孫らしい。親が忠勝にあやかっつて忠篤と  
名付けたと聞いた。名前の通り忠義に篤いかはさっきも見たように  
甚だ疑問である……



現在15才、兄と同じ年で剣術ではお互い切磋琢磨したとか  
既に180半ばも身長があり赤みがかった髪の毛のせいでかなり怖い  
10才で130ちよいのこっちからしたらただの巨人だ

本多家は代々齊御司家の警護担当についてたらしく、忠篤の父は俺  
の父の警護担当

そして、一番理不尽なのがこいつの姉が俺の兄の警護担当なのだ

しかもこいつが180半ばのいかつい巨人なのに、姉の方は160  
ちよいの美人さんだ

こればかりは己の不幸と遺伝学の不条理に泣きたくなった

まあこいつの姉の方も警護任されるだけあって相当強い。

俺の担当になったら、自分より強い女性に守られるなんて情けない  
状態になるんでこれでよかったんだろう  
てか、そう思わないとやってられん

そろそろ道場着くな……

鬱だ



第8話　そして時代は動き出す（前書き）

90年代までとばし気味に

80年代末はあまり書くことないし

F-15系列の機体が好きすぎて困る

## 第8話　そして時代は動き出す

1986年

本土防衛軍結成

着々と対BETA戦が近付いて来ている

そして今年はもう一つ重要なイベントがある。日米合同の瑞鶴とイーグルのDACT（異機種間戦闘訓練）だ

第2世代の傑作機と言われるはずのイーグルである。是が非でも早期導入して欲しい  
そのためイーグルに勝って欲しかったんだが、ひとつ重大な勘違いをしていたことに気付く

『新OS積んだ巖谷中佐（現在大尉）の瑞鶴と旧OSのイーグルが戦ったらどうなるの？』

結果は当然の如く瑞鶴の勝利となった。

それに一人落ち込んでいたのだが、瑞鶴が新OSを搭載していたという史実（と言っていいのか？）と違う要素が思わぬ流れへと繋がっていく

瑞鶴がイーグルに勝利したのは新OSの影響であり、同条件ではどうなるかわからない、同条件で再度D A C Tを行うべき。という意見が出たのだ

同条件の結果を知ってる身としてはパイロットの巖谷さんごめんなさいだが、その意見のおかげで本来より2年早い87年にイーグルの試験導入が決まったので必要な犠牲だと思って諦めてもらいたいまあどちらかという試験導入は滞り始めてた第3世代機開発計画を打開するための技術検証目的のてのが大きい理由らしいが……

そして海外では

『フロントムでイーグルを破ったOS』

と過大評価され試験導入を決定する国が多くなり、中には本格配備も予定しているという国すらあった

あのアメリカですら性能検証のため、として輸出を打診（打診という名の脅迫）してきたんだから驚きである

（後年主人公はチートのアメリカというものを思い知ることになる）

国内での配備も広まり、発案者としての特許料がそれなり（庶民から見たらそれなりなんてもんでもないが五撰家になれて麻痺してる）

の額が入りだしたので、予定通りほとんどをCPU関連企業に投資することした

これにより1995〜2000年の間にはコンボまで含んだOSが作れそうな見通しが出来たのでひと安心だ

それにしても結構な額の金を注ぎ込んでやっとコンボまでなのに、本来のX M 3は失敗作のCPUでキャンセル先行入力コンボを搭載した上で即応性3割増しかそれなんてチート？と言いたくなる。やはりオルタ4は世界的な計画なんだなと改めて思う

日本の動きはこんなもので個人としては暇だったかな……  
ただ暇そうに見せると赤の巨人が道場につれてこうとするので何かしら忙しそうにする必要があった

OSはCPUの発展待ちでやることは水戸さんに任せて大丈夫なので他分野の勉強をやることにし、電磁投射砲が諦めきれないんで主に武装方面を主に学んでる

戦術機については案外なんとかなるんじゃないかなうかと思ってるので電子系以外は相変わらず基礎しかしない。というのも新OSがあるおかげで軍の要求仕様を満たしやすくなったのだ

新OSによる機体性能上昇が1〜2割近くあるので、本来の機体スペックを100とするなら90前後のスペックでも仕様を満たせる計算である

本来は100×11100

現状は90×1.1}1.2"99}108

まあ話はそこまで単純じゃないがまだOSの性能が高まる予定なので開発が早まるのは間違いない

問題の電磁投射砲だが消費電力に関しては正直お手上げで、戦術機の携帯武装とするなら現状不可能と言える。これに関しては困った時の夕呼先生に頼るしかない、そのうちG元素入り不思議BOXくれるだろうし考えないといけないのは耐久性が主になりそうだ

ただ拠点防衛で使うなら、電力は基地発電だったり変電所からもってきたりなんとかなる気がするんだが……

1987年

F-15イーグルの試験導入開始(TSF-TYPE87 陽炎)  
120機の購入のみでライセンス生産は見送り

新OS搭載し関節部強化、また長刀を使用できるように腕部改修後に再度瑞鶴とのDACTを予定

新OSが85式OSと呼ばれた。XM系の名前は香月博士に怪しまれるため使っていない（彼女が考えた名前なので違和感などを持たれる可能性がある）

1988年

確か香月博士が因果律量子論の検証はじめた年のはず。14才の博士とか見てみたいけど関わると碌な目にあわないのは明らかなので放置

85式OSを試験導入してた国々が段々と本格配備へ  
代わりに提供されたデータによると前線の死傷率が10%前後下がったとか。やはりだが接近戦主体な国ほど効果は高い傾向が見られた

.....

「シミュレーターで先行入力を再現できるようになったけど、どうやって価値を認めさせるか……」



そう、この年になってシミュレーターで先行入力を再現できるCPUが出来たのだ

「兄上と本多に触ってもらったが『これなら少しでも即応性あげたほうがいい』なんて二人とも言ってたしな……」

くそ、あの半チートどもめ……

そもそも先行入力って機体の物理的な硬直中（着地時や振り下ろしキャンセル後などの慣性を殺してる時）に次の動作を入力出来るんだが、実は硬直終了後から次の動作に移るまでに数Fのラグがあるんだよな（格ゲーやったことある人ならわかるかも、ちなみに作者の妄想設定です）

あの二人はそのラグがわかるらしい……しかも入力こそ早いから硬直終了後ジャストに入力はじめても冷静に動ける

そもそもなんで機体の硬直終了のジャストタイミングがわかるのか……、普通だいたいでしかわからんと思う

とまあ、そこまで出来るんなら即応性あげた方がいいってのも頷ける。

これがX M 3だと即応性の上昇が意味不明なほど高いから上位衛士に対する先行入力の恩恵もあるんだろう

でもそんなこと出来る衛士なんてほんとに一握り、一般衛士からしたら現状でも俺のように十分恩恵があるはず

配備するときは先行入力をON OFF切り替えれるようにすればいいか……

となると一般衛士のデータが必要だよなあ。開発衛士は上位衛士になるんだし

「水戸さん、OSの新機能の効果を複数の一般衛士でとることって出来ないかな？」

「中隊規模でデータ取りたいなら現状だと不可能ですね。とりあえずは実機に積めるようにしないと」

「あと1、2年は待たないと駄目かあ。キャンセルの時みたいに行かないな」

「あれは全衛士に効果ありましたからね……、一部の衛士にしか効果ないので受け入れられにくいかと思えます」

コンボまで完備したOSへの道は遠い……

第8話　そして時代は動き出す（後書き）

早く本土侵攻までいきたいです

20話くらいまでに1998年に入れると嬉しいな……

## 人物設定（前書き）

本文だけだとわかりにくい設定とかを

特に周りの人達の主人公の評価などです

設定だけ考えて投げっぱなしにするのは得意

## 人物設定

主人公

・ 斉御司和司

容姿は某バスケマンガのメガネ君からメガネ抜いた感じ  
所謂天才だが本人にあまり自覚はなし。（主人公が本編で見てたの  
が香月博士やうさぎだったせいがかい、彼女たちは世界の命運を  
任せられるほどの天才。それと比べてるので自覚がない）前世の記  
憶持ちで武家らしくない振る舞いはそのせい  
周りからはその言動を天才特有の奇行だと思われる

死亡フラグ回避のためX M 3の開発を急いでいるがなかなか思うよ  
うに進んではない？

戦術機適性は武家内では低め、剣術も微妙なため接近戦は斯衛では  
最弱候補

主人公の家族

・ 斉御司宰

主人公の兄

容姿は某バスケマンガの髪切った後のみっちー

根っからの武人だが親の影響で身内に対する会話はくだけ気味

接近戦に絶対の自信を持っており、弟と違って斯衛でも最上位（紅

蓮爺などは除外)

戦い方は技巧派

弟の頭脳は認めておりその分戦術機では絶対に負けないよう鍛えている

青なためその接近戦の実力が発揮されるかは未知数

結構熱血

・主人公の父母

たまに出てくる最強のパトロン

名前ないのはまだ考えてないだけだったりする

爺さんが厳しすぎたせいで反発

公式の場でないときは企業の社長とその婦人みたいな感じ

主人公に対してはその頭脳の可能性を認めててできる限り援助してる人を見る目がいいため多分事業家ならかなり成功しただろう

早期に主人公の可能性を知り投資したこの作品で一番の貢献者

主人公はその行動を親ばか気味な行動だと思っているから報われない

・主人公の祖父母

THE 斯衛

主人公の兄に厳しくしすぎたせいで避けられてしまい、主人公には甘くなってしまうた

・主人公の戦術機OSの教師

水戸さん

最初は五撰家だということ以最敬礼だったが主人公の性格を把握してからは今のような感じに

曙計画の戦術機の電子演算部門に関わってたすごい人

予算削減で首きられそうになったところを拾われ結構感謝してたり

実は主人公の頭脳を一番認めてるのはこの人

主人公を誉めても五撰家に対するお世辞だと思われたり、つけあがつたりするのであまりそういう事は言わない

・主人公の警護担当の人

本多忠篤

容姿は某バスケット漫画の主人公、髪はラストシーンくらいの

ただ髪が真っ赤なわけじゃなく黒に近い赤、室内だと気にならないレベルだが太陽光浴びるとアウト。外見最強

引きこもり気味の主人公は知らないほうがいいかもしれない……

本多忠勝の家計の子孫、名前も彼から

奔放な性格だが一応礼儀は弁えてる……はず

近接戦闘に強くそのデカイ図体を生かして力こそパワーな戦い方を  
する。主人公の兄が技巧派なのはこいつに力で対抗するのが無理だ  
つたため

遺伝学的におかしなくらい美人な姉がいて主人公の兄の警護を担当  
している

ちなみに強さ関係は

兄：トキ

忠篤：ラオウ

主人公：ジャギ

くらいの力関係

（強さ関係ってだけで兄と忠篤がトキラオウ並ってわけじゃないです。斯衛最上位だが月詠中尉に及ばないくらい。將軍の双子の妹で危険な立場にいる冥夜の護衛任されてるくらいだから月詠中尉は紅蓮爺のようなチート除いて斯衛最強だと思っす）



## 第9話 任官したけど軍らしいことは特にない（前書き）

ほとんど原作機と同じ改修機はオリ戦術機に入るんでしょうか？  
タグ入れた方がいいのか入れなくてもいいのかわかりません

どうでもいい設定ですが

頭のよさ（知能指数＝IQ）は

香月博士（200くらい）

うさぎ（180くらい）

主人公（160くらい）

となっております

最初に主人公は自分のことを180くらいあると思ってましたが前世ならそうでした

オルタ世界は月基地やら戦術機やらいろいろぶっ飛んでるので、平均が前世世界でのIQ120相当あるとしています

つまり香月博士はこっちで言うIQ200越えの立派な人外ですね

うさぎが高すぎると思つかも知れませんがリーディングの性質と目的上、IQは遺伝子交配の時点で最高になるようにしていると作者は思っています

リーディングするからには相手と同じくらいの思考速度ないと追いつけないですから、特に人類以上の技術持つBETAをリーディング

グする目的なら頭よくないと……

最後の方なんか因果律量子論理解してるかのような発言してますし

クリスカとイーニヤですが、きっと期待されたIQに届かなかつたから衛士として訓練されたのではないかなあと思ったり

以上は完全に作者の妄想なんでそこはご理解を

## 第9話 任官したけど軍らしいことは特にならない

1989年

イーグルの技術検証が終了

第2世代の傑作機であるイーグルの優れた機動性、拡張性に驚いた軍は次世代の国産機までの繋ぎとして改良機の本格配備を決定

T S F - T Y P E 8 9 陽炎が正式名称に

85式OS搭載近接戦闘対応型として各部強化されている

又、陽炎と瑞鶴のD A C Tを実施

近接戦闘は互角、遠中距離戦闘は陽炎が優位と評価された

陽炎は瑞鶴のように本格的に近接戦闘に強化されているわけではないにも関わらず互角であったため、斯衛は陽炎を近接改修して試験配備することに決定

1990年

15才になりついに斯衛の任官して少尉に。任官式で久しぶりに將軍に謁見したけど人の良さそうな爺さんにしか見えないんだよな

研究者として帝国技術廠に出向することが決まっていて、そっちは技術中尉扱いとなる

有事の際は斯衛の第11大隊の第2中隊に組み込まれる予定らしい

.....

「以上5年間をダイジェストでお知らせしましたっ」と

「技術廠への顔出しは終わらしたんですか？」

「挨拶まわりは先日までに終わらしたぞ」

「結局第壹と第貳のどちらに？」

「第壹になりそうだったけど、この5年間の結晶の電磁投射砲の試作設計図見せたら目の色変わってたから多分第貳にいける。ちなみに先行入力のおSは水戸さん開発って言って提出したからよろしく」

「またですか……、最近技術廠に戻って声が増えてきたんで自重

してください」

「戻ればいいじゃない」

「ここが快適なんでお断りです。開発資金自体は特許料から出せますしね」

やっと15才になり斯衛にも任官したんで自分から動けるな  
さつき会話で出た第壹、第貳つてのは帝国技術廠の第壹開発局と  
第貳開発局のことだ

68

第壹開発局は戦術機開発を行ってて、一応85式OSの発案者つて  
ことで所属が第壹になりそうだった

正直なところやるにも予算に頭悩ましたり、シミュレーターうごか  
すのにも許可があるとこでOS開発はやりたくない  
水戸さんもそれが理由でここにいるんだろう  
だいたいOSはもうコンボまで出来てるから後はCPU待ちでやる  
ことないからなあ

とりあえず先行入力搭載OSを試作OSだとして水戸さん開発とし  
て提出しといた

基本プログラム以外、例えば即応性の向上のための最適化などは水

戸さんがやってるからあながち間違いでもないしな  
よく見ると発案者のとこにだけ俺の名前がのってる

一般衛士の底上げのOSという主旨のもと俺のデータと共に提出し  
といたから上手くやってくれと期待しよう

手続き考えたら85式のときほど早くはいかないだろうけど、早ければ92年くらいからは先行配備くらいには持ち込めるかも

第壹では既に不知火のような戦術機が組まれてて各種測定がされてたのには感動した。まだ細部が違ってたけどあれは間違いなく不知火、記憶でも一番活躍してたし早く完成品が見てみたい

武御雷は流石にまだ設計段階だろうか？並列して開発中の陽炎の改修型は見たけどそれらしいのはなかった

第貳開発局の方はというと戦術機の武装関連の開発である。電磁投射砲を何とかしたいのでこちらに行けそうに幸いだ  
決め手となった設計図はかなり苦心したもので、足蹴にされてたらシヨックで寝込んでたと思う。この5年間遊んでたわけじゃないしな

設計図つてもそのまま採用されることなんて絶対はない

まずでかさが試製99式電磁投射砲の倍以上ある。その上横浜製のブラックボックスがないせいで外部電力に頼らないといけないから

携帯兵装としては欠陥品なのだ

よくてアイデアのいくつかが取り入れられるくらいだと思う

そしてついに、本来の史実通り本格的なBETAの東進が始まった

……

BETA戦争の最前線の国々の戦術機に85式OSが搭載されたからと言ってBETAの進軍にはほとんど関係なかったからな

まあそこは予想通りと言える

戦術機はBETAを殲滅出来るなんてことはなく、BETA撃破数でいえば戦車・自走砲・MLRSなどによる面制圧が圧倒的に多い。

高度のコンピューターを搭載し有人兵器でありさらには空間飛翔体である戦術機は、いわばBETAに対する撒き餌なのだ  
簡単に言えば戦術機で上手くBETA集めて砲撃で纏めてドカンである

それに生存性が上がったところで極度の状況下で戦う衛士が長時間戦闘出来るわけじゃなく、結果としてBETAの物量に対して後退を余儀なくさせられるしな

「戦いは数だよ」とどこかの中将も言ってたがまさにその通りだ。

とまあ、このまま進むとBETAは史実通り1998年の夏に日本に上陸するだろう

死亡フラグ回避のためには出来る限り手をつたないと……



第9話 任官したけど軍らしいことは特にない（後書き）

話の展開はだいたい考えてるけど上手く文章にできない不具合

文才をインストールしたいです

第10話 アメリカエ……（前書き）

携帯重くなったんできりのいいところで投稿

第10話 アメリカ.....

1991年

大陸の状況を鑑み軍の大陸派兵が決定

香月夕呼、17才にて因果律量子論を発表。これがオルタネイティブ計画の委員の目にとまることになる

先行入力搭載型OSの試験配備が開始される。先行入力機能は技量によりONOFF切り替え可能

.....

「新OS上手く試験配備まで進んでよかったよ」

「一般衛士には一様に効果あることがわかりましたからね。軍の底上げを狙ったんでしょ」

大陸の戦況の悪さから焦ってるのかもしれないが」

「でもやっぱり局を通すと遅くなるよなあ」

「そういう決まりなんですから仕方ありませんよ。あれでも早い方です。電磁投射砲の方はどうなんです？」

「アイデアがいくつか取り入れられて今試作品を作ってる。ただ戦術機がもてるようなもんじゃないがな……」

「巡洋艦の艦載砲にするって案も出てたと聞きましたよ」

「どこからその情報手に入れたんだよ……。一応電磁投射砲関係は機密だぞ」

「それはどう、コネってやつですよ」

こういう時はこの人実は凄いつて思わされるよな。

新OSは試験配備始まり問題ないか、このままだと2年以内には本格配備始まるだろう

軍としても大陸派兵が決まったから対BETA戦での効果が知りたいはず

恐らくそれが理由で異様に早い試験配備になったと考えるもいいかもしれない……

電磁投射砲の方はもともと開発進んでたこともあり、年内には試作品が組み上がる予定だ

耐久性の問題が俺のアイデアのおかげでブレイクスルー出来たとか、そのせいで滅茶苦茶感謝されて驚いた

予定される能力は120mm弾が毎分15〜45発、射程が1000kmを超える

巡洋艦に搭載されるって案は巡洋艦サイズなら2つガスタービン機関を搭載することで電力が賄えるからだ

それに水上ということもあり液冷を採用することができるのもでかい  
予定通りの性能を発揮できるなら戦艦の主砲の装填の隙を埋める役割や、BETA相手の上陸戦での高架橋確保のための援護射撃が期待されている

一応戦術機での兵装って案もちゃんと残っているがこっちはまだまだ現実性がなく、何らかのブレイクスルーがないとどうしようもない

「まあ、試射してみないことにはわからんさ」

「上手くいくといいですね」

ほんとにその通りだわ……

……

1992年

スワラージ作戦発動

国連主導のもとボパールハイブに対して大規模な反攻作戦が実施されるが失敗

インド戦線は修復不可能くらい瓦解することになる

日本で先行入力搭載OSが配備開始

大陸派兵にあわせてのことだと思われる

それと同時に海外へ92式OSとして発表

それに対抗したのかアメリカは次世代OSとして戦域支配OSとの名を冠する新OSをイーグルでの旧OSとのトライアルとともに発表  
新OS搭載イーグル中隊が旧OSのイーグル中隊を蹂躪する映像は  
各国に驚愕とともに受け入れられた

.....

「ねーよ……」

「やられましたね、完全にこちらの逆をいかれました。日本のOSの方針が戦術の接近戦を主とした個体能力の上昇を主とするのに対して、あちらは遠中距離戦での集団戦闘を主としたようです」

「太平洋戦争の時の焼き直しだな……、ゼロ戦に対するF4Fのサツチ戦法のようなもんだろ」

「あのトライアルに対してアメリカの軍の高官が『まるでマリアナだな』と言っていたとか」

「マリアナの七面鳥打ちか？確かに遠中距離からの射撃戦で相手を完封するさまはそう見えてもおかしくないが……、日本としては面白くないな」

「軍部は憤慨していたとか……、しかしこれでOS産業がどうなるか予測出来なくなりそうですね」

「各国の反応も気になる。下手すると日米でOSの開発競争になるかもな……、水戸さんも技術廠の強制徴集を覚悟してた方がいい」

「ここが好きなんです。強制徴集には逆らえませぬ……」

「にしても対処能力のアメリカの本領発揮だな、世界最強国家なだけあるよ」

問題のアメリカの戦域支配OSとは以下のような仕様だ

ベースはなんと85式OSである

しかし新機軸であったキャンセルは取り除かれて使われているのは俺が旧OSを整理整頓したあれである

恐らく整理されたOSの発展性の高さに目をつけたんだろう……。旧OSはごちゃごちゃしてて手を加えずらかったからな

そついう意味だと今回ののは自業自得と言えるかもしれん。しかし、考えようによってはOS開発の加速がされるからXMM3に近いものが予定より早く完成するかもだし、そもそも人類戦力の底上げになるから歓迎すべきだな

で、その整理されたOSに戦域支配OSの主軸となる機能を追加したわけだ。ちなみに整理されたOSは既存のものを整理しただけなので特許とかきかない



まずこの根幹をなす機能は戦域管理システムと呼ばれるものだ

これは戦術機間のデータ共有を今までより密にし、個の戦術機の口ツクオン状況などにあわせて、フリーな敵の警告や。部隊全体からみて穴になつてゐる戦域をわかるようにしたものである

これにより効果的に敵を追い詰めることができ、さらに奇襲攻撃なども防げるのだ

次にあげるとすれば高度ターゲティングシステムとされるもので、これは今あるロックオンシステムをさらに進化させたものだと言える

低速時には今まで通りのシステムで精密射撃ができるように遊びがある

しかし、高速起動に入るとロックオンが自動化され、今まで射撃適性にすぐれた者にしかできなかった高速起動状況での射撃を一般衛士にも可能となるようにしたのだ。

射撃適性の高いものは機械を越える射撃を出来るものもいるため、先行入力のようにONOFFができるらしい

そして最後にあげるとすれば兵装管理システムだ

これ自体は簡単なものでメインアームが保持してゐる武器が弾切れに

なると兵装担架のサブアームが予備武器を構え、致命的な隙を作らないようにしている  
その間にメインの武器の装填をすませるのだ

他にもせよ機能はあるが、主要なのはこの3つと言える

第10話 アメリカエ……（後書き）

チートオブアメリカ

実際にアメリカは最強の軍事国家であり対処能力も群を抜いてるからこのくらいやってくるだろうと予想しました

XMシリーズを見てアメリカが何もしないなんて有り得ないと思います

このSSで書きたかった一つがこれだったり……

このOSがラプターに詰まれたら集団戦闘じゃ負けないと妄想します

ラプターによる高速起動で正確な牽制射撃しながら、味方が低速域での精密射撃で落とす

しかもレーダーに移りにくいのが相手からしたら貯まったもんじゃない

完璧に対戦術機のOSですがオルタ5による戦後世界見てるアメリカならありえるんじゃないかと

妄想設定考えるの楽しいお……

第10話(前の続きです)(前書き)

続きなんで短いです

## 第10話(前の続きです)

「にしてもこれでもかってくらいこっちのOSを意識してるよな」

「それだけ86年のDACTが驚きだったんでしょ。」

太平洋戦争の初戦の二の舞は避けたかったとも考えられます」

「誰がBETA戦争の最中にあの巨大国家に喧嘩売るってんだ……。んなことするのは正真正銘の馬鹿だね」

それにしてもこれでもかってくらい射撃重視のOSだな。しかも基本的に多対一での戦闘を考えて作ってるっぽいし

『戦術機対戦術機の戦闘を考えてます』って言ってるようなものじゃないか

まあ前線国家には受け入れられないだろうし、日本製OSのシェアがなくなることはないな

だいたいどう考えても弾をばかすか使うような戦い方はアメリカらしいっちゃらしいが対BETA戦争じゃ微妙すぎる

どう考えても弾足りなくなるし近接戦出来ないのはアウトだろ

まあ、後方国家ではアメリカ製が好まれるかもしれないしそこら辺

りは住み分けになるだろう

そもそも白銀武がX M 3の参考にしたロボットゲームって1対1、多くて2対2で対戦するゲームだったよな？しかも近接格闘の割合も多かった気がする

正直なところ射撃戦でコンボなんて使わないだろ。複雑な入力いらないから先行入力すら必要かどうか怪しいし

ただ接近戦ではまさに革命的と言える。コンボ使えば剣術の型すら再現出来るんだから日本の特に斯衛じゃ価値が段違いだ

「実際戦ったら負けるだろうな……」

「個別での近接戦に持ち込めば圧倒出来るでしょうが、そうさせないためのOSですからね。集団戦闘では負けるでしょう」

「まあ、有り得ないこと考えても意味ないな」

「今や同盟国ですから」

いや、この世界でも12・5事件起こればあり得るんですけどね…

今の状況じゃそんなこと想像できないよ

にしてもこの時期にOS発表したのは日本への対抗もあるだろうけどぶっちゃけG弾の影響だろ

史実通りなら去年完成して、それでF-22懐疑論が発生するんだっただな……

影響縮小を恐れた戦術機業界が世論味方につけるため軍に働きかけたのかも、アメリカ市民はG弾の威力なんて知らないだろうし目に見える戦術機の方を支持しそうだ

「それにしてもアメリカ製のOSが動くCPU、性能良さそうだなね」

「あの国は資金規模が違いますから……うらやましいですがないものねだりです」

「あれ使ったらコンボ動きそうなのに」

「国産にこだわる軍部が許可すると思えませんね」

ぐう……、せめて斯衛だけでも高性能CPU使えるように国内企業に働きかけるか

今やかなりの株主だから無碍に出来ないだろ

コスト考えなければ国産でもあれくらいのCPUが数年で出来るはずだ

金に糸目つけない斯衛なら性能証明出来れば採用されるに違いない

んじゃ次の総会参加したときにも頼んでみますか……



少し質問です（次話以降の展開に関係します）（前書き）

マジ米軍チート自重

少し質問です（次話以降の展開に関係します）

10話で書いた電磁投射砲搭載の巡洋艦が強過ぎるかもしれません

この巡洋艦は現実のアメリカ海軍が作るうとしてるやつを参考にします（投射砲自体の試射も実際にやっています）

事実は小説より奇なりになって調べて驚きました

作中の仕様は実際のアメリカ海軍に習い（砲径は勝手に設定）

艦載型 120mm電磁投射砲

発射速度 マツハ

毎分 10発

有効射程距離 200km

弾頭は約 3kg

にしたんですがこれだと強過ぎ？かもしれないです

この巡洋艦が海岸から30km離れたところからこれを打つと

弾頭到達時間 12秒

到達までの弾頭落下距離 120m

巡洋艦の海面からの高さを20mとすると水平線までの距離が約15kmなので30km以上離れると重光線級が打てなくなり安全に砲撃できます

30kmで落下距離が120mなんてほぼ水平に弾が突き刺さることになり、味方を打てない光線級を盾になってるBETAもろとも粉砕できます  
つまり光線級キラーになりうる  
チート過ぎる……

とりあえずの制限案は

莫大な建造費がかかるってことで4隻ぐらいの登場に抑える

砲身の寿命が短い

m の2つなんですがいい案があったら教えて欲しいですm(´`´´´)

第11話 幸せは歩いてこないがBETAは歩いてやってくる(前書き)

様々な意見ありがとうございます  
意外と見てくださる方が多くいて驚きです

運用時の話で参考にしたいと思います

艦船での電磁投射砲運用自体に否定的な意見は少なかったのですが本文のような感じでいくことにしました

後半ちよつとご都合主義入ります

第11話 幸せは歩いてこないがBETAは歩いてやってくる

1993年

全欧州陥落

試作電磁投射砲の試射成功

それに伴い電磁投射砲の運用を想定した試作巡洋艦建造計画『暁計画』発動

動力はガスタービン機関を2基、武装は艦載型120mm電磁投射砲1基搭載予定

この試作艦艇は長期運用を見越した原子力艦艇を建造するための運用データの収集を目的としている  
建造予定数は2隻

純国産の第3世代戦術機『不知火』配備開始

史実の不知火より1年早く配備されているが機体性能自体は史実に対して85%くらいしかない  
92式OSにより突き詰めた設計でなくとも軍の要求仕様を満たせたからである。そのため建造数、拡張性が史実より少し高い

重慶ハイブ建設

BETAの東進激化

大連へ迫る大規模BETA群に対して中韓連合による九・六作戦発動。帝国軍の大陸派遣軍も側面支援で参加するもBETAの奇襲にて2個大隊壊滅  
大連侵攻は核地雷をもって阻止

.....

「世界はBETAで潤ってるが俺の人生に潤いがない件について」

「金なら腐るほどあるじゃないですか」

「そういう意味じゃない」

斉御司和志です。名前忘れた方もいるかもしれませんが18才になりました  
人生に潤いがない件についてライフカードの支給を要請します……

日々の暮らしは

朝早く起きて本多と道場で体を動かす  
技術廠に赴いてムサイ中年男たちと研究  
帰宅して水戸さんと研究or本多と道場  
ちなみに移動の際は本多が常にそばにいる

このパターンにたまに通信を用いたシミュレーターにより斯衛での  
連携訓練が入ったり、五撰家としての公務が混じったりがある

私生活に全く華がない

まだまだ軍部は男社会だから……。帝国軍は男比率が8割くらい  
だし、閉鎖的な斯衛はまだ女性比率高いけどシミュレーター越しの  
訓練しかないっていうね

まあ、斯衛入隊当初こそ女性衛士の強化装備に鼻血ものだったが3  
年もたてば慣れてしまう。それでも斯衛での訓練はささやかな癒や  
しだ

「その様子ならもう大丈夫そうですね」

「もうだいぶマシだ。それに、前線の将兵に笑われたくないからな  
……………」

この会話だけだと言ってるかわからないだろうが、実はここ1ヶ  
月不眠症気味で先日まで睡眠薬のお世話になっていたのだ

対BETA戦における戦術とそれに伴うOS改良計画のせいである  
これは大陸でのあまりの被害状況のひどさに軍から技術廠にも対応  
策を求めてきたことから始まる

その一環として前線の状況を持ち帰ったデータを見たんだか正に地  
獄絵図だった……。その後は夜な夜な将兵の断末魔やタンク級が何  
かを咀嚼する音が脳内で再生され眠れなくなったので薬に頼ることに  
前線の将兵からしたら失笑ものだが前世では小市民の俺からしたら  
許して欲しいところである

「しかし技術廠でOS改修することになるとは、せつかく電磁投射  
砲の試射も終わったのにあんまりだろ」

「投射砲はいなくても完成出来ると思われたのでは？戦術機用は目  
処なしですし、それならOSの方がとなってもおかしくないかと」

「そもそも、水戸さんがOSのことバラさなきゃこんなことには…  
…。そんなに強制招集嫌だったのかよ」

「死なばもろともというやつです」



そう、この人技術廠にバラしやがったのだ  
巻き添えとか勘弁して欲しいんだが……

「その上特許のこと黙ってたしね」

「それは勘違いしてたあなたが悪いんです。だいたいOSのことで  
周りからいろいろ言われて困ってたんですから迷惑料ですね」

「どこの世界に0が8個以上ある迷惑料があるんだよ。  
金返せ」

「ここにありますが、法律上私の金です。諦めてください」

まあ、返して貰っても使い道は一緒だしどうでもいいんだが……

85式OSの既存OS整理した部分に特許きくとは知らなかった。  
つまり水戸さんに入る金は変わらないが俺のは減るのだ  
そこは釈然としないものがあるがやはりどうでもいい

そう、どうでもいいのさ……

俺の日常はまあこんな感じだが、日本では純国産の第3世代機が配備された。他にも巡洋艦建造計画があったり重慶ハイブが建設されたりあったが一番はこれだろう

史実より1年早く配備されたことを考えると当初の予定通り進んでいると言える

ただ早期配備だけあって機体性能は史実より低いんだよね……。OSと合わせて同じくらいといったところか

まあ、史実の不知火が打撃力が高いが継戦能力が低い（旧OSで死にやすいから）機体に対して、この世界の不知火は打撃力が弱まっているが継戦能力が高い（新OSで死にくい）機体なので衛士からしたらこっちのがいいと思う

突き詰めた設計じゃないせいで機体の量産性と拡張性があってるし、史実と違い後々改良機とかも出やすいかもしれない

この調子で武御雷も早まって欲しいとこだ。

そのためにもせよOSを底上げを今は頑張ろう……



第11話 幸せは歩いてこないがBETAは歩いてやってくる(後書き)

不知火いじりたいでござる……

ご都合主義で不知火の開発余地を

あと主人公が死の8分越えれるようにこじつけ話もいれました

キリのいいところで投稿したんで後半に続きます

携帯だと面倒くさい

第11話 続きです(前書き)

前回の続きで主人公の考察のみなんで会話とかはありません

## 第11話 続きです

電磁投射砲搭載巡洋艦のほうは計画が軌道にのったからいいとして問題はBETAか…

重慶ハイブがついに建設されてしまった

史実の日本はここから侵攻してきた大規模BETA群にやられたはず……

介入によるBETAの行動がほとんど変わっていないことからこの世界でもそうなる予想できる

それに侵攻の日である7月7日は鑑純夏の誕生日だ

このような重要な因果の日がそうそう変わることはないはず……

だからと言って西日本に警告出せるかと言つと不可能だ

まだまだ『日本は大丈夫』という考えが蔓延つてるし、危機感持つてる一部の知識人でさえも後数年で侵攻があるとは予測してないだろう

それに警告による市民のパニックなども予想されるし政府が許可出すとは思えない

ここは身内から変えていくしかないか？

父に九州に工場などを持つてる関連企業に工場の移転を持ち掛けて貰うのとかどうだろう……

実際リヨンハイブから侵攻されてる英国の例えを出せば、このままじゃ大陸から一番近い九州は危ないと説得できるはずだ

『東北の再開発のための地方投資』とかなら政府も許可だすんじゃないだろうか？

北海道は樺太で大陸と近いから九州と同じ理論でアウトだしな

九州から関連企業が徐々に撤退仕出したら周りの危機感も徐々にあがってくだらう

史実の政府が九州に第2種避難勧告出すのが96年だからそれまでには市民の認識変えたい

史実で避難勧告出されてたのは見て驚いたからおぼえていた。きつと避難勧告出ても楽観論で避難進んでなかったとかだらうな……

せめて沿岸部だけでも避難して貰わないと防衛体制が整わない、1週間で京都まで来られたら斯衛による京都防衛3ヶ月の死闘が繰り広げられるんだ……

死亡フラグ回避のためにもこれだけは絶対に避けないと

重慶ハイブ建設の他でBETA関連と言ったら九・六作戦だ  
中国なんて核地雷使ってるんだし前線は想像を絶する状態だったの  
が嫌でもわかる

しかも日本の大陸派遣軍もOSで戦術機の性能があがってるにも関  
わらず史実通り2個大隊が壊滅した。

『2個大隊壊滅したから軍が撤退を決意した』と考えられるかも知  
れんが、理由をそれだけだと考えるのは楽観がすぎる

とにかく理由を考え解決策さがさないと……

そのために第壹開発局に呼ばれたわけだしな

まず考えられる理由（主にこれが原因だろう）がBETAの奇襲に  
よる将兵のパニックだ

パニックによる思考硬直や混乱中にやられたんじゃないかと思う

特にこの新兵の部隊の報告なんか正にそうだろう

初陣の新兵の部隊がBETAの奇襲にあい光線級により1名を除い  
て全滅とある

ていうかこれ『贖罪』のあれだよな？ మరిもちゃん史実通り大陸い  
つてたのか……、あれは正にパニックによる思考硬直だよな

機体性能があがったところで衛士が動かせない状況におかれたらやら



れるよなあ

機体性能あげることばっか考えてて衛士の精神状況なんて盲点だったわ

まあ、光線級の対処自体は簡単に思いつける。佐渡島の作戦のとき武ちゃんが切ってた緊急回避システムである

『贖罪』のときになかったことから考えて、今の状況のように対策考えられて実装されたに違いない

答えわかってる分早めに提案して実装出来るだろうしカンニングは楽だわ

とまあ、これからは衛士側の問題点の合わせて考えないといけないか……

戦車級なんて特に対策必要だろう……あれが一番衛士食い殺してるBETAだし  
機体に取り付かれてパニックになる衛士がかなり多いと報告書にもある

俺だって戦車級はNo Thank youだ。死ぬならまだ光線級や要撃級の一撃で一瞬の方がいい

しかし、数の権化である戦車級にまともな対応策あるんだろうか…  
…？

第11話 続きです(後書き)

今回はBETAに対する対処とかの話になるかも？  
ただまだ書いてないので決まっています

戦車級に対する具体的な案が思いつかない……。思いついても問題  
点多かつたりでやっぱり原作のが一番なのかなあとループしてます

まりもちゃんはだいたい史実通りに

あれって機体が違っても同じ結果になるだろうなと思いきょう書き  
ました

第12話(前編)

愛をとりもどせ(前書き)

前編

巡洋艦の名前を

「若林」と「若島津」にしようかと思っていたり

日本守るならこの2つしかないでしょう。BETAに「ゴールはさせません

もとネタがわかった人は握手

年がバレる……

第12話（前編）

愛をとりもどせ

1994年

インド亜大陸陥落

インドを占領したBETAは東進を激化、以後中国戦線は泥沼の様相に

日本、徴兵年齢の引き下げを決定

後方支援限定の学徒志願兵の募集開始

香月夕呼、20才で国連に召集。因果律量子論の検証推進

.....

「ふふふ……、ついに企業に作らせていたCPUが我が手に」

「企業側も結構乗り気で『今の技術で最高のものを作って見せます』と張り切っていましたからね」

「金に糸目をつけるなと言ったからな」

先日やっとコンボまで動くCPUが届いた（XM3のような即応性上昇はありません）

これで即応性上昇をのぞいたXM3の機能が再現出来る……

XM3は機能再現してさらに即応性3割もあげる化け物CPU使ってるが、あれはオルタ4の世界規模資金力と夕呼先生というリアルチートのなせる業だ

普通即応性数%あげるのにもCPUの世代交代待たないといけないのにな……

「プログラム自体は組んでたものをインストールして、あとはバグとりするだけだな」

「バグとりは私に投げるだけでしょ」

「水戸さんとシミュレーター動かせないし」

なんで二人しかいないかというところのCPUは私費で手に入れたよ  
うなもので、技術廠とは関係ないから自由がきく斉御司家の研究室

の方を使ってるからだ

「それより手に入れて欲しいものあるんだけど……」

「なんです？」

「それは……」

……

……

……数週間後……

やっとここまで来た……

コンボまで搭載したOSが出来るまで幾星霜  
様々な苦難があった気がするが感無量である

ただ特注品のCPUなので軍に配備するとなると何年かかることや  
試験配備とかもあるしな

即応性の方はもうオルタ4待ちでどうしようもないからOSはこいで頭うち  
無理して頑張っても即応性10%もあがらないだろうし……

とまあ、新OS出来たからには日頃の復讐をかねて本多に仮想敵やってもらつかね……

兄にも頼みたいがあの人柄もエリートだけど腕もエリートだから24才ですでに隊率いて忙しいんだ

「本多く、模擬戦しようぜ」

「貴方は中島君ですか……」

「ん？」

「いえ、国民的テレビ漫画の話です。気にしないでください」

え…、あのアニメこっちでもあるの?! 知らなかったんですけど

「まあ、とりあえずシミュレーター室行こうぜ」



.....

.....

.....シミュレーター室にて.....

「そこっ!」

「くっ.....」

やはり実力差が有りすぎるな。でも接近戦になるまでこれは使えない  
兄と似て接近戦で片を付けたがるから待つしかないが……

(様子見の射撃戦にじれて本多が長刀を構え突っ込んでくる)

「近づいてしまえば終わりですっ!」

やはり、段違いに強いつ！兄と違って勢いで押しまくってくる……。そろそろ使わないと負ける！

「これで最後！！」

「なんのこれしきっ、」

(あらかじめインプットしておいたコンボをここにきて入力)

「じ……この動きは！！」

(主人公の瑞鶴の動きに兄である宰の動きを幻視する……)

「っ………宰様！！」

「天に還る時が来たのだ」

(調子にのって瑞鶴で天を指差すコンボを入力)

「ふふ……、何の手品を使ったか知りませぬがこれでも和志様に剣を教えた身、この忠篤に1日の長があります!!」

……

……

「やはりジャギでは伝承者には勝てないのか……」

結局負けてしまった……、まあ兄と互角な忠篤に兄の動き使ったところ所詮は付け焼き刃だよね……

(水戸さんに手に入れてもらったのは兄の操作ログです)

「宰様の動きをされた時は驚きましたが間合いの取り方などがまだまだ甘いです」

「カスった時はいけると思ってたんだけどなあ」

結局小破はさせられたけど負けてしまった。キャンセルの時は兄と相打ちだったのにどうしてこうなった

「まあ、確かに何度かヒヤリとさせられましたけどまだまだ精進が足りませんね」

「まあ新機能使っただけだけだな」

「それ使えば剣術の型が使えるのですか？」

「まあ、そういうこと。複雑な入力を使う動きを簡単な入力で済ませられるようになる」

「そりゃ便利ですね。」

ところでそろそろ行きませんか？」

「行くってどこにね」

「道場に決まっています。まだまだ甘いことが自覚できたでしょう？」

間合いの取り方というものを教えて差し上げます」

「それは勘弁してくれ……」

第12話(前編)

愛をとりもどせ(後書き)

パロネタはクロスとしてタグにいれるべきか否か

第12話（後編）    BETA戦線異常なし（前書き）

ひさしぶりにまとめwikiを読んだらだったので

これって大丈夫なのかな・・・

## 第12話（後編） BETA戦線異常なし

これでOSは当初の予定通りのものが完成したので、あとは技術廠に提出すればおわりだ

ただ全軍配備するにはあまりにも高価なCPUを使ってるので、將軍を守護するという名目のもと装備にかかる費用に糸目をつけない斯衛なら運用可能かもしれないが、帝国軍は配備されるとしても不知火から、しかも一部エリートのみでの配備になるだろう

94年に入りBETAのほうも動きを増している

インド亜大陸の陥落にともない大陸の戦線は泥沼だ  
日本の大陸派遣軍の被害も甚大で、徴兵年齢の引き下げや志願制であるが学徒動員など太平洋戦争のときさながらの末期戦の様相を呈してきた

そのことからBETAへの対策が急務とされ自分たちもあの手この手で対策を考えている

当然のことではあるがまずは他国が採用している案を参考にすることが考えられた



まずは対戦車級のリアクティブアーマーである

『現実のリアクティブアーマーとは異なり、クレイモアに近い機能を持つ。』

制式装備として採用しているのは、イスラエルのラビとその仕様を受け継いだ殲撃10型のみだが、その生存性の高さから現場では人気の装備。制式採用が見送られている理由として、周辺の味方機に損害を与える、取り付け箇所によっては自機も壊すなどがあるが、一番の問題はその重量で、運動性や機動性を殺してしまう。そのため、ラビや殲撃10型でも重要個所にしか付けられていない。（まとめwikiより）』

同じく戦車級対策であるCIDS-Mk1 ジャベリン

『A-10 サンダーボルト?に装備されているジネラルエレクトロニクス社製近接防護システム。』

機体に取り付いた戦車級を爆圧によって高速射出されるロングスパイクで撃破・排除するシステム。』

ロングスパイクは瞬時に引き戻され、連射も可能。この防御兵装は、装填された炸薬ペレットが続く限り作動し続けて機体の生存性を大幅に向上させる反面、総重量が著しく増大するため従来機への採用は見送られている。（まとめwikiより）』

これらの案は上記運用面の問題で撃震になら装備可能のレベルであったが撃震は耐用年数が迫っており次世代機も順次配備されている軍では、今更撃震に膨大なコストをかけて改良することに懐疑的で、不知火を主とした次世代機でも供用可能なもので対応策を求めているので採用はないであろう

やはりお上は戦争を数字でしか見ていなく現場を知らないのかもしれない

まあ不知火などの次世代機でも応用できる装備というのは賛成できるがまだまだ前線は撃震がほとんどなんだが・・・

『戦車級など気合いで引きはがせんのか?』などといった精神論で現場語ってるのは流石にいないと思いたい

歩兵携帯並、具体的にはM2ブローニングなどを戦術機に搭載すればどうか?などの案も出たが

戦車級にやられる場合には戦術機にたかる戦車級の数はそのような兵装では排除が間に合わないほどの数となっており、救出できる状況なら従来通り短刀で処理するのが一番だとなった

別規格の兵装をつけるくらいなら突撃砲の装弾数をあげて戦車級を浸透させないようにしたほうがいいのだ

BETA最大の脅威はやはりその物量なのである

対レーザー級に関しては不知火には標準装備されている対レーザー蒸散塗膜加工を従来機にも施したり

前話で書いた回避システムである

このシステムはOS関連でもあるのでこちらでやることになると思う  
その他にも地上にいるときのみだが、光線級が部隊に対して予備照射がはじまると制圧支援が自動的に92式多目的自律誘導弾システムからALMを発射し照射をそらすなどの案がある

ただ跳躍中に関しては回避システム以外の具体的な対策は出されなかった

戦術機以外では電磁投射砲搭載艦船が電磁投射砲の性能から対レ

ザー級に対する切り札にと期待されている。しかし、これも沿岸部からせいぜい内陸に100kmくらいまでしかつかえず地形にも左右されるので限定的なものでしかなく、そもそもまだ実戦証明もされてない代物だ

BETAに対する戦術機の戦術や衛士のパニックなどの対策は技術廠とは管轄がちがうので問題点をあげることぐらいしかできない。というかこつちが忙しくて口だせないが正解なんだが・・・

なんだかんだいって他部署は予算奪い合うライバルだからな。派閥関連の問題もあるし『みなで歩をそろえて一緒に』なんて無理のある話なのさ

「いろいろ考えても問題のない対策なんてほとんどないな」

「そう簡単にBETAに対して有効なものができるなら、そもそも人類はここまで劣勢になつてませんよ」

「それもそうだが・・・やはり最大の脅威は物量か。BETAだけに効くウイルスとかあればいいのに」



第12話（後編） BETA戦線異常なし（後書き）

前回と違ってシリアス？な展開

次から95年なんでやっとオルタ4始まる

なんかその年であること書いてないことないか心配になる

あと後判明して困らないかこわい

だんだんと年ごとの出来事が多くなってきて混乱します

第13話 動き出した歯車（前編）（前書き）

ついにオルタ4開始

### 第13話 動き出した歯車（前編）

1995年

次期オルタネイティヴ計画が日本案に決定、オルタネイティヴ3の結果を接收しオルタネイティヴ4が開始される

オルタ4、白陵基地を接收し000ユニットの選定者候補の受け皿として訓練校を設立

日本、18才以上の未婚女性が徴兵対象へ

国連、世界人口が大戦前と比べ半減したと発表

米国、F-15Eストライクイーグル配備開始

主人公20才に、又今までの功績を認められ斯衛中尉に昇進（技術廠では技術大尉に）

大陸帰りの中佐が技術廠に赴任してきた  
不知火の改良計画に参加するらしい

『大陸帰り』

最近使われ始めた言葉で大陸派遣軍の本土帰還組に使われる

BETAとの地獄のような戦いを経験した彼らは一目でわかるほど  
雰囲気違っており、眼光も「壮絶な覚悟を持った眼」とでも言え  
ばいいのか……、本土残留組とは違った眼差しをしている  
また、地獄のような前線での記憶がPTSDになり精神が不安定と  
なった将兵が犯罪に走ったりする社会問題も最近出始めた

原作ではこんなこと記されてなかったが、裏ではこのような問題も  
あるか……

とまあ、問題の中佐もこの大陸帰りである  
ぶつちやけTEの巖谷中佐だ

なんだかんだでこの世界でも伝説のテストパイロットとして有名人  
である。アメリカに傷付けたのは日本人にとっては爽快だったんだ  
ろうな……

そのせいでイーグルの改修機が斯衛に試験配備のまま採用されなか  
ったので何とも言えない気分である



斯衛曰わく、イーグルは瑞鶴に及ばない軟弱な機体なんだとか……  
実際接近戦だけで言えば重く安定性のある瑞鶴の方が戦いやすいからな。打ち合えばイーグルの方が分が悪いので、どうしても回避重視になりそれが軟弱に見えるらしい

中佐はTEの原作通り顔に傷こさえていて、『外見最強』が俺の中で忠篤からこの人に変わったくらい見た目がコワイ

性格は娘のような関係のTEヒロインに甘い『いいおじさん』らしいが他人からしたら「ほんとかよ？」と疑いたくなる

TEの篁唯依に浮いた話がなかったのは本人の性格もあるだろうが、間違いなくこの人も一員に違いない……

篁家は黄色の格式高い家柄だし、保護者が伝説のテストパイロットで強面なら大抵の日本人男性は萎縮するだろう

それこそ、そういうのをものともしない武ちゃんか外国人であるユウヤしか相手いないのかもな……

不知火改良計画の方であるが、史実と違い不知火に拡張性に余裕があり今のところ順調みたいだ

ただ、原作通り国産にこだわるか否かで意見の食い違いがあるとか……

国産にこだわる理由もわからなくてもない。『他国（主にアメリカだが）から自立した誇りある日本』というのは日本人が日本人として生きてくためにはいい理想なのだろう

前世での迷走してた日本を見てるとそう感じる

ただ、それを戦術機にまで持ち出すのはどうかと思うが……  
個人的にはアメリカの進んだ戦術機技術は欲しいからなあ

他国の技術も取り入れて行くべきだ。という派閥には巖谷中佐を始め『大陸帰り』の人たちが多いような気がする

前線を経験したものからは  
前線の衛士に少しでもいい機体を  
ということだろうか？

まあ、BETA対策の方に忙しい俺からしたら関係ないのでそこま  
で気にすることじゃないな

今現在レーザー級に対する乱数回避のプログラム作ってるが意外と  
難航してるからだ

乱数回避しながら地面に激突しないようにしたり、味方機と接触事  
故起こさないようにするのは意外と難しい。

自力回避に自身のない俺からしたら完成させないとマズいので、自  
分のためにもかなり真剣に取り組んでる

レーザー級の補足能力は正しくチートで、予備照射中にBETAの  
陰に避けるか、そうでなければ対レーザー蒸散塗膜をすり減らしな  
がら神に祈るしかないのだから……



第13話 動き出した歯車（前編）（後書き）

原作キャラがちらほらと

しかし主人公とは絡みません……

どうするかも全然決めてません。出した方がいいのか……

第13話 動き出した歯車（後編）（前書き）

主人公の考察という名をかりた妄想

### 第13話 動き出した歯車（後編）

世界人口半減

意味がわからない

人通しの戦いならとつくの昔に降伏してる被害だ。

意思疎通出来ないBETA相手では言っても仕方ないことなんだが、  
実際聞いてみると信じられるものではない……

そしてオルタ4の採用

よくよく考えるとこれも無茶な話だと思う

原作における成功を知らなければ国連上層部はどうかしてしまっ  
たと思われても仕方ないだろう

なにせ「実証出来てないとんでも理論に基づいた00ユニットなん  
ていう超兵器によるBETAへの謀報戦」だからだ

まあ、世界人口半減なんて事態にさらされた人類にはこのような奇  
跡に頼らざる得ないのかもしれない

アメリカがG弾運用でのユーラシア奪還計画を推し進めなければ採  
用されたかわからないからな……

原作でも2順目の『白銀武』という奇跡的要素がなければ成功しな  
い作戦なんだし

国連上層部も後々オルタ5を承認して、異例のオルタネイティブ計画が2つ併走する事態になることを考えると国連上層部も無茶な作戦だと思ってるんだろう

原作でも00ユニットの完成に狂喜したとかあるし、実際完成するとは思ってなかった可能性もある

アメリカだって現実的な計画ならあそこまでオルタ5を強硬しなかつたはずだ

ユーラシアを汚染せず奪還したいのはアメリカだって同じはず。本編だって00ユニット完成の際に国家機密なはずのXG70をすぐに渡したってあるし

国土を失ったユーラシア各国は間違いなく後方国家最大のアメリカに多大な債権を負ってるはずだ。今現在防衛中のイギリスだってアメリカの膨大な支援のもとに成り立ってる……

それは第二次世界大戦の時を見れば明らかだ

ドイツ相手にさえアメリカへの債権で破綻しかけたんだ。もしかしたらもはや破綻してるのかもしれない

ユーラシア各国に債権あるアメリカなんだからそれを回収したいはず。つまり、ユーラシアが汚染され各国に返済能力がなくなれば、それら全てが不良債権となり困るのはアメリカだ

それなのにオルタ5を推進したのは通常兵器によるユーラシア奪還を諦めたのもあるだろう  
それ以上に、増え続ける債権にアメリカ自体が破産するのが目に見えていたのも理由だと思う

まあ原作でもアメリカ唯一の欠点だと言えるのがG弾の環境破壊が予想以上だったことだが、それは神のみぞ知ることだし

天才の香月博士だけはなんとなく予想してあそこまでG弾を否定してたのかもしれないが……

とまあ、オルタ4が始まったわけだ。

俺という不確定要素がある以上ここが二度目の『白銀武』の世界かもわからないので、自分の命を優先で行こう

世界のため、人類のため命をかける

と言われて素直に「はい」と言えるほど高尚な人間じゃないしな

実際、前世の日本人でそう言われて死ねるやつがいるのかどうか……  
己が身が一番かわいいのだ

純粋に世界救いたいなんて思える白銀武のような人間はまさに救世主なんだろうな





第13話 動き出した歯車（後編）（後書き）

G弾推進したアメリカの裏側は実はこうなんじゃないかと

狂信者が舵取りするような国家が世界最大国家として君臨出来るとは思えないです

主人公は前世の影響ですごく小市民です

英雄的思考はほとんどないと思ってください……

### 第13話（EX） 小話的ななにか（前書き）

前回の補足なんですけど、オルタ5の言い分で00ユニット脅威論とかもありましたね……

自分はあまり気にしてなかったんで忘れてました

経済的損失無視すれば、人類に牙向いた00ユニット破壊するのは出来ると思うんで

最悪の場合、独立したネットワーク下にあるであろう核とか、アメリカならG弾使えばいいんですし

あと、すごく疑問なんですけどS-11弾頭って戦術核クラスってありますよね？

戦術核って距離がそうだけで威力は関係なかったと……

まあ、戦略クラスの威力ないと考えると広島型原爆よりは威力低いのかな……

広島型が15k?くらい?だった気がするのでS-11は1k?前後くらいと予想していいのか……

まあ、どの道地上で使うのは味方巻き込みそつでアウト

弾頭にも使われてないんでかなり高価か希少物資使ってるのかかなあ

公式で威力説明あればいいんですが、反応路数発で壊せるってくらいですよね

BETA製造の反応路とか参考にしない……

一応桜花作戦の見て上で書いたくらいかなあと予想しました。

### 第13話（EX） 小話的なにか

ここで有事の際に自分の護衛小隊として本多の下につく人物達を紹介したいと思う

酒井、榊原、井伊の3人だ

本多と合わせて名前だけ見ると天下取れそうな名前だが、本多以外家系的な関連性は全くない……と思う

3人とも斯衛の黒で五撰家の護衛に抜擢されるくらいだから腕も黒にしたら中々いい。

そのせいで三羽烏とか言われてるとかいないとか……

原作での佐渡作戦では青の護衛小隊は赤1人白3人とかだったが、あれは当主なので次男の自分はそこまで豪華ではないのだ

黒に抜擢されるがもとが庶民なんで武家とは合わずいつも3人でつるんでる。一応、外面は真面目に出来るものの斯衛での堅苦しさの反動か私的な場面では3人でバカばかりやって、三羽烏とかけて三馬鹿とも言われてるらしいが、三バカは別の世界に言いいたいのだが……

五撰家のくせにやけに庶民的な自分とは気が合い（というか本多が

気を使って小隊メンバー選んでくれたのかもしれないが)、自分にとってはじめて出来た同年代の友達的な存在だ  
まあ、やはり身分の関係上一歩離れたような立ち位置だ

それでも普段は年代の違う人たちと技術廠に詰めてるので、彼らと接する部隊訓練などは気の置ける時間となっている

そして今現在はそんな彼らと部隊訓練後の会話中だったりする……

「いつも思うんやけど、和志様のBETA撃破数って毎回部隊で一番少ないよなあ」

「護衛小隊としては多すぎても問題あると思うが……」

「まあ、あの腕であんま前出られても困るか」

なんか、井伊と榊原が話してるのだが……

「お前らそういうのは俺のいないところで話せよな……」

「和志様あんま気にしはらへんやろつからいいかと思って」

「確かに気にしないが……、撃破数云々は立ち位置的に仕方ないだろ」

「確かにそうですね、やっぱり衛士としたら気になるやないですか」

「俺は撃破数なんてどうでもいい、そんなことより暇そうにしてるならこの後やる予定の対レーザー級緊急回避システムのテストに付き合え」

「ちょ、勘弁してくださいよ。前やったとき失速して地面に激突したやないですか」

「今回はそれが修正出来てるか確かめるんだよ。他の2人も、ニヤニヤしてるが小隊間で接触事故起こらないか確認するんでやってもらうぞ?」

「「えっ」

「「ぞまあ」

「技術の進歩に犠牲はつきものなのだよ……」

「わっはは、普段から斯衛としての自覚が足りんだ。レーザー級にその根性叩き直してもらえ」

忠篤が笑いながら何か言ってるが、3人の教育はあなたの仕事なんですか……

「和志様、『小隊』でのテストですよ?あと1人足りませんよ」

いいところに気付いたぞ榊原

「ちようどええから忠篤様も一緒にやろうや。警護小隊として一蓮托生やで」

井伊の言に酒井もうんうん頷いている

「私はあのようなシステムがなくともレーザー級の攻撃くらい避けてみせるっ」

「まあまあ、そのような事おっしゃられずに……」

3人に引つ張られる忠篤……

「ふふふ、忠篤。生まれの不幸を呪うがいい」

「不幸？何のことです？」

「君はよき護衛であつたがその態度がいけないのだよ」

「和志様、謀りましたね！！」

……



.....

その後、あまり理不尽な光線級の配置で回避システムに揺さぶられ続け、ゲロ袋のお世話になった三羽と一体がいたとか……

一応テスト自体は上手くいきました

第13話（EX） 小話的ななにか（後書き）

会話文練習をかねたネタ的な話

テストパイロットいるだろ……  
とかは気にしない方向で

多分95年はこれで終わりです

第14話 変わりはじめた状況（前書き）

モチベーションのためにいろいろ見直してました

それより地震が……

大丈夫なんでしょうか？かなり心配です

## 第14話 変わりはじめた状況

1996年

東南アジア、大東亜連合軍設立

国連、プロミネンス計画発動。本拠地にアラスカのユーコン基地

日本、男性徴兵対象年齢の更なる引下げを決定。事実上の学徒全面動員へ

北九州を始めとする九州全域に第2種退避勧告発令

.....

「3年前に言われたように九州からの企業撤退を進めているが、実際のところお前は今後の展開をどう見ている？」

只今、徴兵年齢引き下げや九州への第2種避難勧告のことなんかについて話をしている。史実通りなら1998年夏にBETAが九州に上陸してそのまま1週間で西日本が蹂躪されるんだけど、そんなこと話しても無茶な話してして信じてくれないだろう・・・

「BETAの進軍状況にもよりますが北海道、九州のどちらが戦場になるとしても2000年前後にはBETA相手の防衛戦に入るかと思っています」

「ふむ・・・、してBETAとの防衛線の推移は？」

「これもBETAの進軍規模や日本の防衛体制の状況にもよるんで予想の範疇を出ませんが、大規模侵攻が来た場合は九州全土、もしくは北海道方面なら北海道の北半分は捨てないと防衛できないかと。それにこの予想も日本が防衛体制を整えた上で東南アジア各国と米国の支援があったとした仮定した上でのことです」

このくらいならまだありえそうな話かな？

「そこまでにか・・・」

やっぱりこれでも信じられる話ではないか・・・。うーん、ヨーロッパの話为例えにしてみるか

「英国の防衛状況を見るに妥当なところだと思います。イギリス本土防衛戦にはイギリス軍の他に同国に駐留する全欧州軍が参加して、そこにさらに米軍の支援がありました。それでさえロンドン南部まで侵攻され、BETAを英国から叩き出すのに半年かかっています。英国を除く欧州軍は欧州防衛戦での戦闘経験豊富な将兵がそろっていてこのような結果なのですから、大陸派兵軍以外BETA相手の戦闘経験のないものが多数の日本なら独力での防衛は厳しいかと」

これなら信憑性でるかなあ。実際、よくよく考えてみると防衛体制そろってても日本独力なら西日本のかなりの部分がやられそうだけど

「同盟国の米国は支援してくれるだろうが、東南アジア各国は期待できるかわからんな」

その米国は同盟破棄して撤退するんだけどどうやってそれを説明しようか・・・

「米国も英国ほど本格的に支援してくれるかどうか・・・。軍事面で考えても国土が小さい島国である日本は防衛しにくい上、米国からしたらやたらに戦線を多く持つより英国とアラスカに防衛線を絞ったほうが防衛しやすいことがあげられます。

経済面でも欧州とソ連中心の共産圏が崩壊した今、アメリカと並べるほどの経済力があるのは日本のみです。国益を重視するアメリカなら経済的なライバルである日本が国力をすり減らしたほうがいと判断しても不思議ではありません・・・。」

うーん、我ながら少し無理やり感がある気がする。

「米国が裏切るといふのか？」

「そこまでは言っていないません。ただ可能性の話としてですので」

「そうか・・・」

なんか考え込んだじゃったけどどうしたものか・・・

私未来知識あるんです！とか言えたら楽なんだけどなあ

まあこんなこと言っても誰も信じてくれないし、信じられたとしても厄介なことになりかねないから言わないけどね

BETAの行動を未来知識として正確に言い当てようものなら、下手するとその知識を得たメカニズムを解明するためって目的で捕ま  
りかねん

オルタ3の研究素体並みの扱い受けるとか絶対嫌だわ

まあ、今のこの会話を香月博士に聞かれようものなら未来知識披露  
してなくても危ないかもなあ

絶対よりよい未来を引き寄せやすいっていう00ユニットの素体候  
補として目をつけられるもん……。現在だっているいろいろ有用なも  
の開發してるから危ないっていうね

よほどのことがないと五撰家の自分に対して強制徴集なんてやらな  
いだろうけど。まだまだオルタ4始まったばかりで素体候補に困っ  
てるわけじゃなさそうだし

とりあえず、今まで以上に香月博士だけには関わらないようにして  
おこう……

なんというか父と話してて思ったけど、史実での西日本壊滅って本  
当に最悪の状況だったんだろうなあ。

市民の避難進んでない上に鉄原ハイブ建設から数カ月後っていう侵  
攻間隔の短さが奇襲みたいになつたらしいもんな……。その上、  
光州事件重なつたらと考えるとあり得る話か

光州作戦での悲劇が政治的、軍事的にも混乱があつてその隙をつか  
れたつてもあつたのかもしれない

そう考えると光州作戦の悲劇って起こつてもらつたら困るな。でも、  
おれにはそれに対して何かできるような権限がないという……

だいたい斯衛だし、帝国軍のことに何か言つのはどうなの？ってなるもんな

九州市民の避難だけは企業撤退の影響で史実より進んでると思うけど、ままならんものだけわ

研究面での進展はコンボ搭載OSが予想通り斯衛に採用されることになりそうで、剣術の型が今までより楽に再現できるっていうのはかなり魅力的だったみたいだ

ただ、あまりにコストがかかってことで瑞鶴に導入するのは見合わせて次期主力戦術機である武御雷の専用OSとして搭載されるらしい

接近戦をあまりしない俺からしたら戦力向上はあまり期待できないが、護衛たちはなかなかなんで実装されて何よりなんだが

武御雷の配備間に合うのかなあ・・・



第14話 変わりはじめた状況（後書き）

またまた途中で投稿

パソコンで書いた方がいいのかな……

第14話 続きのな(前書き)

地震が予想外なことに

原発もヤバいことなつたしで投稿がかなり遅れました

まあ、自分はまだ被害なかったんですが

というか米軍の有り得ない支援にびっくり、主力原子力空母2隻と  
か戦争する気なのかと……

とりあえず待つてた人いるのか知りませんが続きです

## 第14話 続きのな

いつの間にか吹雪が出来ていた

練習機のイメージが強かったので興味無かったが実は主機換装で十分実戦で使えるとか

不知火の量産パーツ共用してることもあつて量産に向いてるみたいなんで撃震の代用機にも考えられているらしい

個人的には二兎追う者はなんとやらで中途半端な機体な気がするが日本の戦力が上昇するならなんでもいい。斯衛には直接的には関係ないってのもあるしな

これで自分が『知ってる』武御雷を除く基本的な日本の戦術機は揃ったことになる。武御雷も侵攻に間に合うかわからないが数年内には配備出来そうな見通しだ

戦術機OSと電磁投射砲（戦術機用の小型なのは無理だったがもともと横浜の技術だよりなので問題なし）も形に出来たので当初に計画していたことはやり終えたことになる

10年来のことが終わったのでゆっくり羽でものばしたいところだが、残念なことにこの世界では人にゆっくりしてるような時間などないのだ

とまあ、感慨にふける間もなく今後のことを考えているわけだが……

とりあえず開発面で本土侵攻に何かすることは時間的にもうない。

あえて挙げるなら武御雷の配備を急かすくらい

開発以外では九州方面の市民避難の促進と地下侵攻対策、また米軍撤退で足りなくなるであろう物資の備蓄などだろうか。といっても、これらのほとんどは自分には案を出すくらいのことしか出来ない

結論から言うと本土侵攻に対して自分が出ることなんてもう助言程度しかないということだ

つまり戦術機関連の開発は本土侵攻以降のことを考えてやったほうがいいということになる

本土侵攻以降の展開は……

……

……

やべえ、全然わからねえ。

俺という存在が介入してるせいでオルタ4が絶望的なんじゃねーの？とか多分オルタ5になるんじゃないかね？というぐらいのことしか思い浮かばん

ていうかオルタ5にしるオルタ4にしる本土侵攻以降で自分に死亡フラグってないんじゃないのだろうか

うーん……、やっぱり未来のことなんてわからん

ここは素直に現状ある流れに乗らせてもらおうか

不知火の改良の主流となっているのは史実での弐型に繋がってくやつである。大型兵装（戦術機用の小型電磁投射砲など）も扱えるよう大型のジェネレータを搭載し、それらの武器を振り回せるように腕部を中心とした強化を施すといった感じだ

ただそれらの強化に伴う稼働時間の低下が問題となっていて、この部分をどう解消するかで純国産派とそうでないものとで意見の対立があるとか

戦術機に大型兵装が必要かと思ってしまうが、現状ハイブの攻略を考えると必須だったりする。地上では支援砲撃が機能してくれるがハイブ内ではそんなもの出来るはずなく、戦術機だけでその分の火力も補う必要があるからだ

今のところこの火力面で電磁投射砲が期待されていて電磁投射砲に関わっていた自分は微妙にラブコール貰ってたりするが、どうせこの計画はX F J計画かなんかで上手くいった気がするので行く意義がそこまで感じない

そしてマイナーというか少数派な流れなのが電撃戦によるハイブ攻略を目的として戦術機を改良しようというものだ

この電撃戦はドイツがとつたような本来の電撃戦とは少々異なる

ブリッククリーク

概要はハイブに対して地上戦力の火力を集中させることによりこれをBETAに対する陽動として、その間に戦術機が必要最低限の戦闘で高速でハイブに浸透しハイブの主要部を破壊するといった感じだ

これだけ聞くといい作戦で、なぜ少数派なのか分からないがこの作戦は問題がかなりある

まず戦術機側の問題が電撃戦を行えるだけの性能が出せるのかという根本的なものだ

必要最低限な戦闘で浸透するのはOSの改良などにより不可能ではなくなった。しかし、ハイブ主要部があると思われる箇所までたどり着くための継戦能力が今の戦術機にはない

まあ、ここは開発でなんとかしないとイケないところなので自分たち研究者の仕事だ

そしてこの電撃戦で一番問題視されてるのがBETA側の問題だ  
そもそも電撃戦は高速浸透による敵主要部の破壊による指揮系統の破壊や兵站の分断、またそれらにより士気を折ることが目的である  
この中で兵站の破壊だけはランドサットから確認できる高エネルギー炉らしきものの破壊で達成出来るかもしれない  
しかし、その他はどうなるか未知数なのだ

今まで人類はBETAに対して何もわかってないようなものなのでBETAに士気や指揮系統なんてどうなってるかわからないのだ

下手すると主要部を破壊したところで何もなかったかのように戦闘を続行され、せっかく破壊した機関も再占領、再利用されることも十分考えられるのだ

こういった理由で現状の主流はBETAの殲滅によりハイブ深部まで順次占領というもので、BETAを殲滅してしまえば確実にハイブを攻略出来るという至極単純なものだが確実なのだ

しかしながら今はないBETAに関する知識持つてる自分からすると電撃戦のほうが無効だと思ってしまふ……。ただそれを示す根拠がないのがなあ

まあ少数派でもそういう戦術機開発の流れがあるんだからそれについてしまえばいいんだが……

予算が主流派より少ない！

マジで頭痛くなるわ。今までの開発がひと段落ついたけど、これからのこともなかなか難しいねえ

まあ、自分の中ではどっちに行きたいかは決まってるんだけどね

だってなんかかつこよくない？電撃戦って





第14話 続きのな（後書き）

次から97年かな

ここら辺から書くこと多くなりそうだ

第15話 星に願いを(前書き)

携帯のメール投稿だと2000字ぐらいで重くなる

普通に繋いで書いた方がいいのかなと思ったり

とりあえずキリのいいところまで

## 第15話 星に願いを

1997年

BETA、アラビア半島制圧

ブラゴエスチエンスクハイブ建設

それに伴い北海道北部に第2種避難勧告発令

ダイダロス計画成功

バーナード星系に適合率AAの地球型惑星を確認、移民船による太陽系脱出を含めたオルタネイティヴ5がアメリカ案に決定  
ラグランジュ点にて移民船建造開始

オルタ4、A-01連隊発足

日本、93年来の暁計画による試作巡洋艦1号艦『若林』2号艦『若島津』完成

電磁投射砲は軍事機密なため対外的にはレーザー防御に特化した護衛巡洋艦として発表

主人公22才、対BETA研究による功績（主にレーザー防御と武御雷専用OS開発による功績だが家柄も考慮されている）により斯衛大尉（技術少佐）に昇進

また、ブラゴエスチエンスクハイブ建設に伴い戦術機開発の主流ではないが大陸での日本の脅威を取り除くためハイブ攻略用戦術機開発が正式に発足

その副主任（水戸さん）補佐として就任

.....

「なんとというエリート街道」

「昇進おめでとございます」

「どうもどうも、まあ昇進はここで打ち止めだろうけどね。尉官と佐官の間にはデカい壁があるし、今の斯衛にはポスト余ってないしな。それ以上に俺の指揮適性だと少佐になって大隊指揮とか無理技官は少佐がほぼ最高位だしなあ」

「大陸派遣軍では佐官以下の入れ替わり激しいみたいですけど、斯衛は戦死によるポスト交換はないですから  
しかし、技術廠では階級が追いつかれました」

「これで家柄と階級の差異による微妙な立ち位置が解消されるね。  
これで水戸さんの会話を気にする必要がなくなるよ」

「今までも気にしていた様子は……、私が先任なんで一応まだ階級的な立場は私の上ですよ」

「こまけえことはいいんだよ」

今更だが22才で大尉とかありえん、兄は25で少佐になって大隊率いているけどあれは跡取りでチートだから別格だが

伊隅大尉だってあの若さで大尉だったのは優秀なのもあるけどA-01の損耗率の高さによるポストの空きがあつたからだろう

実際大陸派遣軍だと20代で少佐は戦術機部隊中心に結構いるらしいからなあ。全然喜ばしいことじゃねえけど

技官に関しては香月博士ですら中佐相当とかだつたから少佐がほぼ打ち止めと思つていいだろう。といつても香月博士に関しては普通の技官と違つて作戦行動にも口だせたり、明らかに中佐階級逸脱した権限あるから例外か……どう見ても将官クラスはあるからな。まあオルタ4責任者で年齢的なものもあつてって感じか？

「しかし、通信途絶したとされていたイカロス？からバーナード星系にて地球型惑星を発見したとの発表には驚きました。正直ダイダロス計画なんて忘れてましたよ」

「確かに今更感あふれているな」

「なんといいいますか、地球外生命体との接触も目的として含まれていた系外惑星探索が今になって成功とか皮肉に溢れていますね」

「実際は30年以上前に地球外生命体は確認されていて、只今それらと地球で戦争中だから……」

「今となつてはダイダロス計画にかけていた力をBETA戦につき

込んでおけば良かったとすら思ってしまった。なんというか無駄な努力だったと」

「そうはいうが戦術機はダイダロス計画からこぼれてきたものだし一概に無駄だったとは言えないぞ」

まあ、それ以上にオルタ5での地球脱出も関係あるんだが俺や水戸さんみたいなの一佐官が知るようなことじゃないか

「それもそうですが……」

「そんな地球外のことより地球のことが重要。ブラゴエスチエンスクハイブ建設、アラビア半島制圧でもはやユーラシアの失陥は時間の問題だ」

「ブラゴエスチエンスクハイブは北海道北部を侵攻圏におさめてますね。まだフェイズ1なので侵攻はないでしょうが……」

「そんなことわかるもんか、人類はBETAの予測不能な行動に何年も苦しめられてきたんだ。どうなるかなんて安易に決めつけるもんじゃない」

そう、史実では鉄原ハイブ建設のたった数ヶ月後に侵攻があったんだ……。俺と何年も過ごしてる水戸さんでもこうなんだから他はもっと楽観的なんだろう。まあ北海道北部に第2種避難勧告出ただけ史実よりましか。というかそうでもない危機感煽ってきた意味がない

「そうはいいますが今攻められても如何とし難い状況かと」

「本来ならそうならないために万全を期すべきだが人類はいつもBETAに対して後手後手だ……」

「マケドニア、ペルシャ、モンゴルe t c ……、歴史上存在した大帝国はそのどれもがユーラシア全てを手に入れることが出来ませんでした。それがBETAという地球外生命体によって成されようとしているとはダイダロス計画以上の運命の皮肉を感じます」

「ふん、それを言うなら宗教もだろ。キリスト、ユダヤ、イスラム、ヒンドゥー、仏教、それに社会主義。そのどれもが聖地や土地をおわれ、今まで人類の歴史を築いてきたユーラシアからたたき落とされたんだ。もはや神による救済なんて望むべくもないな」

「科学者である私たちには最初から神による救済などあてにしてないでしょうに……」

「いや、俺結構信心深いんだが」

「どの口でそれを……、そういうのは日頃の行動を見てから言っして下さい」

いや、転生のような経験した身の上ちょっとは神とか信じてるよ？

「とにかく、私たちに出来ることをするしかありません。少しでも強力な兵器を作り出してBETAに対抗するしかありません」

「……、そつだな」





第15話 星に願いを（後書き）

次は巡洋艦のこととかかなあ

そろそろ他にも掘り下げてかないと駄目かもしれない

第15話 SGGK（スーパーグレート迎撃艦艇）再改訂（前書き）

電磁投射砲の弾頭の重さ3kgで計算していたので落下距離がおか  
しかったです

何度も改訂してすみません

## 『電磁投射砲』

前世の知識では古くからその理論は存在していて、SFなどではお馴染みの兵器だ

この世界では数十年続く地球外生命体との戦争による目覚ましい技術進歩でそれが実現することとなる

しかしながら、そのような夢のような新兵器を搭載した新型巡洋艦の進水式は、その内容とは正反対に非常に慎ましいものであった

電磁投射砲開発に関わった技術者として自分もその進水式にはよばれ、護衛として着いてきた本田とともに新型巡洋艦を眺めている……

「自分が手掛けたものがこうやって形になるのはなんと感慨深いな……、子の巣立ちというのはこういうものなのだろうか？」

「技術者でもなく、子もない自分にはそついった感情はわかりません」

「技術者はともかくもう27なのだから子はいてもおかしくないだろ、赤なら相手などいくらでもいるだろうに」

「和志様こそ22なのですから……、研究ばかりで見合いがきても断ってるのか」

「いやね、今だって新しく戦術機開発立ち上がったところだし忙しいんだよ。そんなことにかまけてる場合じゃない……ってことにしておいて」

「はあ……、貴方の将来が心配です。和志様が相手を見付けるまでは自分も身を落ち着けることなど出来ません」

「お前は俺の親か！まあ最悪人間サイズの戦術機作ってそれと結婚するから問題なし」

メイドロボは男のロマンなのさ……

「また馬鹿なことをおっしゃる……、戦術機と結婚出来るわけないでしょうに。」

話は変わりますがこの新型巡洋艦、なんというか変わった形ですね。平べったいというか

それとあまり言いたくはないですが少々武装が貧弱なような……、新型砲1基だと戦闘鑑としての見栄えはありませんね」

「まあ運用方針、武装とともに完全に新機軸な艦艇だからなあ。それと武装貧弱だとはいうがああ新型砲が想定通りの威力を発揮すれば、従来型より戦果を発揮出来るぞ」

「電磁投射砲と言いましたか、新兵器に対する不安はありますが言うとおりなら期待出来ます。大陸の戦況も思わしくないようですし……、強力な兵器はいくらあっても足りません

衛士としてこの発言はしたくありませんが、戦術機のみでBETAを押し止めるのは不可能でしょうから……」

なんというか強気な忠篤がこのような弱気な発言すると違和感があるな

まあ、これも対BETA戦研究の賜物なのかもしれない。大陸でのBETA戦のデータが新OSでの生存率上昇により、恐らく史実より詳しく手に入れることが出来ている。

そのお陰でBETA戦シミュレーションがかなり実践に近いものになってきたのだ、それでもまだまだ甘い感じがするのだが……  
何気にCPUの性能向上もシミュレーションに役立つてる。万単位のBETAの動きを処理するにはそれなりの性能がいるからなあ

「島国の日本ならこの新型砲搭載艦艇が量産されればかなり有効に使えるはずだ。それに斯衛の新型ももうすぐ配備されると聞く、あまり弱気になるな」

「弱気などではありません、事実を客観的に述べたまで。それに私は將軍殿下、そして殿下に連なるものを守る剣です。どのような状況であれ、災患は取り除いてみせます」

「頼りにしてるよ。本当にね……」

と、進水式はつつがなく終了した。後は海軍がどのように運用するのだが、そこは詳しくは分からないから任せるしかないだろう

とりあえず会話だけではよくわからないだろうので、巡洋艦の簡易スペックをのせるとする

艦載型電磁投射砲搭載巡洋艦

若林級1号艦『若林』2号艦『若島津』

排水量 10200t

全長 172m

全幅 26m

最大速力 30ノット

武装 75口径180mm電磁投射砲1基、高性能20?機関砲システム”フランクス” 4基、RAM近接防衛誘導弾2基

装甲 対レーザー蒸散塗膜装甲

とりあえず、名前だが……

まあなんというか、日本を守る双壁になってくれそうである。ただ、世界に出るとポンポン失点を許してたのは気にかかる点ではあるが、というか1号艦の故障は大丈夫だろうか?新兵器はトラブルがつき

物だとは言つが、そう簡単に故障されても困るぞ……

いや、きつとこの名前は偶然なんだろう。というか考えだす止まらないからそういうことにする

10200tという排水量は巡洋艦としては大きめな部類だろうか？まあ、精密射がもとめられる電磁投射砲を搭載してるのだから船体を大きくして安定させたほうがいいだろう

またそれは船の形状にも表れている

172mという全長に対して 26mという全幅はかなり幅広いと言つていい。他の巡洋艦と比べたら平べったいイメージを受けるだろう

さらに船の海面からの高さも低めだからそのイメージはもっと強くなるかもしれない

この形状にされたのは電磁投射砲の安定のためもあるが、この巡洋艦の運用方針であるBETAに対する徹底的なアウトレンジ戦法によるところが大きい

電磁投射砲の圧倒的な射程と発射速度により、レーザー級の射程外である地平線の下側よりBETAを殲滅しようというのだ

ここでこのアウトレンジ戦法を巡洋艦の主要武装である艦載型180mm電磁投射砲の詳細をだしながら説明したい

巡洋艦の主要武装である75口径180mm電磁投射砲は30kgの弾頭を発射速度マツハ10前後で最高射程は300kmに及び連

射速度は最高毎分30発撃つことができる

14 mに近い巡洋艦にしては長い砲の中で加速された30 kgの弾頭は、マツハ10という従来砲とは隔絶した速度で発射される

この速度では距離30 kmでの到達時間は9秒前後、水平落下距離400 mほどである。30 kmで400 mだと弾頭はほぼ水平に対象に突き刺さると言っている(角度は1度以下)

巡洋艦高さ20 mとすると水平線までの距離が15 kmほどなので重光線級も20 mほどだとすると陸から15 x 2 = 30 km以上離れると重光線級はこの巡洋艦を撃つことは困難になる

(巡洋艦の高さが低めなのは水平線から頭をのぞかせないようにするため)

また弾頭がほぼ水平なことからレーザー級は味方が邪魔で迎撃するのが困難になり、重金属雲がなくともBETAを砲撃できるのだ

また、マツハ10という速度を持つ弾頭の破壊力は炸薬がなくとも圧倒的であり、例えば突撃級が盾となろうとも盾もろとも目標を破壊することができる

そのためこの鑑はレーザー級の排除という重要な任務を成すこと期待されていたりする

以上がアウトレンジ戦法の詳細だ

また巡洋艦の武装が75口径180 mm電磁投射砲1基

高性能20?機関砲システム”フランクス” 4基

RAM近接防御誘導弾2基

と非常に少ないのは今までにない長射程からの射撃のために、従来



艦以上に衛星データリンク射撃システムなどの弾道計算に割くための機器が必要だったからだ

アウトレンジ戦法とはいえレーザー級に対する防御は必要なため装甲は対レーザー蒸散塗膜装甲であり、RAM近接防御誘導弾はALミサイルを搭載予定となっている

まあ、ここまで新型巡洋艦について紹介したわけだがまだ進水したばかりであり、実戦投入もまだなので上記のように出来るかどうかはやってみないとわからないところもある

電磁投射砲開発に関わったものとしては活躍して欲しいところだが、果たしてどうなるのだろうか……

日本侵攻に間に合うように完成したので是非とも使えるものである  
と思いたい

第15話 S G G K (スーパーグレート迎撃艦艇) 再改訂 (後書き)

これで改訂最後でありたい

第16話 人はそれを魔改造と呼ぶ(前書き)

どうしてこうなった……

## 第16話 人はそれを魔改造と呼ぶ

### 既存戦術機改良計画

不知火の改良もその計画の一環として進められている。不知火壱型などがその最たる例だ

遅々として進まない次世代の新型戦術機開発の代わりに耐用年数の迫る撃震の後継機としても不知火の改良機体を採用しようという案もある

ハイブ攻略用戦術機開発もそのような不知火改良計画の一つとしてスタートした

ハイブ内という最過酷になると思われる環境で戦わなければならない機体になるので、高性能な新型で作るべきという意見ももちろん出た。

しかしながら、新型機体の開発の困難さ、電撃戦という問題点のある戦術、撃震に代わる主力機体の開発の急務という諸処の問題により予算及び人的な余裕がなかったのだ

史実と違い不知火に開発的余裕があったのも理由の一つかもしれないが……

ちなみに不知火壱型は史実と違い高出力ジェネレーター搭載による稼働時間の大幅低下などの問題はそこまで起きていない

ただ、戦術機開発の方針が大型兵器搭載より運動性の向上を目的と

したものとなっていたので、結局少数生産に留まることになりそうだが……

不知火の開発的余裕は史実より不知火改良を促進させる結果となった。不知火式型に関しては、昨年よりアラスカのユーコン基地にて史実通りプロミネンス計画が始まっているのでXFJ計画は多分起きるだろうと思っている

発足時期に関しては純国産派との問題が解決してからになるだろうが、不知火改良が促進されてる現状なら史実より早まる可能性も十分あるだろう

話がそれたのでハイブ攻略用戦術機開発計画に戻すとする

自分はその計画において計画副主任補佐という高いのか低いのかよく分からないポストについた。補佐とはいうが秘書みたいなものじゃないので年齢考えたら高いのかも……まあ、副主任が水戸さんなのであまり関係ない

主任は大陸帰還組の中立派の人が赴任してる。主力機体になる予定がないので無難な中立派の人がきたのだろう

ハイブ攻略用戦術機の開発方針としては

空間の姿勢制御強化

継戦能力強化

機動性は低めでも運動性は高く

の3つが基本となっている。

空間の姿勢制御に関してはハイブ内ではレーザー級が攻撃しないため、限定的とは言え跳べるからだ。そのためにはハイブ内は狭いこともあり従来機以上の姿勢制御性能が必要となる

継戦能力に関しては言わずもがなで、電撃戦では部隊が孤立して進撃するため無補給下での戦闘継続力の強化は必須だ

運動性に関してはハイブ内では高速起動が困難なので、低速下での運動能力を強化した方がいいとされたからである

現状これらの問題を解決するための案としては

機体の改良案は

跳躍ユニットをF-14などで採用されている可変翼をとりいれ、低速域での姿勢制御及び運動性能の強化

式型のように腰部にスラスタをとりつけ姿勢制御性能と瞬発力の強化

また、式型の技術に関しては機体各部にアメリカ製の出力効率のよく消費電力の少ないパーツを使うというのを真似て稼働時間を強化

YF-23のように肩部装甲ユニットに兵装担架を4基をつけることで携帯兵装を増やし、そうすることで空いた背中には担架の代わりに増槽をつけ稼働時間のさらなる増加を目指す

武装に関しては

可能なら肩部装甲ユニットと脚部にブレードエッジを採用し近接戦闘能力を強化

支援砲を57mm弾にかえることで一体あたりの使用弾数と時間を短縮し、行軍速度の向上を目指す

支援砲撃のないハイブ内の火力不足を補うため制圧支援にS-11に使う炸薬を使った弾頭のミサイルを左右2基ずつ（F-14のフエニックスを参考、制圧支援機を兵装担架2基に減らすことで対応）またこの武装はBETA群の密度により突破不可能な状況を打開することも目的としている

現在検討しているのはこのような改良だ  
正直魔改造と言っているのはこのような状態だが、実は跳躍ユニットと兵装担架以外は見た目が式型と大差ない機体になると思われる。継戦能力と運動性能の強化で式型とほぼ同じ方針を取ったからだ

つまり、XFJ計画が具体的に発足したらこちらも開発が促進出来るそうと言うことになるので、その際には隠れてプッシュさせてもらおう……

そしてこの機体強化に必須な要素が一つある

機体強化案の中で出て来たアメリカ製機体の名前で詳しい人なら一つの会社が思い浮かぶかもしれない

ノースロック・グラナン社

F-14とYF-23を生み出したこの会社には是非とも技術協力してもらいたい

可変翼にも肩部兵装担架にもノウハウのない日本では1から開発しようとするとは何年かかるかわからない事態に陥るのは目に見えている

XFJ計画ではノースロック・グラナン社の戦術機開発のライバルでもあるボーニング社が技術協力していたので、上手くやれば巻き込めるかもしれない。それに機体自体を提供してもらおうのでなくパーツのみなので比較的实现可能なこともある

あまりやりたくはないが、最悪の場合斉御司家の影響下の企業と自分でも株主であるCPU産業から、ノースロック・グラナン社に出資や技術提供などで働きかけて貰えばいい  
ライターとの次期主力機開発に負けたグラナン社なら断りにくはずだ……

まあ、今現在ではまだまだ計画段階で絵に描いた餅状態なのでこの心配は杞憂と言える

このまま進めば来年にはBETAが日本に侵攻するだろうので、そこで開発が一時凍結する。そのため計画の本格的な始動はXFJ計画と同時期になると予想できる  
それまでにグラナン社とのことを水面下で進めればなんとかなるの  
で時間は十分だろう



おそらく弐型開発もこの時期らへんから水面下でボーニング社とコ  
ンタクト取ってる可能性は高い。でもない、XFJ計画始動から  
弐型のロールアウトが早すぎると思うのだ

いくら不知火がイーグルの技術検証から出来たとはいえある程度日  
本機体へのノウハウないと1年ちよつとでアクティブイーグルに施  
したような改装は出来ないだろうし……

またまた話それたが、ノースロック社の技術提供がない今はまだ出  
来るとは少ない

現状やってることと言えば設計段階から予想される機体制御におけ  
る問題やらを解決したり、機体と関係ない武装面やらを考えたりし  
てる感じだ

一応独自でも必要技術の開発進めてるが気持ち程度と言ったところ  
か……

自分に関しては電子系が専門なので、背部から肩部に変わった兵装  
担架のせいで予想出来る機体バランスの変化への対応などといった  
機体とOSのマッチングを主にやっている

後はまあ電磁投射砲の時に得た知識で兵装に関して考えたりしてる  
がなかなか思い浮かばないもんだ

今までは知ってたことなぞってただけなので、新しく何かを作ると  
いうのは初めてというのが大きいだろう

と言ってもやることはまだまだたくさんあるので、出来ることから  
片付けていくしかないな……



第16話 人はそれを魔改造と呼ぶ（後書き）

自重をやめた結果がこれ

どう見ても無茶改造です本当にry

ちなみに主力機体には多分なりません、運動性能あげるために最大巡航速度削ってるので地上では展開が遅い機体になるかと

最高速度に達する時間は早いけど、最高速度自体は低いマリカーのピノキオ系？な感じ

どこに来るかわからないBETA相手だと展開速度はやくないと駄目でしょうし主力機体は弐型かなあと

まあ、まだ計画段階なんでロールアウト機体がどうなるかは決めてないからどうなるかわからないです

名前は無難に不知火参型とかでいいのかな……

17話 赤白黄色(前書き)

きつと並んだらチューリップみたいになるんだ……

## 17話 赤白黄色

1998年1月 - 帝都 -

今現在帝都城にて斯衛の新型機である第3世代機『武御雷』の受領式典を行っている

その式典中、お偉いさん方のありがたい訓示を聞き流しながら目の前に並ぶ色取り取りの戦術機を眺めていた

その数は約80機、赤以上の家柄の者と精鋭である斯衛第1、第2大隊から配備される予定だ

現時点では単体戦力として世界最強であろう機体が80機も並んでいるのはなんとも荘厳なものである

自分にある知識の中では年間生産数30機ほどしかなかったので、この数の聞いた時は正直びっくりした。ただ理由を考えると案外すぐに納得できたのだが……

というか年間生産数30機という兵器としてあまりに少な過ぎる生産数に疑問を持つべきだったかもしれない。

もともと、武御雷は年間生産数100機前後（これでも兵器としては少ない）を予定されていた。しかしながら、BETAの日本侵攻による西日本壊滅がそれを不可能なものとしたのだ

日本の現在の工業力を担っているのは  
北九州、関西、中京、関東の工業地帯さらにそれらに加えて東南ア  
ジアの海外工場があげられる  
そしてこれらの地域が日本の工業力の8割近くを占めている

この中でBETA侵攻により北九州、関西、中京が壊滅することに  
なるのだ……

日本の工業力は半減すると言っても過言ではない。  
前世の世界では関東が経済の中心であったが、この世界では首都が  
京都なので西日本が経済の中心なのだ  
それが壊滅するのだから予定生産数が激減しても不思議ではない

それでも30機は減り過ぎだと思いかもしいないが、その原因は武  
御雷自体にもある。

武御雷の生産性、整備性を削ってでも高められたその機体性能は近  
接戦闘において他の機体を寄せ付けないものとなっていて、まさに  
日本の技術の粋を集めた工芸品とも言える機体だ  
そのような関係上、機体の部品の多くを日本の技術力を支えてきた  
中小企業の匠たちのハンドメイド製のものに頼っている

中小企業と言えば思い浮かぶかもしれないが、つまるところ部品生  
産において南大阪あたりの中小企業群に依存していたのである

そのようなわけで西日本が壊滅した史実では年間生産数30機とい  
う事態に陥ってしまったのだ

この世界では西日本壊滅前に配備が出来たので、夏の侵攻までにも  
う1大隊分は配備されるだろう。と言っても3個大隊程度では焼け

石に水かもしれないが……

個人的にはBETA戦に際して瑞鶴で出撃しなくてよくなって安堵したといったところで、本来なら武御雷の受領を後回しにされるような技量なのだがこの時ばかりは自分の家柄に感謝した

ちなみに受領する予定の機体はまあ当たり前だが青のR型である

ここで武御雷の生産タイプを紹介しておく  
区別は大まかにわけて4つある

TYPE - 98R

R型は紫と青の機体が該当して、特に將軍機はワンオフチューンが  
ほどこされ、生体認証つきの文字通り將軍専用機である

同じくR型にあたる青は汎用的な調整の少数生産機で自分が受領する  
のはこつち

かなりの高機動型だが自分の戦術機適性だと機体に振り回されそう  
だし、出力リミッターかけてもらったのは周りには秘密である……

TYPE - 98F

赤や黄といった五摂家に近い家柄の武家に下賜される機体、次に紹介するA型以上の高機動機

月詠さんやら本田はこれに乗ることになる

TYPE - 98A

白にあたる一般的な武家が下賜される機体。一応高機動機に部類される

TYPE - 98C

A型が高機動型とされたので標準機に。武家でない一般衛士に下賜される

井伊、榊原、酒井などはこれ

ちなみに型番見てまず思ったのが

『TYPE - 00、タイプゼロじゃねー』

だった。武御雷IIタイプゼロは自分の中で鉄板だったのでちょっとシヨックだったり……ゼロはゼロ戦とも被るし特別な数字だったのになあと

まあ、ゼロ戦は登場当初こそ強かったが大戦後期はポンポン落とされる機体だったので、名前が別になったのは縁起よかったかもしれない



こうして式典後も武御雷を眺めながら物思いに耽っていると護衛小隊の一人である井伊が話しかけてきた……

「新型配備されるって聞きましたが自分ら黒にも配備されるなんて思ってたんですけどわ」

「そうですね……、てつきり後回しになるのかと」

と榊原も続いてきた

相変わらず酒井は頷いてるだけだが……

「斯衛の本分に將軍及び五摂家の守護があるから、お前ら警護小隊には優先的に配備されたらろうさ」

「まあ新型に乗れるんならなんでもええんですけど……、瑞鶴は流石にもう古いですし」

「瑞鶴はいい機体ですけど第1世代なのが玉に瑕ですね。帝国軍や他国でも第3世代機が広まるなか斯衛だけが旧式機だけなのは前々から憂慮されてましたし武御雷が配備されてよかったです」

「C型でも十分」

「確かに第2世代すら配備されてなかったのはなあ……。あと、酒井。C型で十分とか言うがC型にしか乗れないから」

結局イーグルの改良型は流されたしなあ……

「どう考えても和志様にR型渡すより忠篤様がR型乗った方がええと思います」

「忠篤はF型だから十分だろうに」

「それやったら自分と機体の色だけ塗り替えて交換しましょうや」

こいつさつきから五撰家に対してどう考えても不敬だろjk  
まああまり気にしてないけど

「R型とC型は外見からして違うから無理、後喧嘩売ってんのなら忠篤に買わせるぞ」

「さつきから聞いてればしょうもないことばかり……。まだ機体受領終わってないんですから早く行きますよ」

「忠篤。ちょうどいいところに来た、このお馬鹿さんに立場というものを教えてあげなさい」

「そんなことしませんし、喧嘩も買いません。そうしたいなら自分でなさってください」

「ワロス」

「ぐ……、こつなつたら上に掛け合って井伊だけ瑞鶴のままにしてもらおう」

「それは横暴や！」

「生まれの不幸を呪うがいい……。」

まあ冗談だけど。流石に自分の護衛の戦力減らすようなことはしないさ」

「和志様と井伊も、そろそろやめないと置いていきますよ」

「置いてかれるのは地味にツライからやめれ」

というか護衛が護衛対象置いていくとかねえだろ

「まあまあ、早く行きましょう」

「そう言っつて、実は新型に早く触りたいだけだろ……」

「……それは。とにかく！向こう待たせるわけにはいきませんので」

「まあいいさ。んじゃ、斯衛の新型というのを貰いにいきますか」

……

……

17話 赤白黄色（後書き）

やっと1998年に

これまでのほとんど前置きみたいなもののもりだったけど、1998年以降ちゃんと書けるかなあ

SS書いてて思っつのは、SSは書くもんじゃないやなくて読むもんだとい  
うことですね……

## 第18話 平穩の日々のおわり

武御雷受領後は機体慣熟訓練のために斯衛で行動する日が増えることになった

やはりというか第1世代からいきなり第3世代なのでいきなりは乗りこなすなんて出来ないわけで……OSも新型になり機能が増えたので尚更だ

ちなみに武御雷に搭載されたOSは98式OSと呼ばれている  
当初は武御雷専用OSとされたが、まだまだ戦力不十分としてCPUの価格が下がり全軍配備可能な程になれば帝国軍にも配備される予定だ

ハイブ攻略用戦術機の開発はまだ本腰入れてるわけじゃなかったの  
で慣熟訓練はちょうどよかったのかもしれない。今は水面下でのノースロック・グラナン社との接触を主にしてるのだがどうなるやら  
慣熟訓練の関係上、斯衛の隊舎で過ごす時間が増えたわけだが何かと落ち着かないことが多い、技術廠に引きこもりすぎてあちらがホームになっていたとかだとあり得すぎて笑えないな……と、理由はそれだけじゃないんだけど

なんとというか戦術機訓練をただのルーチンワークとして処理してた  
せいで斯衛を中からじっくりと眺めたのは久々なのだ

既に任官して7年、古参とまではいれないが従軍期間はなかなかの  
年数になっている。

戦術機に乗るには上下左右とかなりのGで揺さぶられる環境に耐えるためかなりの体力が必要となる。そのため、だいたいの衛士は40才くらいまでで後方に移ったりと戦術機を降りる者が多い。中には50過ぎても乗ってるナマモノもいるが例外だろう

具体的には紅蓮中将と神野少将なんだが……この2人は本来なら後方で指揮する階級でありながら未だに戦術機に乗って前線部隊を指揮している

この2人が率いる斯衛第1、第2大隊は精鋭として武御雷が配備されたばかりだ

その際に赤の武御雷2機に兵装担架を2基とも近接長刀用兵装担架へと改装するように要望がいったのは、只の噂だと信じたい

突撃砲なしの近接武器のみで戦うとか正気だろうか？それでもあの2人ならトップクラスの撃破数稼ぎそうであるが……

まあそういう例外を除き、若い者が多い衛士という兵科は世代の移り変わりが激しい。7年もいると世代交代してるのなんて不思議じゃない

そうして世代交代した斯衛の戦術機隊に時代の移り変わりを実感して年取ったと思えば、まだ自分が22才で全然若いことにハツしたり。任官したての少年のような少尉に敬礼され、内心複雑な気分で答礼したりとそんなのも落ち着かない理由となっている

そんななかで比較的落ち着く護衛小隊の面子とツルむのは当然の帰結なわけで……

護衛小隊の方も優先的に新型受領したのが僻みや妬みに繋がって居心地悪いのか、いつも通り3人でいたので類友だろう

受領理由があっても武家より先に黒が新型受け取ってるのはなかなか納得出来るものじゃないんだろうな。流石に冥夜に突っかかってきたみたいな馬鹿はいなかったが、それっぽい視線はよく感じたので間違いない

そんなこんなで武御雷の慣熟訓練を主としつつ98年の1月は過ぎていった……

1998年2月

武御雷受領して1ヶ月が経ち慣熟訓練も進み、機体にも段々となれてきて第3世代への違和感が減ってきた。これなら夏のBETA侵攻にはなんとかなるだろう  
白銀武やオルタヒロインたちは不知火にすぐ慣れてたけど、あれは吹雪から不知火という同世代間のものだったし……何より才能が違い過ぎるから比較にならない

結局衛士適性はB止まりだし（衛士適性はA+〜E-の15段階にSと適性外で評価される）、兄とかなんかA+とかあるのに理不尽感が否めない

もともとこの体の適性が低いのか前世の魂に引っ張られたせいで低

くなつたのか……神のみぞ知るところである

とにかくないものねだりしても無駄なので、この鬱憤は井伊あたりにぶつけるか……（3人とも一応帝国軍のもとエースなので適性はB+以上ある）

今年の夏にも侵攻があるだろうにも関わらずこんな感じではお気楽過ぎると思うかもしれないが、これは仕方ないと言いたい人間とは慣れる生き物で、常に緊張感など保ってられないのだ。迫り来る危機に晒されたとき、人間はその恐怖に慣れるか狂うかで身を保とうとするらしく、どうやら自分は狂わずに済んだ質で慣れるほうだったわけだ

BETAに関してだが、OS変更程度の戦力増加などものともせず占領地域を増やしている。流石に衛士の死傷者数は減っているのだが無限に戦えるものなどなく、肉体的疲労や戦術機自体の限界（駆動系の限界や物資不足など）で戦線離脱するものが多いのだ

今はもう中国を食らいつくし朝鮮半島に戦場を移している  
来月、遅くとも再来月には光州作戦が発動するだろう

日本も撤退に合わせて増援を送るらしく、願わくば彩峰中将事件が起こらない……ことにはならないだろうなあ。まあ、ここまで来たら成せばなるの精神で行くしかない

本当なら中将に直接あつて話すべきなんだろうが、軍令に反してまで事を成した人物に何を言えば説得出来るかわからない  
正直どう転んでも中将は民間人救助を優先すると思う

中将の人となりを感じた感じからしてそういう人みたいだし



まあ、なんだかんだでBETA侵攻に対しては考え得る措置は父に話したし今は少しでも早く武御雷に慣れるしかないな……

……………第一部完……………

## 第一部の簡易軌跡

75年0才 主人公誕生

80年5才 前世知識覚醒、活動開始

85年10才 85式OS完成

86年11才 瑞鶴とF15のDACT

87年12才 陽炎試験導入

89年14才 陽炎正式配備

90年15才 斯衛入隊、少尉に

92年17才 92式OS完成、米国戦域支配OS発表

93年18才 不知火配備、電磁投射砲試射成功、それに伴い専用艦艇建造計画『暁計画』始動

95年20才 中尉昇進、コンボ搭載OS開発完了（後の98式OS）

96年21才 大陸の戦況により九州沿岸に第2種避難勧告

97年22才 大尉昇進、ハイブ攻略用戦術機開発計画立ち上げ、電磁速射砲搭載巡洋艦2隻完成  
ブラゴエスチエンスクハイブ建設により北海道北部に第2種避難勧告

98年1月 98式OS搭載武御雷配備開始

第18話 平穩の日々のおわり（後書き）

この話で序章的なものがおわります

次からは多分BETA侵攻に入る感じですよ

ちなみに衛士適性に関しては適当に設定しました

## 1JのSSSでの作者妄想の軍設定（前書き）

第2部入る前に考えてた軍設定をのせます

賛否両論あるとは思いますが明らかにおかしいところがあればこの設定でいいことと思ってます

ただまだどうなるやらわからないので後々修正する可能性は高いです

ちょっと修正します

## IIのSSSでの作者妄想の軍設定

以下は本土侵攻直前の戦力で詳細でなく簡易的なものです

日本海軍連合艦隊

第1艦隊

戦艦3個戦隊9隻

護衛4個戦隊（巡洋艦1駆逐艦6）28隻

計約40隻

第2艦隊、第3艦隊

巡洋艦2個戦隊6隻

砲艦2個戦隊6隻

護衛4個戦隊28隻

計40隻×2

第4艦隊、第5艦隊

潜水艦3個戦隊30隻（海神部隊含む）

計30隻×2

第6、第7、第8輸送艦隊

戦術機母艦 150隻

以上戦艦 12隻含む水上戦闘艦 140隻、潜水艦 60隻、戦術機母艦 150隻

従軍者数約 30万

陸軍設定

(小隊 4中隊 12大隊 36連隊 108師団 324軍団 972として設定)

九州方面軍

1600機 (実働 1200)

中国、四国方面軍

1000機 (800)

帝都守備軍

1000機 (800)

中京、関東方面軍

1000機 (800)

東北方面軍

800機(600)

北海道方面軍

1200機(1000)

本土外(大陸派遣軍や沖縄、対馬などの諸島部駐留部隊)  
計1200機(1000)

以上計8000機戦術機戦力(実働6000強)

内訳は撃震などの第1世代5000機、陽炎などの第2世代1000機、不知火などの第3世代2000機

従軍者数は約150万

衛士1万、戦術機後方要因(整備兵やら)50万  
支援砲兵(戦車や自走砲)、機械化歩兵計50万  
後方勤務要員50万

航空宇宙軍

再突入型駆逐艦艦隊など

従軍者数約10万人

以上は適当に設定したんで実際どうなのかわかりません

ただBETA戦に関してこの設定で書こうと思っています

適当に設定したとは言っても一応ちよっとは考えました

本土侵攻後の疲弊した状況下で佐渡に戦術機1000機以上投入できたり、戦艦も9隻は出たのでこのくらいはあるかなあと



第19話 光州作戦（前書き）

統一中華戦線と大東亜連合軍を混同して書いてたため少し強引に修正しました

## 第19話 光州作戦

光州

朝鮮半島南端部にあるその地で国連軍と大東亜連合軍（華北部から撤退してきた統一中華戦線も含む）の朝鮮半島撤退支援を目的とした作戦が行われようとしている

大東亜連合軍は領土を失った東南アジアの国々の多くから成り立つ組織で、その経緯はスワラージ作戦が国連の秘密計画のために強行されたことに対する不信感により国連軍の直接的な指揮下に編入されることを良しとせず、東南アジアの国々が間接的に連携するため、96年に結成したのが始まりだ

統一中華戦線の方は国民党と共産党が協力し台湾にて立ち上げている

光州にはその中の元中国華北軍で台湾へ退避出来なかったものと半島軍を主とした部隊が集まっていて、極東国連軍と帝国の大陸派遣軍とともに軍民の大陸からの撤退の時間を稼ぐため、迫り来るBE TAに対して最後の攻勢に出る予定となっていた

そこにはかつての大国としての面影はなく、敗残兵も斯くやといった様である……

中国では紀元前より黄河を中心として文明が興り、その後も様々な勢力が栄枯盛衰しながら東アジアの中心として歴史を積み重ねてきた。第2次大戦後も世界最大の人口を誇る大国としてその威容を誇っていたのだ

それが今では住む土地すらBETAに追われ、奪われた故郷もいつ取り返せるかわからない状態なのだ。彼らの今の心境がどういったものなのか……単純な言葉で表せるものではないだろう

そして彼ら大東亜連合軍ほどではないにしろ、帝国軍と極東国連軍も決していいと言えない状態と言える。どの軍も度重なる撤退戦により消耗しているのだ

それでもいつの日かBETAに逆撃するためにと、沈みそうになる心に鞭打って士気を上げようとしていた

そんな中比較的高い士気を纏ったものたちがいた

.....

## 帝国海軍大陸派遣艦隊

### 旗艦『三隅』

この艦隊は名目上は大陸からの撤退作戦を支援するために送られたものである。帝国海軍第1艦隊から戦艦1個戦隊を抽出し、その3隻の戦艦を中心として編成された艦隊の火力は支援としてはなかなかのものがある

旗艦の巡洋艦『三隅』は最上級巡洋艦の2番艦で、最上級は戦闘力より司令艦としての能力を優先され改装されている

この三隅率いる艦隊は支援としての任務の裏で、新兵器を搭載した試作艦艇の実戦テストを真の目的としていた……

「小沢提督、派遣艦隊全艦配置につきました」

派遣艦隊の旗艦にて、作戦参謀の一人が艦隊司令官に配置完了の旨を告げた。

「ふむ、それでは第2戦隊の『信濃』に繋いでくれ」

戦艦『信濃』、主人公の前世の知識では航空母艦になるはずだった大和級3番艦だ

航空戦力の登場により無用の長物となった戦艦であるが、この世界では航空戦力を無力化したレーザー級の存在により、支援砲撃用艦艇として廃艦を免れたのだった……

「お呼びでしょうか、提督」

「安部君、全体配置は完了した。支援砲撃は戦艦中心となるだろうから、作戦開始後の砲撃に関しては君に一任する。陸軍からの要請による目標は随時データを送るから好きなようにやってくれ」

「了解しました。しかし提督、漸く海軍の出番ですね。今まで活躍の場が陸軍のみで鬱屈としておりましたが、今から逸る気持ちを抑え切れません」

「たぎっておるな、安部君。気持ちは分かるが一応の目的も忘れてもらったら困るぞ」

「あれですか……、使用時期に関してはどうしたらいいでしょう？」

「それについても任せる。データ取りが主任務とは少々不満かも知れんがよろしく頼む」

「いえ、海軍軍人として任務はこなします。それにデータ取り以外は好きにしていいいのでしょうか？BETAどもに帝国海軍の恐ろしさを叩きこんでやりますよ」

彼らは帝国海軍軍人であり、根っからの軍人だった。そのため新兵器なるものあまり信用を置いていない、いくらカタログスペックがいいとはいえ実戦証明されていないものは戦力にいれることなどないのだ

データ取りも程ほどに、名目上の目的の支援砲撃に力を注ぐ気満々である

陸軍連中とは正反対に彼らがこの任務に対する士気が高いのは理由がある

そもそもの発端は航空戦力の登場による戦闘艦艇の地位低下だ。太平洋戦争の敗戦により空母の所持を禁じられた海軍は、航空戦力も満足に持つことが出来なかった

BETA戦の開始に伴い戦闘艦艇の地位が幾ばくか向上したが、BETA戦の主力は陸軍であり戦場の華は戦術機。やはり海軍は主役にはなれない……

海神の保有などなんとか予算を工面したが、全体での予算削減それによる海軍縮小は回避出来ず。ずっと冷や飯を食わされていたのだそんな中で久々の出番となれば、それが新兵器のテストが主任務とはいえやる気になるのは当然だろう

士気の高い海軍が光州の西部沿岸沖に布陣しているなか、BETAのほうはソウルから光州まで続く半島の西側沿岸の平野部を南下し、その手を光州に届かせようとしていた……

第20話 作戦の経過（前書き）

ちよつと修正して再投稿

## 第20話 作戦の経過

光州地方では国連軍司令部が中心である光州に司令部を置き、それを守るように帝国軍、国連軍、大東亜連合軍が沿岸部から内陸にかけて布陣していた。帝国軍は艦隊との連携上沿岸部の近くの防衛を任されている。

後方の半島南端では軍の非戦闘員及び民間人の脱出が進められていたが、脱出を拒む現地住民の存在などによりその作業は思うように進んでいない

そんななか内陸部では、国連軍、大東亜連合軍によりBETAとの戦闘が始まるうとしていた・・・

### 派遣艦隊第2戦隊『信濃』

「艦隊旗艦から通信で、作戦開始に伴い内陸部で戦闘が開始されたとのことですよ」

「敵の沿岸部への到着予定時刻は？」

「あと20分ほどと思われます。敵の内訳は先陣として突撃級、第2陣として要撃級戦車級、そして本陣として要塞級レーザー級含む



BETA群が確認されています。レーザー級に関してはこの規模の集団にしては確認できる数が少ないとの報告があります」

「ふむ、少ないとはいえレーザー級がいるならAL弾頭を使う必要があるか。第2戦隊以下の砲撃に参加する艦にはその旨を通達してくれ」

「了解しました」

「BETAめ、来るなら来い。人類の戦力は戦術機だけではないことを教えてやる」

そしてついに内陸部から戦闘がはじまり光州作戦が開始された。内陸部では迫りくるBETAに対し第一撃として、戦車、自走砲、MLRSなどの砲撃車両が一斉に火を吹いていた。戦術機とは違い大型の兵器を搭載できる車両からの砲撃は光州北部を更地にしてしまふかと思われるようなものであった……。それでもBETAは止まらない、そもそもこれでBETAが止まるようなら人類はロシアを失うようなことはなかったのだ。

支援砲撃によりBETAの氣勢を削ぎつつ重金屬雲が張られたら戦術機の出番となる。高度コンピューター、飛翔体、有人兵器とBETAの優先目標としてはこの上もないものである戦術機は自然とBETAを誘因する。

戦術機がBETAをどれだけ長時間誘引できるか、その間に支援砲撃でどれだけBETAを減らせるかが対BETA戦のカギとなるだろう

内陸部で戦術機隊が戦闘に入ろうとしている頃、沿岸部ではBETA

Aの先陣が到着しようとしていた

「沿岸部にBETAの出現を確認しました」

「ついに来たか。砲撃参加艦艇に通達・・・」目標、靈光群北部一帯。撃てー！！」

第2戦隊所属の大和級戦艦『信濃』『美濃』改大和級戦艦の『加賀』が搭載する45口径46cm3連装砲塔が一斉に火を噴いた。大和級2隻の3連装×3基、改大和級1隻の3連装×2基の合計24門の巨砲から響く轟音は、防音処置の施された艦橋にいてもなお体の芯に来るものがある

「この芯に響く巨砲の嘶きこそ戦場の持ち味よ・・・」

『信濃』艦長安部大佐の指揮のもと、その他の巡洋艦、駆逐艦も搭載兵器である対地ミサイルを次々と発射している。

それらの攻撃は20kmの距離を30秒ほどかけて、BETAの先陣である突撃級に後方の本陣から放れるレーザー級の迎撃に落とされながらも突き刺さっていった

陸上の野砲などとは比較にならないほどの大威力の大砲は

『戦艦の主砲は4個師団に匹敵する』

とまで言われている。その隔絶した威力の砲撃は突撃級の装甲殻な

どものともせず、靈光群北部に小規模なクレーターを作りながら先陣の突撃級を撃破していく

「砲弾迎撃率60%、やはりレーザー級の数はそこまで多くないと思われませう」

「なに、こちらからしたら好都合ではないか。重金属雲濃度も戦闘濃度に近付いている・・・そうなれば戦艦の本領発揮だ」

突撃級を確実に減らしている状況ではあるが、何分数が違いすぎる・・・。圧倒的破壊力があるとはいえ24門とその他ミサイル群では突撃級の全てを屠ることなど到底できず、陸軍の待つ靈光群中央へとBETA先陣が抜けて行った

「BETA第1陣、靈光群北部を突破しました。続いて第2陣が迫っています」

「抜けて行ったものは構わん、陸軍の連中に任せておけばよい。重金属雲が戦闘濃度に達し次第、AL弾頭の数を減らして本格的な砲撃に入る」

靈光群中央部、帝国大陸派遣軍

「彩峰中将、あと10分ほどでBETAの先陣が到達することです」

「こちらからももう見えておる。全戦術機隊戦闘準備！わが軍の後ろには民間人がまだ残っている。小型種一匹足りとて通すことのないよう気合いを入れて行け。

（しかし、海軍の連中。随分と張り切っている、まあ気持ちはわからんでもないが・・・）」

海軍の砲撃開始に合わせ、陸軍でもすでに戦闘車両による砲撃がはじまっていた。

突撃級の突破に合わせ、戦術機隊も戦闘準備にはいる。当初は一個軍団規模もあつた大陸派遣軍であつたが、BETA戦の想定外の消耗によりその数はかなり減っている。激震と不知火を主とした部隊が大陸最後の戦いに赴こうとしていた

「狭霧君が負傷で内地に戻っていたのは幸いだったかもしれんな・・・」

### 派遣艦隊第2戦隊『信濃』

「BETA第2陣、靈光群に到達！」

「要撃級、戦車級のお出ましか。例の新兵器の威力確認にはちょうどいいかもしれん。第2陣に対する支援砲撃に加わるように『若林』に通達しておけ」

そして霊光群北部ではBETAの本格的な部隊である要撃級、戦車級の部隊が出現していた

電磁投射砲搭載艦艇『若林』もそれに対する砲撃に加わるため、その砲塔を霊光群北部へと向けていた

今回はアウトレンジ戦法はとっておらず、BETAに対する電磁投射砲の威力確認のため第2戦隊と行動を共にしている。そして今現在、周囲にレーザー級に対する護衛駆逐艦を引き連れながら砲撃開始を今か今かと待っている

「全艦砲撃再開！今までののは前座だ、陸軍の連中の仕事がなくなるくらい撃ってやれ！！」

重金属雲の展開にともない、AL弾の割合を減らした砲撃が再開された。その中には試作巡洋艦からの砲撃も加わっている

艦載砲にするために作られた75口径180mm電磁投射砲が分間15発という艦載主砲にしては早い間隔で火を噴く。いや、火を噴くという表現は間違いかもしれない・・・、マッハ10に近い速度で発射される弾頭は、多大な抵抗により一部がプラズマ化しているのだ。さながら流星のごとくBETAの第2陣に対して向かっている

った

他の弾頭とは隔絶した速度を持つその弾頭は、戦艦の主砲や駆逐艦からの対地ミサイルを抜き去って、要撃級、戦車級を主としたBETA群に文字通り突き刺さる。要撃級はその体を大きく抉られ、戦車級にいたっては原型もとどめずミンチにしていく。第1陣に加わっていないかった突撃級に対してもその矛先は向けられた

モース硬度15というダイヤモンド異常の硬さを持つ突撃級の装甲殻であるが、マツハ10に近い砲弾を防ぐことなどできず、やわらかい粘土のごとく装甲殻ごと沈んでいった・・・

「ほう・・・、新兵器というからあまり期待していなかったがなかなかのものではないか。大砲のような圧倒さはないが、なかなか心に来るものがあるな。技術廠の連中も面白いものを作ってくれる」

彼ら海軍は技術廠の者たちにあまりいい感情を持っていなかった。対BETA戦では陸軍の、特に戦術機に関するものが優先され、いつも海軍は後回しだったのだ。正直、無駄飯食らいとぐらいしか思っただけなのである

「『若林』の電磁投射砲、検査と砲身冷却のため一時砲撃を中断します。再砲撃は検査終了後となる予定です」

「了解した。（しかし、まだまだ新兵器ということか・・・）」

この後、BETA本陣が到達した後もAL弾により重金属雲の濃度を保ちながら戦術機隊によるBETAの吸引と支援砲撃により比較的順調に光州作戦は推移していく・・・

しかしながら、異常はすぐそこまで迫っていた

大陸派遣艦隊、作戦旗艦『三隅』

「小沢提督、国連軍本体司令部がBETAの奇襲を受けました！！現場の指揮系統が混乱していて状況がつかめません。さらに光州全域でレーザー級の数が急増、支援砲撃の迎撃率が80%を超えています！！！」

「なんと。しかしながら、内陸部ではわが艦隊ではどうする事も出来んぞ」

「国連本部は帝国軍と大東亜連合軍に救援要請を出しているようです」

「して、陸軍はどうしている？」

「それが・・・、沿岸部を抜かれると後方の民間人に危険が及ぶと  
のことで救援要請には応えられないと・・・」

「しかしそれでは命令違反となるぞ・・・。彩峰中将は一体何を考  
えておる」

この光州作戦では軍の指揮系統の一本化のため国連軍が指揮を主導  
することになっていた。本来なら帝国軍も大東亜連合も救援要請に  
は応えなければいけないのだ  
連合艦隊でもこの状況にどう対応するか迷っていたところに第2戦  
隊の『信濃』から通信が届く

「提督、ここはこちらに任せてもらえませんか？」

「安部君、何か策があるのかね」

「あれを使います。今現在、砲弾をA1弾に順次切り替えている最  
中ですがそれでは間に合いません。新型艦艇が想定通りの威力を発  
揮できるなら重金属雲の展開なくともレーザー級の排除がかなうは  
ず」

「新兵器に頼るなどいかさか博打がすぎんかね？」

「しかしながら、今は藁をもすがる状況。賭けにでも出ないとどう  
しようもありませんまい。それに新型艦艇が駄目でも我が艦隊はやっ  
てみせます！！」

「確かにその通りだ・・・。この件は君に一任する、このまま好き



なようにやってくれたまえ。何、失敗の責任は私が取る」

「ありがとうございます。それに、提督に責任を取らせるような事態にはさせません」

### 派遣艦隊第2戦隊『信濃』

第2戦隊では戦域で急増したレーザー級に対応するため順次AL弾に換装していた

霊光群では支援砲撃の途切れからだんだんと戦線が後退していく・・・。いち早く支援砲撃を再開するためレーザー級の排除は急務である

224

「『若林』にレーザー級の迎撃データから得られたその座標を送ってやれ。『若林』には検査を中断して全力射撃でレーザー級の排除を優先するように通達しろ」

もはや、この状況に対応するためには新兵器にも頼らざる得ない状況だった。まあ、この大佐はそれが無理でもレーザー級に撃たれる危険を冒して沿岸部に近付いての副砲を含む全力砲撃でもって事をなすつもりであったが・・・

「『若林』から、検査をせずに全力射撃はどうなるかわからない。

と」

「砲身が壊れてもかまわんから、『やれ』といっておけ」

そうして、レーザー級に対する電磁投射砲の全力射撃が決定された。『若林』では検査のため同乗している技術者の悲鳴が聞こえるなか、霊光群北部のBETA本体に確認されたレーザー級に対して再度その砲身を向ける

イレギュラーではあるが試作巡洋艦『若林』はその運用として期待されていたレーザー級排除という役目を果たすため、分間30発に及ぶ艦載型電磁投射砲の全力射撃をはじめた

流星のごとくBETA群につきささる砲弾は、盾となっていて要塞級をもやすやすと貫通し。少しずつではあるが確実にレーザー級を排除していく……

「『若林』の砲撃が開始されました。レーザー級は確実に減ってきています、それに伴い砲弾迎撃率も減ってきました」

「新兵器は期待通り……、いや期待以上といったところか。『美濃』と『加賀』に通達、AL弾は現在換装している分で終了して、『若林』がレーザー級を排除し次第全力砲撃に移る」

レーザー級の急増により一時支援砲撃が途切れかけたが、段々とBETA群に対して砲撃が届くようになってきた  
しかし、事態はそう簡単には進まない

「レーザー級の7割を排除しました。しかしながら『若林』の砲身に異常が出たようで、これ以上の砲撃は不可能だと。どうやら冷却が間に合わずオーバーヒートしたようです」

「なんだと!!やはり新兵器はこれだから……。しかしレーザー級の排除はほぼなった。後はどうとでもなる。全艦に通達、『これより全力砲撃に入る!撃って撃って撃ちまくれ!!ここで踏ん張らずしてどうする、帝国海軍としての意地を見せよ!!』」

こうして派遣艦隊は持ってきた弾薬を撃ち尽くすかの如く、次々と大砲、ミサイルを発射していった……

### 大陸派遣艦隊、作戦旗艦『三隅』

「どうやら安部君が上手くやってくれたようだな」

「靈光群での支援砲撃が再開して戦線には余裕が出つつあるようです」

「君、陸軍の彩峰中将と撃いでもらえるか。沿岸部の戦線は海軍がなんとかするから、戦力の一部を国連本部へ回すようにと」

「了解しました」

「今更救援送ったところで命令違反には変わりないが送らないよりはマシだろうて・・・」

BETAの予想外の行動により混乱した沿岸部だったが、海軍の奇策により状況は落ち着きつつあった  
陸軍でも状況の緩和から余裕が出て、高速展開可能な不知火の部隊を救援として国連司令部本部に送ることになる

しかしながら、その遅すぎた救援は国連司令部を救うことはできず。司令部が陥落した国連軍はかなりの損害を受ける結果となった。史実の損害よりマシではあるうが、結局は同じような結果となっってしまったのである

そうして光州作戦は問題を残して幕を閉じていく・・・

「大統領、これが極東での撤退作戦の推移となります」

ソ連、中国、欧州が消えた今、世界最大の国家として君臨するアメリカ合衆国のトップである大統領が光州作戦に関する報告を受けていた

「国連軍が大損害を受けた・・・か、」

読み進める報告書には作戦の推移が大まかに書かれている

「民間人の避難を優先するために命令違反か、なんとも感動的な話だな。彼が救った民間人がアメリカ人で、彼がアメリカ軍人であったなら、民心を鑑みてきつい処罰はできなかっただろう・・・。しかしながら彼は他国軍人であり助けたのはアメリカ人ではない」

「では国連を通じて抗議を？」

「ああ、国連への工作を頼む。個人としての私は彼を許せるかもしれないが、合衆国大統領としての私はそれをすることができないのだ・・・。全ては合衆国の国益のために」

世界最大の国家であるアメリカ合衆国はその国威を保つため、何よりも国益が優先される。例え、それが非人道的であっても国益を損なうようなことはできないのだ

光州作戦で起きた問題は、このまま日米での国際問題に発展していくことになる・・・



第20話 作戦の経過（後書き）

なんか電磁投射砲艦艇活躍させようとしたら戦術機がほとんど出ない話に

勢いで書いてたら今までで一番長くなったという……  
次は光州作戦後の後始末とかかなあ

## 第21話 光州作戦の後始末

### 光州作戦終了直後

即時的な問題として日本では一時的な難民の受け入れ、被害を受けた大陸派遣軍の收容などが起こることになる。

難民に関しては土地の余裕のない日本で永続的に受け入れることは不可能なので、随時オーストラリアやインドネシア諸島といった大東亜連合諸国が臨時政府を置いている地域へと随時送られる予定となっている。

臨時受け入れ地域となった北九州などは一時混乱したが、收容先がすでに受け入れ態勢を整えていたことから比較的早期に混乱は収まるだろう

大陸派遣軍の方はというと、やはりというか被害状況が酷かったのは陸軍だ。派兵当初より度重なる増援を続け一時は一個軍団規模まであったそれではあるが、損耗に補充が追いつかず特に大陸の対BETA戦の転機とも言える九一六作戦以降はその数を減らし続け、光州作戦では最盛期の半分以下という状況だった。

そして今、日本に帰還した彼らの様相は第2次大戦後の満州からの帰還兵を彷彿とさせる有様で、大陸でのBETA戦の過酷さを表すかのようである。

海軍の方は比較的マシで、今回は上陸支援を行ったわけでもないのに散発的に攻撃された護衛艦の一部が中大破したにとどまった。逆に砲身が使い物にならなくなった『若林』はドッグ入りが確定し、検査及び砲身を強化されたものに換装をすることになる



この結果に主人公が『やはり若林、故障の因果からは逃れられないか……』と意味分らない発言をしたかどうかは不明である

任務を終え長期休養に入る者たちには、無事家族のもとへ戻れたことを喜ぶ者、戦友を失い悲しみにくれる者、反対にBETAへの復讐を誓う者など様々いたが、それらの感情とは別に皆一様にようやく一息つけたことへの安堵があった。

しかしながら、それは仮初の休息であり彼らは再度先の知れない戦いに向かうことになるだろう……

大陸派遣兵個人としてはそのような感じではあるが陸軍全体では忙しくなったと言え、大陸派兵により疲弊した戦力の回復や軍の再編が急務となっている。

特に戦術機に関しては一番損耗が激しく、まともな状態の機体などないような状況で損傷した機体を修理する整備兵が悲鳴を上げることとなった。次に忙しかったのは人事部で帰還兵達の賞罰や本土防衛軍への再編に追われている

最後にこれが一番の問題を有するものであるが、光州作戦にて国連司令部陥落という事態をまねいた彩峰中将をどうするかということである……

#### 日本帝国首相官邸

「国連より彩峰中将の国際軍事法廷への引き渡しを要求がきており

ます」

「すでに聞いておる……。第4計画のことを考えれば拒否することなど出来んが、要求を飲めば陸軍が反発するであろう。どちらを取るにしろ国連と陸軍を納得させる必要がある……」

日本政府はアメリカが工作を入れた国連から彩峰中将の引き渡し  
の要求が来ていた。時の内閣総理大臣である榊首相は、2者択一のま  
さにオルタネイティブな事態に立たされている状況である  
第4計画を誘致した者として最低でも国連を納得させなければなら  
ない

BETA戦の最前線を預かる国家の政情安定を人質に、国内法によ  
る嚴重な処罰という線で国連を納得させるといふ非情な手段を取  
るかとしていた時に、アメリカから打診が来る

『光州作戦にてレーザー級を排除した電磁投射砲の技術を開示す  
れば、アメリカは国連の仲介をする準備がある』

というものだった……。国連とアメリカの係を知る者からした  
ら「何言っただ、国連 アメリカだろ。自作自演してんじゃねえ」  
と叫ぶような内容だが、建前上はアメリカも国連の傘下組織なのだ。  
アメリカからすると本来の目的は、国連を通じての日本主導の第4  
計画の失速させアメリカ主導の第5計画を促進させるというものだ  
った。正直日本の1将校の命などどうでもいいアメリカからすると  
日本が1将校の命運で解決しようというのなら電磁投射砲技術をも  
らった方が国益に適うとなつたのだ。

アメリカからすると貰えればいいか的な案だったが、日本からする  
と話は違ってくる

彩峰中將はその人となり、次期將軍である煌武院悠陽殿下の教育係の一人だった関係から軍内部や民間でも慕われていた人物だった。極刑による対処をすれば、軍上層部はともかくその他からの反発がどうなるかわからない・・・物で対処できるならそちらの方がいいと政府は判断した

しかし、この事態に反発することになるのが海軍だ。まあ当然かもしれない

海軍からしたら『なぜ陸軍の尻拭いを我々がしなければならぬ！』となるのだ。現状電磁投射砲の運用は海軍が行っている関係上そうなるのは仕方ないと言える

それに対して陸軍も吠える『BETA戦の矢面に立ってるのは陸軍だ、後ろから撃ってるだけの海軍が何をえらそうに。こちらは血を流してるんだ、物ぐらい払え』と陸海軍の関係が険悪になりかけた。マシになったと言え戦前の陸海軍の仲の悪さは健在である。

困ったのは政府だ。やっと穏便に解決できそうだったのにまた問題が再発したのだから、榊首相は胃に穴が空く思いだったに違いない・・・もしかしたら本当にそうだったかもしれないが

とにかく穏便に済みたい政府は陸海軍間の折衝に走ることになる。榊首相の熱心な説得（時には土下座したとまで言われている）により以下のような妥協案となった

電磁投射砲の技術は開示

流星に無処罰は無理だろうので彩峰中將は2階級降格という極刑よりは軽いが軍としては重い処罰に

負担を強いる海軍には予算増額で対処する

国連については民間人を救われた関係上最初から日本よりだった大東亜連合とアメリカがとりなしをする（アメリカが取りなしを持つ

た時点でほとんどまとまったようなものだが・・・)

と簡単にまとめればこんな感じとなる。

海軍が割りとすんなり了承した裏には事情があった。電磁投射砲の技術放出に関して猛反発したかに見られた海軍であったが、実はそこまで現状の電磁投射砲に期待はしていなかったのだ。海での長時間行動が求められる海軍にとって、1会戦で壊れてしまふような兵器はそれがいくら有用だからといっても高評価を与えることはできないのだ。

1会戦でドッグ入りというのは機密扱いなのでアメリカは把握していなく、アメリカはあの戦場での結果しか知らない・・・(と日本側は判断している。アメリカがそれを考慮したうえで打診したかは不明)、アメリカが手間取ってる間に増額された予算で実戦運用に足るものを作れば優位性は保たれると判断したからこそその情報開示であり予算増額だった。

今まで予算的に寒い立場であった海軍は内心ホクホク顔である

主人公が夏に備え武御雷の慣熟訓練に精を出している間に、帝国は金よりも貴重な時間を光州作戦における後に彩峰中将事件と呼ばれる問題の解決に充てることになる・・・

BETAの侵攻はすぐそこまで迫っていた



第21話 光州作戦の後始末（後書き）

政治とかよくわかんねー

かなり大ざっぱかつ適当です

国際問題とか恋愛系より怪奇だわ……

どうでもいいことですが作者の好きなマブラヴキャラは

速瀬中尉

ポニテ

香月博士

裏の主人公

安倍艦長

不死身の男

です。他にもいますが特にこの3人ですね

もしかしなくてもSSの登場に優遇されるかもしれない。

## 第22話 小休止

1997年末に鉄原ハイブが建設され日本が確実にBETA侵攻圏に入り、さらには光州作戦の後に半島が完全にBETAの手に落ちたのに伴い、北九州沿岸部では第2種避難勧告後も居残っていた市民の避難が始まっていた。

数年前から徐々に危機感を煽ってきたおかげか、すでに第2種避難勧告中にある程度避難が進んでおり、大規模移動によるパニックなどは幸いながら見られなかった。しかしそれも居残っていたものの一部であり、全てが避難しているわけではない。彼らが避難を開始するのは政府が光州作戦のごたごたから立ち直り、1998年の6月に北九州と山口県の一部に第1種避難勧告を出してからのことになる。

光州作戦の後処理で時間を取られなければ、市民の避難とともに海岸線に機雷や沿岸部に地雷を敷設するなどして防御態勢をしき始めることができたが（それでも7月までにどれほどできるかわからない）、陸海軍及び政府がごたごたについていたためそれは不可能だった。史実よりはマシであろうがやはり、侵攻がたった数ヶ月で再開されないだろうという認識の甘さは取りきれず、完全に防御態勢を整えることは出来なかったのだ・・・

「やっと武御雷の操縦に違和感を感じなくなったな」

技術廠で研究しながらの慣熟訓練だったので完全に違和感がなくなるまでなかなかの時間がかかったのだ。

「瑞鶴からするとまるで別機体ですからね」「ほんまや、それに接近戦で無茶苦茶タフなんは驚きましたわ」

「流石は斯衛の新型」

と護衛小隊の3人。こちらは專業なので忠篤とともにもつとはやくに慣熟訓練は終えている。

3人の言うとおり武御雷は流石は日本の技術を結集した機体といえ、特に接近戦ではかなりの無茶をしても大丈夫な造りをしている。接近戦を好む井伊や忠篤は絶賛といったところだ

かといって中距離戦が出来ないわけでもなく、遠距離での火力不足に目をつぶればオールラウンドな機体と言えるかもしれない。

「最近をよく斯衛にいますけど技術廠の方は大丈夫なんですか？」

「技術廠は出向扱いだからな……。一応俺は衛士が本業だぞ」

「そう言えばそうでしたっけ、大抵向こうでしたから忘れとりましたわ」

まあ確かにどっちが本業か忘れかけるけどな、自分でも技術者だと思ってるし



「お前のその小さな脳みそでは覚えられないだろうな」

「それ言うなら和司様みたいな頭でっかちにR型はもったいないで」

「くっ、戦場では背後に気をつけるんだな……。もしかしたらIFFが切れてるかもしれない」

「こっちは索敵レーダー壊れて後ろにバカスカBETA行くかもしれん……」

と言い争ってたら、忠篤がやってきた。見つかってもめんどくさいのでひとまず休戦である。

F型に乗る忠篤は生身がパワータイプな分、その戦い方がいかせる武御雷の高出力の恩恵を受けていて、俺からしたら「何それ怖い」状態となっている

まあ、それでも同じ赤の月詠中尉には敵わないとか言ってたの上には上がいるんだろう……

武御雷の配備に関してだが、あらかじめ部品を作り溜めしていたらしく6月頭に2個大隊分が斯衛に納入され、大隊長が共に五撰家で次期当主と現当主であり、第1第2大隊に次ぐ精鋭とされる第7第16大隊に配備された。

恐らくこれで夏の侵攻までに配備できる武御雷は最後だろう……

BETAの方はというと、今は不気味に何も動きが見られない。これが嵐の前の静けさ？というのだろうか……、次に動きがあるのはやはり侵攻の時と思われる。

「北九州と山口県に避難勧告が出されたみたいですが、やはり戦場になるとしたらそこでしょうか？」

と忠篤

「可能性は高いだろうさ」

「しかし、鉄原ハイブは建設されて1年も経っていませんし、ブラゴエスチエンスクハイブからの先なんじゃないですかね？」

榊原が尤もなことを言うが……

「確かにそうだが、甲1号から再度大規模増援があればそれは関係なくなるし、そもそも鉄原の方が本土に近い」

「なんやようわかりませんが、結局はBETAにしかわからんのとちやいますの？」

「それはその通りだが、お前に核心をつかれるとムカつく……。そうだ！お前がBETAに直接聞いてこいよ、『次はどこに侵攻しますか？』って」

「和志様こそ、その出来のいいらしい頭でBETAの情報手に入れたらいいんとちやいますか、出来るなら」

「ハイハイ、そこまで。和志様もいい年して子供みたいな喧嘩はやめて下さい」

「あと2年で三十路のお前が年を語るか……」

とまあ、なかなか不毛な会話を繰り返して斯衛の隊舎を後にした。

この後の激動の事を思えば、たわいない会話が出来るのはもうあまりないかもしれない……と思うと急にさっきまでの時間が貴重なものに感じる

あと1ヶ月弱

彩峰中將が死ななかつたりしたが、7月7日という因果的に重要な日の出来事はそうそう変わらないだろう……

結局防衛態勢に関しては理想の半分もいかなかった。無理する権力がないからどうしようもないので避難が済みそうなることを喜ぶしかない。後は日本がどこまで戦えるか、その力を信じるでしょう

side out……

斯衛の一大尉が対BETA戦へと気持ちを切り替えている中、それと相対して西日本の一部以外は普段と変わらない生活を送っている誰かが彼のそれを知れば杞憂だと思っただろう……。あと1ヶ月弱でBETAが来るといふ事態はそれほど信じられるものではなかった

のだ

長期休暇を終えた再編組が本土防衛軍にもどり、大陸で傷付いた兵器達の整備も進んでいる。

ベストではないが史実よりベターと言える状況で日本は運命の月である7月に突入していくことになる……

## 第22話 小休止（後書き）

BETA 侵攻前の補足とか会話文練習とか

やっと日本侵攻……

ほんとは文章量200分ぐらいで最後まで終わらす予定だったけど  
絶対無理だ

## 第23話 引き裂かれた織り姫と彦星

7月3日

東シナ海寄りのマリアナ諸島近海で発生した台風が北上を開始。日本列島に接近する時期が七夕とかぶることから『天の川』と命名される

(七夕はいつも雨)

7月4日

台風はその規模を拡大させながら沖縄南西沖に到達、中心気圧930hPa、最大風速45m/sの非常に大きな台風となり沖縄では警戒が促されることに

7月5日

沖縄近海に台風が到達。沖縄地方に各種警報が発令され、沖縄県的那覇市では最大瞬間風速58.9m/s、最大風速35.2m/sを観測した。

時を同じくして5日の明け頃、偵察衛星が台風から逃げるようにして重慶ハイブから平均時速60km強で北東方向に移動する大規模BETA群を発見。建設して間もないブラゴエスチエンスクモしくは鉄源ハイブへの補充ではないか、と判断される

7月6日

6日未明、沖縄本島の東側を通過した台風『天の川』は速度を上げながら北上を続ける。上陸が予想される九州各地では警戒態勢に

明け頃、重慶ハイブから移動するBETA群が北京周辺に到達、なおも北東に向かい移動するのが確認される

昼過ぎ、遼東半島北部を通過したBETA群が半島方向に進路を転換、ブラゴエスチエンスクではなく鉄源ハイブに向かうものと推測大規模なBETAの補充により鉄源ハイブが飽和状態になり、近いうちにBETA侵攻が予想されるため軍上層部ではその対策のため緊急会議を招集

深夜、重慶ハイブより移動してきたBETA群が鉄源ハイブを通過。鉄源ハイブからも戦力を補充しつつその規模を拡大、しかしながら台風から流れる雨雲の影響で次第に補足が困難になっていく

この段階にて軍上層部は、今回の大規模BETA群の移動を新規ハイブへの戦力補充ではなく大規模侵攻と判断

急遽、会議を予想されるBETA侵攻に対してのものに変更

最初に上陸が予想される対馬には防衛基準態勢2、北九州沿岸部、山口県北西部には防衛基準態勢3を発令

しかしながら、九州南西部に近づいた巨大台風の影響で作業に遅れが生じることになる・・・

海軍は台風の影響で艦隊の運用が困難だと予想されるため基地待機

その他、沿岸部に近い地域から民間人の避難を開始するが、深夜時間帯の影響もあり遅々として進まない結果に

7月7日

夜明け前、釜山にて次々と日本海へ侵入するBETA群を確認

対馬では防衛基準態勢が1に上げられ、北九州山口でも2に。さらには九州全域、中国地方西部にも防衛基準態勢3が出される

九州全域と中国地方西部に随時避難命令が出される

大規模BETA群に対し戦力が圧倒的に劣る対馬だが、すでに九州南西部に到達しつつある台風の影響で援軍を送ることが困難なため現状戦力で対応することが決定された。事実上見捨てられる

防衛基準態勢2にあがり沿岸部への展開を急ぐ九州方面軍と中国方面軍であるが、台風の東側に位置する影響（台風の東側は台風の進行方向と重なる影響で風が強くなる）で暴風に見舞われており、戦術機の飛行は接触事故の危険があるため困難、また車両も避難を開始しはじめた民間車の影響で展開に遅れが出る

8時頃、悲壮の覚悟で防衛線に臨んだ対馬の防衛隊であるが、抵抗むなしく通信が途絶

それにより各地防衛基準態勢を1段階昇格、しかしながら台風の接近に伴いさらなる暴風と大雨に見舞われ作業の大幅な遅れは決定的なものとなった

そして昼頃、台風の九州上陸と合わせるかのように北九州沿岸部にBETAの上陸が開始

幸い沿岸部の民間人避難は事前に進められていたため終わっていたが、軍の展開は十分に間に合わないままBETAに突入していくことになる……



「なんでこんな時にBETAが来るんだよ！」

住民避難の済んでいる沿岸部では撃震を主とした戦術機隊と何とか展開することが出来た砲撃車両隊の一部が上陸するBETAに対応していた。

巨大台風 of 暴風の中で跳躍系が著しく制約されるこの状況では、機動を頼りにしている第2、3世代の陽炎や不知火より重装甲で安定している撃震の方が頼りになるかもしれない  
そして砲撃車両隊も暴風の影響で弾が流され、思うように狙いがつけられない……。特に撃破において主力になりえる対地ロケットの類はその傾向が強かった

満足に支援も得られぬまま、戦術機部隊は戦闘に突入する

上陸するBETA先陣の突撃級に90式戦車の44口径120mm滑腔砲が砲撃を開始するが、その硬い装甲殻に阻まれなかなか撃破することができない……。MLRSから対地ロケットなども放たれるが暴風に煽られBETAの集団から外れ、効率的に突撃級を排除することは適わなかった

そして、さして速度を落とさずトップスピードに近い時速150kmに近い速度で撃震の部隊に突っ込んでいく。そして、機動力の低い撃震でこれら全てをかわすことは困難で何機かがそのモース硬度15の装甲殻の餌食となった……

「04!!!!……ちくしょーっ。CP!支援砲撃はこれだけなの

か?!これじゃ戦線が持たない」

「・・・こちらCP。台風の影響により支援砲撃が困難であり解決できるめどは立っていない。繰り返し、支援砲撃の目処は立っていない。現状の戦力で戦線を維持せよ」

「それくらいどうにかしろ!このままでは戦線を維持するどころか全滅する・・・。せめて後退して戦線のたて直しを」

「後方の内陸では民間人の避難が進んでいない、そのため後退の許可はできない。後退は許可できない。その場にて戦線を死守せよ」

「それなら、せめて増援を!!俺たちに死ねてののか」

「増援は向かっている。しかしながら、台風の影響で遅れが見られているため到着時刻は未定」

「台風台風って、なんでも台風のせいにしやがって・・・。」大尉  
「!?!」、なんd」

隊長機の撃震に突撃級から遅れてやってきた要撃級が殴りかかる。突撃級と同じモース硬度15以上の前腕は撃震の重装甲などものともせず、管制ユニットを含むその胴体を抉り飛ばした。

中の衛士がどうなったかなと言つまでもないだろう・・・  
そして、彼に最後に声をかけた副官が指揮を引き継いでいく

「ああ、大尉・・・。全機CPからの指令は聞いたな？隊はこの場  
を死守する！！・・・くそっ、不知火の連中は何やつてるんだ？」

撃震の部隊が奮闘するなか、不知火の部隊もBETA戦に突入して  
いた。しかしながら、暴風の影響でその持ち味である高機動が生か  
せず苦戦することになる。高速展開により戦線の穴を埋める役割も  
仕事のうちであるが今はそれどころか自分たちが生き残ることで精  
一杯だった・・・

こうして、北九州にて対BETA戦の幕が上がることになる。幸い  
レーザー級を含むBETAの本隊はまだ到着していなかったが、支  
援砲撃が不十分な影響や第3世代機の不知火の苦戦により戦術機隊  
を中心に損害が広がっていく

戦線の穴を埋めるため軍は戦線に遅れて到着した部隊を随時投入す  
ることで対応したが、それは言うなれば戦力の小出しという戦術と  
しては劣っているものだった・・・

戦線の建て直しのためにも内陸の避難民撤退を急ぐ軍であったが、  
人口密度の高い地域ではなかなか避難作業が進まず、また前線では  
戦力投入の間に合わなかった地域からBETAが抜けていき、つい  
に市民に被害が出始めようとしていた

北九州西部佐賀、長崎県北部沿岸部付近

この地方は北部沿岸が山間部になっており部隊展開が難しく、特に戦線構築が遅れていた地域だ

満足に戦術機を揃えられないまま戦闘に突入し、圧倒的に数の劣る戦術機隊は徐々に数を減らしていった。先の理由で増援も遅々として間に合わず、ついには後方部隊である戦車隊や機械化歩兵隊にBETAが浸透していく

「兵士級や闘士級ならまだ知らず、戦車級の数が多すぎる！！戦術機は何やってんだ！！！」

後方の機械化歩兵の部隊に戦術機の戦線の穴を抜けた戦車級がたどり着いていく……

「早すぎるっ……、それに数が多すぎて歩兵じゃ対処出来ない。このままじゃ平野部に進入されるぞ！あそこにはまだ民間人がいるつてのに……」

機械化歩兵隊や戦車隊も武装である12.7mm機関銃といった武器で応戦するが、戦術機ですら対処できない数の暴力にはどうしようもなかった。

そしてついに要撃級といった中型種も表れだす

「要撃級・・・要撃級まできやがった。俺たちにどうしろって言うんだよ」

歩兵で携帯できる武装では中型種である要撃級に対処することなど不可能だった。口々に絶望を含んだ言葉を流していく・・・  
唯一効きそうなのが戦車主砲であるが、要撃級の機動力についていけず次々と撃破されていく  
中型種の出現により士気が落ちた機械化歩兵達も加速度的に戦車級や闘士級といった小型種の餌食となっていた

そして戦線が崩壊した北九州西部では民間人の残る都市部にBETAの進入を許すことになる

筑紫平野西部に突入したBETAは佐賀、大牟田といった都市を壊滅させ有明海沿岸を通過しながら南九州方面へと向かっていく。佐世保や長崎は沿岸部であったこともあり、早期避難で被害を免れたものも多かったがそれでも犠牲者の数は相当なものであった  
佐世保の艦船ドッグでは新造していた艦船などもあったがそれらもドッグごと壊滅し被害を広げていく

勢いに乗ったBETAはそのまま熊本にもその矛先を向け九州西部を蹂躪した

福岡地方への進入は展開が間に合った部隊などのおかげで、沿岸部と内陸からの挟撃という自体は防げたが、熊本までの都市群が壊滅することは防げなかった

日も暮れ台風が過ぎ去ってその影響が収まってくると福岡での戦線は再構築することができたが、熊本方面では市民の避難と重なり効率的な戦線構築が出来ず、被害を広げながら退すると後退していくことになる

散発的な上陸があった中国地方の西部日本海側はBETAの規模が九州方面ほど多くなかったこともあり、戦線が崩壊するようなことはなかった

それでも予想外な地域からの上陸により、一部の地域で被害が出ることになる

こうして7月7日は過ぎていった・・・



第23話 引き裂かれた織り姫と彦星（後書き）

なんか台風と重なったとか聞いたんでこういう展開に

純夏さんが誕生日の七夕はいつも雨とか言っていました、これなら日本中が雨でしょう……

天の川はネタでつけました

そしてBETA戦、あまり細かく書くのは苦手なんで大ざっぱに戦闘とか難しくてわからん



## 第24話 九州の地で

BETA 侵攻から1日たち7月8日

台風はすでに九州地方を通過し本州をすすんでいる。九州では未だに強風が見られるが戦闘行動が可能なほどまでにはおさまっていた。

台風の直撃に伴う戦闘能力の低下を保有戦力を磨り潰すことでなんとかしていた九州方面軍は、既に損害が3割に達しようとしていた。損害3割は全滅判定を受けるといわれ戦闘行動が困難になるとされているが、相手を文字通り全滅させるまで終わらない対BETA戦ではその限りではなく、そのまま戦闘が続行されることになる。しかしながら、このまま損耗が続けば近いうちに継戦限界が来るのが目に見えており、九州方面軍は本部に対し救援を要請することにした。

本部としてもBETAの侵攻に対し何もしないというわけにはいかない。各地に救援戦力の抽出の指示と政府を通じて安保条約を結んでいるアメリカの参戦の打診を要請という形で対応する。

要請を受けた各地の部隊はすぐに救援のための部隊の抽出をし、陸海からの増援をするための準備を始める。打診を受けたアメリカも即時参戦を表明し物資援助をメインとした作戦行動を取ることになった。

だが、ここでも九州を襲った台風『天の川』が問題となる……。九州を通過した台風はそのまま中国地方に上陸し本土を横断し始めたのだ。九州地方にて猛威をふるった巨大台風はさしてその威力を下げず、救援のための行動を妨げる結果となった。

救援物資を運ぶための輸送船は高潮のため出航できず、陸路でも大雨の影響で大幅な遅れが見られるなど本格的な援軍はいつになるかわからない状態と言えた。

台風の影響が日本全土に広がるなか、その影響で早期の援軍を望めない九州方面軍は独自で防衛線を保つことになる。

### 北九州筑前方面防衛ライン

ここでは九州西部各地からの絶望的な報告が届いていた。筑紫平野から熊本平野の都市群では台風のため避難船が出港できず、脱出を待つ市民にBETAが襲いかかったのだ……。パニックに陥った市民は独自に逃げようと各自で逃げ出し、交通機関がパンクしてどうしようもない状況に陥っていた。

台風が過ぎ去ったことにより支援砲撃が機能し始め、第3世代機の不知火も本来の実力を発揮し始めたため戦線はなんとかもっている。それでも、救助に行きたくとも現状の戦力ではこの防衛で精一杯であり、現地の部隊に任せるしかなかった。

それにもうすぐにもレーザー級を含むBETAの本隊の上陸が予想されていて、今現在保っている戦線もいつ崩壊するかわからない状態だ。頼みの増援も台風の影響で遅れており、先行きの見えなさからの悲壮感が漂い始めていた……

「我らが弱気になってどうする。台風も過ぎ大分では市民の避難が始まっておる、それに呉からは第2第3艦隊が支援のため出撃するとの報もある。まだやりようはあるはずだ」

「しかしながら、准将。レーザー属種が上陸しはじめたら現状戦力では……」

「支援砲撃により重金屬雲が張られれば我が戦術機隊ならいける、任せてもらいたい」

「閣下も出られるのですか?!」

「閣下とは言つが今は准将だ、まあ閣下と呼ばれる地位ではあるが前線に出ない階級でもあるまいて。」

暗い雰囲気になりかけるなか、1人の准将がそれを打ち消そうと立ち上がる。

大陸帰還後2階級降格の処罰を受けた彩峰准将である。謹慎期間を終え、軍再編に伴い九州方面軍に組み込まれていた。中将として大陸派遣軍を指揮していたが軍は解体され、今は直属であった師団を率いているのみとなっている。

降格という失態を侵さなければ今頃は中央の本部にいたことだろう……、中央の所謂エリート組から外れてしまったため地方に飛ばされることになったのだ。

来るべきBETA戦に備え、大陸での実戦を経験したものととして九州に配属されたわけだが、今はその力を求められる時だ。

大陸で民間人を優先した彼が、後ろの民間人を危険にさらすようなことを許せるわけがない。自ら士気をあげることで周りを引っ張ろうとするその姿に、弱気だった者たちも次第に戦意を取り戻し始める。

彩峰准将麾下の部隊が出撃準備を進める中、ついに沿岸部でレーザー属種を含むBETAの本体が上陸が確認された。

そのBETA群に対して、陸上の砲撃車両隊と呉から出撃し急遽周防灘に展開した第2艦隊がAL弾、ALMによる支援砲撃を開始するレーザー属種に迎撃されたAL弾頭はその重金属を蒸発させ、北九州市一帯に重金属雲を張っていく……

(CP)「重金属雲、戦闘濃度に到達。戦術機隊は速やかにレーザー属種を排除してください」

「聞こえたな？我ら戦術機隊は今よりBETA群に呐喊する。我らの後ろには罪なき民がいることを忘れるな！全戦術機起動、出撃する！！」

撃震と不知火で構成された部隊がBETA群の奥深くに佇むBETA本隊に呐喊していく……

その中には不知火の中隊を率いる狭霧大尉の姿もあった。新OSによりそこまでひどい負傷をしなかったのと本人の強い希望の結果である

「再び准将のもとで戦えるとは……。大陸最後の戦いに赴くことが出来なかったのは我が無念であったが、なに、ここで取り返せばよいこと。……『不知火隊いくぞ！遅れるなよ?!』……了解！」

大隊長の号令のもと30機を越える不知火の部隊がBETA群に突っ込んでいく

大隊の前衛中隊を任される狭霧大尉の機体は率先してBETA群の中を突き進む……。『跳ぶ』という要素はないが進行方向を阻むBETAだけを撃破し、無駄なく目標に向かっていく

「せめて一番槍は我が手で!！」

……

.....

北九州市一帯では彩峰准将率いる戦術機師団の活躍もあり、レーザー  
― 属種の出現以降も戦線が保っていた

しかし、彼らのみで戦線すべては支えることは出来ず、福岡市方面  
からBETAの圧力に負け戦線が後退していく……  
戦術機隊もカバーするが無限に戦えるわけではなく、時には下がって  
補給と休息を取らなければならない。

結局北九州市は放棄されることが決定し、関門大橋は爆破されるこ  
とが決定。そして一部のBETAは海峡を渡って山口に上陸してい  
くことになる

8日朝からずるずると戦線は後退していき、暮れには大分県との境  
まで下がることになった

北九州東部では比較的戦線が安定していたがこちらはそうでもない  
……  
北九州西部を突破したBETAはそのまま都市を壊滅させながら南  
進し熊本平野に到達していた。そして、避難船が帰港する港がBE  
TAに破壊されたことにより、市民が各々で逃げはじめてパニック  
となる。交通機関は麻痺し鹿児島方面への避難は遅々として進まな  
い事態を招くことになった

そうなると市民を守らねばならない軍は避難民を背に絶望的な撤退  
戦を行うしかなかった。BETAの圧力に対して既存戦力をすりつ  
ぶしながら少しずつ後退していく

8日に入り上陸しはじめたレーザー属種が到着すると頭すら抑えら  
れどつすることも出来なくなるだろう……。懸命に市民撤退を進め  
ながら軍は奮闘していた

しかし、そんな彼らの努力を嘲笑うかのようにBETAによって悲  
劇がもたらされる

北九州西部を突破し有馬海で別れるように分離し、長崎方面へと進  
軍していたBETA群が、島原半島より再度海中に侵入し熊本平野  
南部に再上陸したのだ。

南北から挟撃される形となった防衛軍と避難民は、阿鼻叫喚の地獄  
絵図に叩き落とされることになった……

そのまま軍民を食らいつくしたBETA群は後続と合流しながら鹿児島方面に再侵攻を始める

熊本平野防衛に主力をまわしていた九州南部方面軍はもはやそれをとめることは叶わない

8日に入りようやく避難船が動き出した鹿児島に向け、BETAは迫っていた

明けて7月9日

### 北九州防衛ライン

「准将、熊本が落ちたようです。BETAはそのまま進軍を続け、鹿児島も時間の問題だと……。それを受け熊本平野から撤退出来た部隊と南九州の残存戦力を集め、避難民の集結地である宮崎周辺に防衛ラインをしくとのことですよ」

「そうか」



連絡参謀の報告に囁くように応えたのは彩峰准将、彼は市民に犠牲が出ているという報告に何を思うのだろうか？

助けたくとも大分から脱出する市民を守るためこの戦線を離れることは出来ない……、いくら准将といえどもない袖は振れないのだ。

現在、准将麾下の隊は休息中だ、戦線構築は他の隊に任せている。継戦による体力の低下と睡眠不足による判断力の低下は戦力に致命的な影響を及ぼす。BETAと違って人は休まねばならないのだ

そして、休息が終わるとすぐに戦線構築に向かわなければならない。他の隊がいるといっても大陸を戦い抜いた彩峰准将麾下の隊とは比べると劣る。彼らの代わりはいないのだ……

「大分からの市民の避難はあとどれくらいかかる？」

「明日まではかかるかと。昨日より輸送船でのピストン輸送を行っていますが、何分避難民の数が多いので……」

「明日か……、現状戦力では継戦できる限界といったところか」

「増援が届けばなんとかありますよ」

「そうだな」

なぜ、もつとはつきりと返事を返さないのか？士気を考えると上が動じない方がいい

元々中央のエリートで40代にして中将という階級にいた彼は非常に賢い、この状況でなぜ増援がまだないのか、せめて出立の報ぐらいあってもいいものなのにそれすらないのはなぜか

賢い彼はその理由に薄々気付いていた

九州は大分周辺と南九州方面の残存戦力を集結させた宮崎周辺しか残っていないと言ってよくこのままでは陥落するのは時間の問題だ

増援があれば話は別だが、重要拠点でもないそれら地域を救ったところで支払うコストに見合わない。

防御に向かない地域で戦力を消耗するくらいなら九州は捨てて、中国地方と四国地方に改めて防衛ラインを布いた方が守りやすいのだ

恐らく自分たちは防衛ライン構築の時間稼ぎに使われるのだろう……

准将は考える

そもそもなぜ自分は九州に配属されたのだろうか？地方とは言えBETA戦の最前線になるであろう地に軍令違反したものが配属される理由は？

恐らく自分に戦死しろと言ってるんだらう……

彼は生かされたことを知っていた、そして自分が生きていることに

問題があることも

国連軍に多大な被害を生じさせた准将は、今は安定しているが生きているといつまた国際問題が再燃するかわからない。日本の政情安定のためにはいないほうがいいのだ

そして極刑で義憤を感じるであろうもの達も『防衛戦での名誉の戦死』ならまだ納得出来るだろう

「（死に場所を用意されたと思うべきか……）」

「時間です、准将。出撃の準備を」

「わかった（それでも、周りは巻き込みたくない。せめて若い者だけでも……）」

こうして北九州の大分周辺で最後の防衛戦が始まろうとしていた。

その一方で中国地方と四国地方では准将の想像通りに、市民の撤退と戦線構築が進められていた。そこには参戦したアメリカ軍も加わっている

島根、広島、愛媛、高知そしてそれを繋ぐ瀬戸内海の諸島群の橋で結んだラインを最終防衛ラインとし、特に帝都と陸続きの中国地方

には戦力が集中する予定だ

そしてそれらの作業が終わるまでの時間稼ぎとして九州方面軍に、民間人の避難が完了するまでの死守命令が下る……

「（やはりそういうことか……）聞いての通り我々に死守命令が出た。台風の影響で陸上戦力の増援は送れないそうで、現状戦力だけでの防衛になる。ただ、海上支援として第2艦隊が周防灘に展開してくれるからそう悲観したものではない。なに、大陸ではもっと酷い状況などいくらかでもあった……それを乗り越えてきた我々なら出来るはずだ。そうだろうか？」

麾下の部隊に檄を飛ばして士気を保たせる。

准将の麾下で戦ってきたもの達は例え嘘でもそれを信じた。准将が出来ると言っなら自分たちはやり遂げるのみだと……

「もはや交代してる余裕などないのでこれが最後の出撃になるだろう。最後の避難船が脱出するのに合わせて我々もこの地を後にする。以上だ、出撃準備に掛かってくれ」

《了解！！！！》

.....

残存する戦闘車両部隊と海上の第2艦隊から支援砲撃がはじまるなか大分での北九州最後の戦いが幕をあげた

もはや後を気にする必要のない陸上部隊と、日本のため礎になることを知っている第2艦隊からは手向けにと気合いの入った砲撃が加えられる

しかし、残存戦力とBETA戦力には隔絶した開きがあり。一人一人と櫛の歯が欠けるように脱落していった……

そして小休止を幾らかはさんだ1日間続くの激戦が過ぎ、漸く最後の輸送船が出港準備に入る

.....

開戦当初は戦術機師団として300機近い戦力があつたが、今ではたつた80数機を数えるだけとなっている

戦線も港から内陸部に10kmの位置まで縮小し、もとは軍団規模であつた北九州方面軍の面影はどこにもなかつた……

それでも戦術機隊の将兵が士気を失つてないのは准将麾下の隊の練度の高さを示しているのかもしれない

「次の攻勢を凌げばこの戦闘も終わりでしょうか？」

「狭霧君か、そうだな。漸く終わりだ」

エースとして不知火を駆る狭霧大尉も生き残りとして隊にいる。彼は最後まで准将のもとで戦うつもりであつた……

「狭霧君、君は残存の不知火部隊を纏めて、護衛として輸送船と共に四国方面へ脱出しなさい」

「?!それなら准将もともに……」

「私たち撃震の部隊は、輸送船が安全圏に脱出するまでBETAを

引きつけないといけない。撃震では四国方面まで抜ける性能はないからな」

「それなら自分もここに残ります……いえ、残らせてください！」

「いや、君は私たちに付き合う必要はない。これから来る苦難の時に思えば、不知火を駆る君たち若い世代は日本に必要だ」

高い戦術機適性が必要な第3世代機である不知火には、体力のある若い世代が多かった。逆に撃震に乗るもの達は比較的年齢層が高い、というより九州を撃震で戦い抜くには経験による鍛え抜いた戦闘技術が必要だったのだ……

「それには責任があるのだ……、大陸でBETAを押し止めきれず日本に侵攻を許した責任がな」

「それは……准将のせいでは」

「これはそういう問題じゃないんだ……。わかってくれ」

「くっ、彩峰准将……」

狭霧大尉も彩峰准将の決意が固いことを悟りなにも言えなくなる。

彩峰准将はここで死ぬ気であった。日本の政情安定のため、何より自分の友である榊首相のために

「准将の下で学び戦えたことは我が生涯の誉でした。准将の武運長久を祈ります……」

「私も君の栄達を九段から見守らせてもらおうよ。」

挨拶を終えた狭霧大尉は部隊を纏めて輸送船の停泊してる港に向かおうとする

「狭霧君、最後に……こんなことを言えた義理ではないが。娘を頼む、



あれでいて寂しがり屋だ、成長するまで見守ってやってくれ……。あと、日本を頼むぞ」

「……………承りましたっ」

……………

……………

そして、不知火部隊を伴った輸送船が出港準備に掛かったころ。迫り来るBETAに対して彩峰准将率いる撃震隊が最後の時間稼ぎに入ろうとしていた  
残っているのは、30代後半から40代を過ぎた衛士としては高齢のものばかりだ

「みなすまん。付き合わせて」

「何言ってるんですか、准将が無茶なのは大陸から知ってますよ。光州にだってみないたんですから」

「そうそう、今更ですって。生き残ったところで准将以外の下で働くななんて嫌ですよ、俺は」

「それに狭霧の坊主に最後に声かけてたあれ、聞いてましたよ。私も娘がいるんです、四国にね……。ここを簡単通すわけにはいかないのは同じです」

「そうか……。そうだな。今更か。」

そこへ地鳴りを伴いBETAが近づいてくる

「来たか、老骨ばかりとは言え、簡単に通れると思うなよ」

.....

.....

宮崎に続き、大分でも残存部隊の通信が途絶

九州を5日足らずで制圧したBETAは次の侵攻地である四国、中国地方へと向かっていく

そこでは防衛ラインを整えた日本の主力が待ち構えている

前哨戦が終わり、日本とBETAの本格的な戦闘が幕をあげようとしていた.....

## 第24話 九州の地で（後書き）

狭霧のクーデター折ろうとしたらこんなことに……

というか書くの難し過ぎる

上手く描写できん

中将 准将 中将で光州のは結局彩峰中将事件と言われることに

とりあえず書いてて燃え尽きた。長文書ける人すごいわ

文章だけじゃわかりにくいかもだからペイントで簡単に書いてみた  
青がBETAの進路

黒の1が准将のいたところで2が挟撃食らって壊滅したところ  
オレンジのは第2第3艦隊です

> i 2 1 5 8 2 | 2 9 1 5 <

第25話 九州陥落とその裏で（前書き）

幕間的な話なので短いです

## 第25話 九州陥落とその裏で

BETAの九州侵攻によってもたらされた損害は膨大なものとなり、正確な被害状況はまだつかめていない

ただ、九州方面軍はほぼ壊滅し、予備機あわせて1000機弱の戦術機が失われその他戦車などの兵器群の損害も計り知れず、軍の人的損失は後方要員もあわせ20万に及ぶと思われる。

そして民間人の被害は、九州本島7県に住む1300万人のうち少なくとも800万人が避難できずに犠牲になっただろうということだ助かったのはあらかじめ避難していた北部沿岸部300万人と台風通過後に大分、宮崎を主とした港から避難できた200万人だけである。

九州以外では散発的な上陸のあった中国地方日本海側沿岸でいくつかの都市に被害が出たのと、その迎撃にあたった中国方面軍に幾ばくかの損害が出て、これも無視できない数に及んだ・・・

この被害の多さは、台風の影響でまともな迎撃が出来なかったこともあるが、日本側の『BETA東進再開までの期間が数ヶ月という短さはありえない』という認識の甘さも原因のひとつであった。

ここでは九州制圧を終えたBETAの再侵攻に合わせて防衛ラインを構築していた。

広島と愛媛を結ぶ交通の要所である西瀬戸自動車道、通称しまなみ海道を中心とする南北ラインを最終防衛ラインとしたそれは、九州方面軍を犠牲にしたことで得た時間によりなんとか形になっている。

そして中国地方の山口と島根では、北九州から流れてきたBETA群とそれに合流するように後続して上陸してきたBETA群との間ですでに戦闘が起こっていた。

台風通過後には舞鶴基地を出港した戦艦9隻を含む第1艦隊が日本海側の援護に入り、地上でも参戦したアメリカ軍の豊富な軍事物資に支えられ、BETAに対して十分な砲撃が加えられている。史実では壊滅した中国地方の戦術機部隊であるが、それらの支援に支えられなんとか戦線を保つことができている状態だった。

各方面から抽出してきた増援も着々と到着していて、後は九州制圧後のBETAの本格侵攻を待つのみとなっている

四国方面では大分宮崎を制圧したBETAの一部が佐田岬半島周辺を主な地域として上陸することが予想されていて、迎撃準備に入っていた。BETA本隊は中国地方へ行くと予想されているため、展開している部隊の数は中国地方より少ない

海上からの援護としては九州の周防灘と日向灘に展開していた第2艦隊と第3艦隊が一旦呉基地に帰港し、補給を済ませてから四国中国両地方への支援として瀬戸内海に展開する予定である。

## アメリカ合衆国

日本との安保条約を果たすためBETAの日本侵攻に対し即時参戦したアメリカでは、その対策について話あっていた

「大統領、国防省から今回のBETA日本侵攻に関して戦術核の使用の許可を求められています」

「流石に他国での使用はその国が認めなければ許可は出来ない、しかもそれが同盟国なら尚更だ」

「では日本が認めれば？」

「構わないだろう、最悪G弾の投入もあり得ると伝えておけ」

カナダにBETAの落着ユニットが来たときは核の集中運用でもって退けたアメリカである。隣国ですらそれなのだから、今更極東の島国の日本での核使用に戸惑うことなどない。

その上、国として第5計画を推しているアメリカはG弾の実戦証明の場を求めている……。今回の事態はいい機会と言える。



「日本側が拒否した場合は？」

「日本側がどうしても認めない場合は日本からの撤退も考えなければならぬ……。」

「日本陥落は防衛上問題があるかと思われませんが……」

「欧州で失った人員と物資を考えると、通常戦力のみでの対BETA防衛戦はコストがかかり過ぎる。我が国とは言え無限に物資を生産出来るわけではないのだよ。」

「最悪日本が陥落してもアラスカがある、貴重な資源を浪費するならばアラスカに戦力を集中させた方がマシだ」

「いかにアメリカとは言え生産力には限界がある、最大の後方国家のアメリカは日本以外にも支えなければいけない地域がたくさんあるのだ」

「ユーラシアを失った人類は資源を有効に使わなければ戦いを続けることが出来なくなってきた……」

「それに通常戦力でのBETAの打倒などを信じている夢想家達も日本が落ちれば目が覚めるだろうって」

「現状に見切りをつけ、第5計画を推進するアメリカと第4計画を主

導する日本、同盟国とは言えその実対立していた

日本陥落も問題はあがあるが日本の影響力低下もメリットがある……

核使用を認めるなら助けてもいいが、そうでないなら第5計画のため見捨てることも考慮にいれてもいいだろうとアメリカは思っていた

しかし、その考えも国土を危険に晒してないからこそその余裕であり、よく言えば合理的、悪く言えば傲慢と言えるものであった……

.....

こうしてアメリカは日本に対してBETA戦での核使用を打診する事になる

国土での核使用に消極的な日本はこれをひとまず拒否

流石に安保があるから大丈夫だと思っている日本と安保の破棄も考えているアメリカ

両者の認識は致命的にズレたままBETAとの防衛戦を突き進んでいくことになる



第25話 九州陥落とその裏で（後書き）

アメリカの思惑とか九州被害報告とか  
アメリカの思惑とか完全に妄想の域に

どうでもいいことですが、実は考えてた話のプロットが2つあって

BETA防衛に成功して第5計画でバビロン作戦世紀末コース

佐渡と横浜の因果は変えねず第4計画援護コース

どっちにしようか悩んでいたり、まあだいたい決めましたけど……

## 第26話 戦いは数だよ

7月12日

7月7日に上陸を開始し5日足らずで九州制圧を終えたBETA群が、その矛先を中国四国地方に変えて再度侵攻を開始。予想通り一部が四国に流れ、本隊は継続して上陸中のBETA群と合流し中国地方へ向かっていく。そして、九州の部隊が紡ぎだした時間により防御態勢を整えていた帝国軍主力と激突した

日本海海上、帝国連合艦隊、第1艦隊

山口県沖の日本海海上では舞鶴基地から出撃した帝国海軍の第1艦隊が布陣している。戦艦9隻からなる第1艦隊のその威容は海洋国家として相応しいといえるものだった……。そのなかでも2隻の弩級戦艦がその巨体で目を引いていた。

紀伊級1番艦『紀伊』2番艦『尾張』

大和級を超える戦艦として建造された日本海軍最大の戦艦である。1941年に建造が開始され、太平洋戦争後も対共産圏防波堤とし

て帝国軍の再建を目指す連合国の意向により建造が続行され、1949年に1番艦が竣工した。1960年代の軍縮により退役することになったが、1973年のBETA地球侵攻により復帰。対レーザー蒸散塗膜装甲や誘導弾発射システム(VLS)搭載などの対BETA戦用の近代装備へと改装され今に至る。

今回の防衛線においては紀伊級も第1艦隊司令長官小沢中将の指揮のもと出撃している。

「第1戦隊は砲撃を開始する。艦隊所属の各戦隊も攻撃を開始せよ。……」  
『目標、萩一帯に上陸中のBETA、……てえ!!』

紀伊級に搭載されている大和級の46cm3連装砲塔をも超える51cm3連装砲塔が火を噴く。

「我ら第2戦隊も続く、……」  
『目標、長門周辺に位置するBETA群、はずすなよ?……撃てえ!』

続いて安部、田所大佐が指揮する第2第3戦隊に所属する大和級、改大和級も砲撃に入り、1tを超えるそれらの砲弾は沿岸部に上陸を続けるBETA群に向かっていった。

さらには、対馬級砲艦の対地ロケットと巡洋艦、駆逐艦に搭載されている対地ミサイルも次々と発射されていく

空を埋め尽くすようなそれらの砲弾はBETAを蹂躪していくかに

思えた・・・

しかしながらBETAも黙ってやられはしない、本隊として上陸したレーザー属種が正確無比な攻撃で砲弾を撃墜していく。人類の航空戦力を無力化したそれは第1艦隊の面制圧砲撃に対しても十分に機能した。

「砲弾撃墜率70%、上陸するBETA群に多数のレーザー属種がいると思われます」

「ふむ、AL弾の割合を増やしてもいいがわざわざ連れてきたんだ。少々不安もあるが使わない手はなかるう。君、『若林』と『若島津』に繋いでくれ・・・」

このまま膠着状態に陥るかと思われたが、第1艦隊は2隻の艦船をここに投入する。若林級巡洋艦『若林』と『若島津』だ。光州作戦にてドッグ入りすることとなった『若林』であるが、損傷は砲身の損傷のみでどちらかと言うと検査の意味合いが強かった。光州作戦での教訓を取り得れて、幾許かの改装を施し砲身の寿命が延びている。それでも、BETA群に対して継続的に砲撃することは困難なため、レーザー属種に対してだけの役割として使用されることとなった。

光州作戦にて一応の結果を残した艦載型電磁投射砲は、少しずつではあるが順調にレーザー属種を排除していく。

中国地方に上陸するBETA群に対しては、このような海軍の活躍もあり比較的安定してその数を減らすことが出来ていた

#### 中国地方内陸部、帝国陸軍

ここでは九州地方に上陸し、関門海峡を通過して侵攻してくるBETA群に相對している。

関門海峡ではその狭さから海上に戦力が展開できずほぼ素通りといった感じでBETAの中国地方侵入を

許していた。周防灘を渡ってくるBETA群もいるため、陸軍は山口県と広島、島根両県の境あたりで部隊を配置し迎撃に入る

92式OSにより史実よりは生存力の増した戦術機部隊は、撃破されながらも粘り強くBETAを押しとどめ、後方の砲撃車両隊の面制圧を支える。そこに周防灘に展開する第2艦隊からの攻撃も加わり、

それらは瀬戸内海に展開する米国海軍からの物資支援に支えられ、その実力を遺憾なく発揮していた。

BETAの一部が上陸している四国でも、上陸するBETAの少な



さや第3艦隊の援護もあり迎撃に成功

本格的な対BETA防衛戦の序盤戦は日本の思惑通り、BETAを押しとどめることに成功したと言えた。

それでも戦闘後数日経つと、徐々に戦線が後退し始める・・・

休息が必要な人類戦力と違い、昼夜問わず攻勢をかけてくるBETAに戦術機隊を中心に疲労からの損耗率が高まり、戦線を下げざるを得なくなつたのだ。

また、92式OSは史実より戦術機の戦力を高めてはいたものの、駆動系の負担の増加による部品損耗という問題がどうしてもついてもついても、それらも戦線を下げざるを得ない原因であった

未だに上陸の終わらないBETA群はその圧倒的物量を盾にじりじりと戦線を押し上げる

日本の防衛戦は泥沼の消耗戦に突入しようとしていた

.....

BETAの日本侵攻に伴い、斯衛に第11大隊に原隊復帰することになった。

現在斯衛では厳戒態勢に入っており、BETAの侵攻如何では前線に出ることになるが、將軍職の制限範囲が拡大解釈され権限が更に制限されている現状では、將軍守護という名目を掲げる斯衛も自由には動けないだろう……。帝都に危機が及ぶような事態でもあればその限りではないが、戦線が安定している現状では待機状態となっている。

しかし、台風は予想外だった。七夕はいつも雨とか、それで台風呼ぶのはちよつと勘弁してほしい。

ある程度迎撃態勢整つてたとは言え、九州が落ちるのが早すぎだ。しかも彩峰准将含む九州に展開してた部隊がほぼ玉砕したって……、九州には前線としてかなりの兵力を集めてたのに序盤から痛手すぎる。史実よりマシだとは思うが、本当に大丈夫かね  
斯衛が出撃するような事態にならなければいいが

鍵はアメリカ軍か？史実では佐渡陥落後のBETA停滞中に撤退したらしいがこの世界ではどうなるのか。はっきりいってアメリカの援護なくなるとジリ貧だしな、備蓄物資である程度は戦えるだろうけど限界はあるだろう

もしもアメリカ軍が最初から撤退折り込み済みなら戦況如何では撤退するかもわからんな

とりあえず最悪の状況は考えて覚悟決めとくしかないか……

side out……

個人の思惑とは別に斯衛でもこのBETA侵攻への対策に追われていた。

具体的には、中国方面への攻勢のために部隊を出すか否かである。戦況が悪化するなら陸続きである帝都の守護の名目上部隊を派遣することはできるが、戦線が安定している現状はどうするかでなかなか意見がまとまらない

將軍の権限が本来のものであれば、その一声で決まるのだが

斯衛の権限を高めない帝国軍は斯衛に援軍要請を出さない。決定打を持たぬまま、斯衛の参戦は先延ばしにされていくことになる

……

## 第26話 戦いは数だよ（後書き）

なんか漫画版風の谷のナウシカの世界にBETA降ってきたらどうなるかっていうのが頭に浮かんで結構考えてしまった

王蟲と突撃級とか硬さと速さがすげえ似てると思うんだ

蟲の物量もなかなかだしいい勝負するんでないか・・・

まあレーザーの有無でBETA勝ちそうですが

ただ巨神兵連れてきたらハイブとかすぐ消せそうですけどね。なんせ7日で世界焼き尽くすとかしいたけ

BETA戦このまま続けるべきかさつさと切り上げて開発の話に戻るべきか...

第27話 第二幕（前書き）

なんか新OSなのに押されすぎかもしれないけど、横浜基地防衛戦を見るとX M 3って長期的な防衛戦に向かないんじゃないかと思う  
被弾してないのにスクラップになってたし、駆動系にかなり負担がありそう

あまり部品損耗気にしないでいい短期的な攻勢にはかなり強そうだけど

まあ、実際どうなのかは知らないです

## 第27話 第二幕

中国地方にて本格的な対BETA防衛戦が始まり2週間

日本海側より沿岸部のレーザー属種をつぶしていた電磁投射砲搭載型巡洋艦『若林』『若島津』が砲身の耐久限界に達し相次いで脱落、舞鶴基地に帰還しドッグ入りとなる

砲弾迎撃率の上がったBETA群はその上陸数が増加、結果内陸部でのBETAの圧力が増し戦線のさらなる後退を招く

また、レーザー属種の増加は支援砲弾の使用数増加にも繋がることになる。

物資の浪費を許容出来ない米軍からは核使用の許可を求める声が大きくなるが帝国国防省は頑なにこれを拒否。

日米の関係は次第に悪化していくことになる

そして、BETA戦開始から約1ヶ月、後退を続ける前線はついに最終防衛ラインの50km手前にまで迫っていた

「日本は現実が見えていないのか？なぜ通常戦力にこだわる……」

「核使用に対する責任問題など理由は多々考えられますが、日本が核使用を認めなかったのには変わりありません」

「責任など結果を残せば構わんだろう。やはり、あの島国の人間の感性は理解し難いな……。ともかく、そのような意地やプライドのせいで無駄に物資を、何より我が国の将兵を犠牲にするわけにはいかん」

「では？」

「ああ、もはや是非もない。安保は破棄して在日米軍は撤退させる」

そして、即日緊急議会が招集され、あらかじめ議会工作をしていたこともあり安保条約破棄は驚くほどスムーズに決定した。

そして、別の世界では太平洋戦争が終結した記念日でもある8月15日

度重なる帝国軍のG弾、核兵器の使用に対する命令不服従を理由にアメリカが安保条約を一方的に破棄

日本では在日米軍が撤退を始める……

……

### 中国地方対BETA最前線

「おい！米軍がどんどん下がっているぞ、どうなってやがる！？」

「米軍は同盟国じゃなかったのかよ。何かの間違いじゃないのか？」

次々と撤退し出す米軍に前線では混乱が広がる。米軍を同盟国だと信じている日本の将兵は、理解が追い付かない……



「《こちら米国海軍第103戦術歩行戦闘隊、本国の決定に従い我々在日米軍は日本より撤退する。このような事態になり何を言うかと思うかも知れないが、我々米軍全てが日本撤退に際して同意的ではないということは知っていて欲しい。最後に、撤退に際して武器弾薬は置いていくので好きに使ってくれて構わない、武運を》」

撤退する部隊から告げられる事実により、日本の将兵は段々と状況を理解し始める

「アメリカは日本を見捨てたのか？安保まで結ばせて日本に居座ってたのになぜ……」

「BETAが怖いからって逃げ帰ったんだよ。口では偉そうな事言っただけに……腰抜けめ」

「裏切りもの！」

口々にアメリカを罵るがそれで事態が好転するわけではない

長引く防衛戦の疲労と同盟国の裏切りとも言える行為に前線の士気は暴落

本部も予期せぬ事態に混乱

保っていた戦線は所々で崩壊を始め、ついには最終防衛ラインに一部のBETAがたどり着こうとしていた……

### 帝都斯衛軍

side 齊御司和司

おいおい、マジで米軍撤退しやがったぞ……

前線がどうなってるかまだわからんが、恐らく現在の最終防衛ラインは割られる可能性高いな

「和司様！」

「忠篤か、ちょっとマズいことになったな」

「マズいなんて物じゃありません。このままでは前線が崩壊します

「！」

そこに黒の3人も駆けつけてくる

「米軍が撤退とは本当ですか？」

「いつも威勢いいこと言ってたのに急に腰抜けたんか？」

「裏切りもの」

「お前らも来たか、流石に今回は斯衛も動かざるを得ないだろう、前線が崩壊すると帝都が危ない」

「ならいよいよ、出撃かいな。待ちくたびれたで」

「ここで指を加えて待つのはそろそろ我慢の限界でしたよ」

「同意」

元々帝国軍の3人は帝都に待機している現状に不満があったんだろ  
う……。出撃と聞いてやる気満々である

斯衛出撃に備えて準備に入ろうとしているところに全チャンネルで通信がはいった

「全チャンネル？」

「なんででしょう……」

なぜか全チャンネルで入った通信に少々疑問に感じていると、その放送が始まった……

『帝国将兵の皆さん、煌武院悠陽です………』

「なん………だど？」

side out………

斯衛だけでなく、前線を含む帝国軍、斯衛軍全てに対して行われた全チャンネル通信により異例の演説が始まる

『帝国将兵の皆さん、煌武院悠陽です

この苦難の時に無理を強いている事、誠に申し訳なく思います。此度の米軍撤退は我が国と彼の国との行き違いから生じたものでしょう。彼の国にも事情があったのでしょうが、今はそれを責めている時ではありません。

米国が撤退した今、帝国は一丸となり強大な敵に立ち向かわねばなりません

事ここに至り、高齢の現殿下の意向を受け私が征夷大將軍として立つことになりました。

BETAの上陸は未だ終わりが見えず、皆様の心には不安の大きなうねりとなって押し寄せていることでしょう。だからこそ、私達は今という時を、強靱な精神を持って歩まねばなりません。

帝国軍斯衛軍の皆さん、若きこの身では至らぬ所があるでしょうが、共にこの苦難を乗り越えるため力をお貸しください。

そして日本帝国国務全権代行としてこの危機を乗り切るため最初の仕事を成したいと思います

斯衛軍はこの事態に対して全軍を持って対処することを命じます

斯衛はただ鞘に納められた剣にあらず

今はその剣で持って敵を打ち払うとき、帝国の危機に際してその使命を果たしなさい。』

まさかの次期將軍であった煌武院悠陽の征夷大將軍就任宣言と斯衛出陣の勅命だった

そしてこの突然の演説は悠陽殿下の独断ではなく、あらかじめ計画されていたことでもあった

もともと、悠陽殿下の征夷大將軍就任は彼女が武家として成人する15才になる1999年となっていた。それまでは前將軍であった崇司の当主が任期をおして將軍を勤める予定だったのだ

しかしながら、このBETA侵攻という国難に際して、高齢の前將軍では役目を果たすことが難しいとして悠陽殿下が立つこととなったのだ。

14才という若さでは逆に無理があると思われるかも知れないが、既に次期將軍として国民から絶大な支持を受けていたこと、14才

という若さに見合わぬ聡明さを兼ね備えていたことが就任を後押しした。

しかしそれだけでは、アメリカの安保破棄と在日米軍撤退という事態に対してここまで迅速に事を運べた理由にならない。

実はこの演説の実行の裏には齊御司家や煌武院家をはじめとする、将軍の現状の在り方に不満を持っている武家を中心とした者達の思惑があった。

以前に息子からBETA侵攻に際しての米軍撤退の可能性について聞かされていた齊御司家当主は、以前よりその先見性で目を見張るものがあつた息子の言を戯言と切り捨てず、真剣に検討していた。

米軍撤退がもし現実となるなら、その事態に生じる危険性に対処するため今回の事を他家と通じて計画することになる。

そして、可能なら安保破棄にて米国の影響力が減る時に際して将軍の権限を幾分か回復したいという半ばクーデター紛いの思惑もあつたのだ。

事が事だけに極秘で進められ、今それが実を結ぶ結果となつた

この突然の演説は將軍とは元々そういうものである。と想っていた帝國將兵たちにすんなりと浸透し、米軍撤退に際して落ちていた士気を回復させることに成功する。

しかしながら、士気が回復したからと言って崩れかけた戦線の修復は難しく、戦線瓦解は時間の問題かと思われた……

.....

#### 斯衛軍第16大隊、第7大隊

斯衛出陣という將軍の勅命に応じて、その先陣を任されることになった斯衛第16大隊と第7大隊の計72機の武御雷が隊列を組んで並んでいた。

両隊とも青の機体に率いられたそれらの武御雷は精鋭として優先的に配備されたもので、帝國最強としてのその性能を發揮する時を今か今かと待っている。



そして今まさにその時が訪れようとしていた

「閣下、頃合いに御座います。お下知を」

「皆の者、先の殿下の勅命により斯衛出陣が決定された。その先鋒を賜る我ら斯衛の戦い、あの魑魅魍魎どもに刻み込んでやれい！！」

第16大隊を率いる斑鳩の当主の号令の下36機の武御雷が動き出す  
そして……

「宰相、こちらも」

「第7大隊に所属する斯衛諸君、我々も第16大隊と共に斯衛の先陣という榮譽を賜ることになった。武御雷を下賜された精鋭としてその力を示せ！！」

第7大隊に所属する36機も第16大隊に続く

斑鳩当主と斉御司次期当主に率いられた赤白黒の色鮮やかな武御雷が、崩れかけた戦線を立て直すため中国地方の前線へと向かっていく……

米軍撤退により変わった戦況は第二幕に入ろうとしていた

第27話 第二幕（後書き）

いろいろ迷ってこんなむちゃくちゃな展開に

米軍撤退が早すぎる気もするが、なんか8月15日にやれって電波が届いた

マブラヴのPV見て第16大隊に武御雷乗らしたいと思ったのは自分だけじゃないはず……

第28話 斯衛として（前編）

斯衛出陣の同時刻頃、中国地方前線

「なあ」

「ああ、わかってる」

「ここで踏ん張らなきゃ帝国の衛士じゃねえ」

「殿下直々に激励を受けてやる気にならないなんてウソだよな」

撃震の衛士がそう言って再びBETAに向かっていく。

戦術機は機械であるがそれを動かすのは人である、戦意のあるなしでは大きく戦果が異なってくるのだ。

例えば第2次世界大戦のドイツ軍とイタリア軍といったところだろつか、戦う気力のない兵はお荷物でしかない

「大砲屋が沈んでてどうする！BETAに砲弾をたらふく食わせて

やれ」

「米軍の置き土産のついでにぶっ放しとけ」

衛士以外の兵科も萎えかけた心に再び火を灯して立ち上がる。

回転効率の下がっていた支援砲撃が息を吹き返し、BETAを食い止めるため次々と砲弾を発射していった。

士気の低下により崩れかけた防衛線であったが、將軍の意を受けて次第に戦意を回復させていく将兵たちの踏ん張りにより前線の崩壊に歯止めがかかり出す。

それでも崩れかけた戦線を修復するのは容易ではない、元々米軍の支援のもと拮抗していた戦線である。一時的なカンフル剤だけではどうしようもないところが出てくるのは当然だ。

最終防衛ラインの突破こそ瀬戸際で防いだものの、状況が好転したわけではなかった。

そして、將軍演説から数時間後、前線激戦区

「糞、次から次へと。一体どこから沸いて出やがるんだ」

「おい、ただでさえ定数割れしてんだ、無駄口叩いてないで仕事しろ」

「わあってるよ。しかし、変わり映えのない連中……ん、なん……」

突如、大質量のものがぶつかったような破壊音が響く

「08？何があった高梨！……あ、え…要塞級？なんでこんな近くまで気付かなかったんだよ！！応答しろ、高梨少尉！大丈夫か？！」

要塞級はその巨大さと緩慢な動きで接近に気付かないことがある、  
今も戦車級と要塞級の単調な編成に思考硬直したこともあり接近を許してしまった。

「バイタルは……生きてる、おい、応答してくれ！」

そして、一時的に回線が落ちていた08と通信が繋がる。しかし、返ってきたのはマトモな言葉ではなかった……

「うああああ、アアアアツイイ、てがあ、オレのうでガア……」

返ってきた音声からわかるのは彼が生きてはいるものの、まだ生きてるという状態だということだった。

要塞級接近の際、彼は攻撃を咄嗟に避けようとしたものの、戦術機の右半身に衝角が直撃し、衝角から出た強酸性の分泌液が管制ユニットの右側から侵入し自身の右半身を焼いていたのだ。

どうにかして助けたいが、BETAが邪魔で近寄れない……。そして、荒れていたバイタルは次第にフラットに向かっていく……

「ちくしょー、ぶっ殺してやる！」

ついさつき、バイタルがフラットになり戦死が確認された衛士とエレメントを組んでいた撃震の衛士が敵討ちとばかりに要塞級に攻撃する。

突撃砲の120mmを弾倉が空になるまで連射するが、熱くなっているせいで冷静さを欠き、要塞級の弱点にあたらず怯ませることが出来ない。

急いでリロードしようとするが、それに夢中になっているせいで周囲確認を怠っていた。

その際に要撃級数体を取り囲もうと接近する

「こいつら、いつの間にか?!……」

要塞級も撃破出来ず、かといって同時に要撃級数体をいなせるかと言われると自分では無理だ。こうなったら数体道ずれに特攻してやろうかと半ばヤケを起こしかけているときに……

「その衝撃、少しの間じっとしている!?!」

いきなり、部隊外通信で何者かが割り込んできた

一体何なのか、確認しようにも要撃級に囲まれ目が離せない状況で混乱していると、急に青い『何か』が目前の要撃級に躍り掛かった

……



.....

### 帝国斯衛軍第7大隊

精銳の第16大隊と共に先陣を任されることになった斯衛第7大隊は、崩れかけた前線を立て直すため中国地方の最前線に向かっていた

この2部隊が先陣を任されたのは精銳なものもあるが、斯衛の中で数少ない第3世代機である武御雷を配備していたため、前線への高速展開が可能であったからだ。

今は辛うじて崩壊していないものの、いつ突破されるかわからない。帝国軍の第3世代機である不知火を軽く凌駕する出力を使って、最速に近い速度で激戦区に急ぐ。

隊列を崩さぬようにC型に合わせてのものが、他の戦術機では考えられない速度であった。

そして、出陣してから1時間足らずで激戦区に到達した第7大隊。

周辺に展開する部隊の司令部に援軍到着の報をいれ、直ちに激戦区に躍り出ようとBETA群に目を向けると、孤立し今にも撃破されそうな撃震の姿が見えた

大隊指揮官である斉御司宰少佐は部隊への指令よろしく飛び出した。R型として殊更高機動に調整されたそれは他の追隨許さず突出する

「本多！後詰めは任せた、私は先に出る！！」

「宰相？！御一人で前に出るの……。ええい、第7大隊！宰相に遅れるな、私たちもゆくぞ！」

青の武御雷に少し遅れて赤黄白黒の機体も続いていく。しかしながら、機体性能の差で青の機体が突出していく

そして、要撃級に囲まれている撃震の所までたどり着いた

「その衝撃、少しの間じっとしている！」

そう言うや否や、衝撃の眼前にいる要撃級に切りかかる。

たどり着いた勢いそのままに長刀で一閃、一刀のもと要撃級を無力化する

そして、要撃級が停止するより早くに機体の出力に任せて急制動をかけ、返す刀にもう一体に切りかかった

キャンセルとコンボにより流れるような動作で立て続けに要撃級2体を斬り殺すと漸くその青い機体は停止した。

他の戦術機なら駆動系がイカれるような急制動を使った機動も接近戦のために異常なほど頑丈に作られている武御雷なら可能である。

衝撃の衛士が気付くと他の要撃級も他の機体に突撃砲で沈黙させられている。

突撃の事態に衝撃の衛士が、そう言えば斯衛が出撃したんだっただなあと未だ混乱しながら囁く……

「斯衛？……の新型？」

「間に合ったようだな。ここは斯衛に任せて下がって態勢を立て直

せ、既に司令部には伝えてある。……本多、あれは任せた」

「了解。お前たち、援護を」

青の武御雷が孤立していた撃震の衛士と通信を開いていると、120mにて怯んでいた要塞級が態勢を立て直し再び迫ってきていた。それを確認すると赤の武御雷と白の数機が動き出す。

白の武御雷が三胴構造の接合部を狙い120mを撃つ、要塞級の弱点部であるそこに直撃した120mは内部で炸裂し、要塞級は大きく態勢を崩すと、そこに止めとばかりに赤の武御雷が長刀で切りかかり、要塞級は完全に戦闘力を失った。

要塞級に小型種が搭載されていないことを確認すると、第7大隊各機は戦線を押し戻すため、隊列を組み直すように青の機体を中心に展開する。

「我が斯衛第7大隊はこれよりこの戦線を押し戻す。その撃震は一人で大丈夫であるな？」

助けはしたものの、流石に合流するまで見守るなどと子守のようなことまで出来ない

撃震の衛士も助かったことそれが斯衛によって成されたことを漸く

理解する。そして、理解すると先程の発言は不敬に……というか階級もあちらが上でましてや『青』である。流石にマズかったと急いで返礼する

「はっ、大丈夫であります。先程は失礼しました、救援感謝します」

「気にせずとよい、こちらももう少し早く駆けつければ良かったが……。過ぎたことは仕方ない。では第7大隊、行くぞ」

要塞級の近くで撃破されている撃震の残骸を横目に第7大隊はBE TA群に向かっていった。

第28話 斯衛として（前編）（後書き）

戦闘シーンはこんな適当でいいのだろうか……

13日からMHFが1週間無料開放……

2鯖で下手くそな赤ネームがいたら私です  
カフだけ課金で防具武器は無課金  
ベルFX足は鉄板ですね

大抵剛武器担いでごり押しプレイしてると思います。結構やってな  
かったけど、双ぶんぶんと超速射あばばは未だに健在かなあ……

## 第29話 斯衛として（後編）

### 斯衛第16大隊

第7大隊が前線に到着するのと時を同じくして、第16大隊も戦闘に入っていた。精鋭としてやはり戦線の崩れそんな劣勢戦場に戦線を立て直すために駆けつける。

「我ら16大隊は偃月の陣で一息に戦線を押し戻す、そのちに魚鱗の陣にてBETAをその場に押し留めるぞ」

『了解！』

偃月<sup>えんげつ</sup>は大将が先頭となつて、「」の形で敵に切り込む陣形である。そのため士気も高く、また大将まわりの精鋭が開幕から戦つので攻撃力、突破力も高い。しかしそれだけ大将が危険になる可能性も高く、大将の付近が常に戦闘中になるため両翼へ指示を出す余裕がなくなることも多い両刃の陣形でもある。

劣勢のこの場において、攻撃力と突破力に優れるこの陣形にて一気

に戦線を押し上げ、指揮官自ら第一線に立つことで士気を鼓舞しようというのだ。

自らに絶対の自信と多少の指揮なしでも連携の取れるという精鋭だからこそとれる陣形である。

五撰家である青の武御雷率いる中隊が先頭に立ち、自ら第一線に赴くには「將軍家の人間は、自ら第一戦に立って臣民の模範となるべし」という斯衛の規範があり

さらには、斯衛が位ごとに機体を色分けするという普通なら考えられないことを自らに課しているのも

第一にBETAには迷彩効果が確認できないこと、第二に兵士及び衛士の士気を高めること、第三に衆人環視の状況によって、その衛士が担うべき責務に反するのを抑止するためという理由がある。

故に斯衛の衛士たちは士気の鼓舞と自らの責務を果たすために、易々と墮ちることは許されない

魚鱗ぎょりんの方は中心が前方に張り出し両翼が後退した陣形である。底辺の中心に大将を配置して「U」の形に兵を配する。全体としての堅牢性を確保することから魚鱗うしんと呼ばれる。多くの兵が散らずに局部の戦闘に参加し、また一陣が壊滅しても次陣がすぐに繰り出せるため消耗戦に強い。

偃月の陣でBETAを押し戻した後は消耗戦に強いこの陣形で戦線を保持するというわけである。



あまり広域に即さない陣形だが、中国地方内陸部の山岳部でさらには劣勢となっている突出した区域での戦線なので問題はないだろう

……

斯衛第16大隊も第7大隊と同じく青の武御雷に率いられ、BETAに割られかけた防衛線を修復していく

そこに、先陣の武御雷2個大隊に遅れて瑞鶴の部隊が劣勢戦場の補強として次々と前線に到着し出すと次第に前線の状況は安定していった。

最新鋭の機体は武御雷であるが、それは斯衛全体から見れば一部であり主力となっているのはまだまだ瑞鶴である。

確かに武御雷は発揮出来る単体の強さと見栄えにより、軍の士気をあげるにはいいが如何せん数が少ない。

物量の極みと言えるBETAに数で對抗するのは愚かだと言えるが、質で対抗しようにもそれなりに頭数が必要なのだ。武御雷の数が揃えられない以上、主力の瑞鶴は必至である

もし少数戦力で戦況をひっくり返そうとするなら、それこそ戦略兵器と呼べるような化け物が必要だろう……そしてそのような超兵器を人類が独力の技術で生み出したのは今のところ核しかないと言っ

ていい。

機動兵器でなど夢のまた夢だ。人類の純粋な技術でなく、BETA由来であるG元素を使つてのものならあるにはあるが、それもG弾の登場により未完成のままとなつており、そもそもG元素を保持していない日本には作りようがない。

核という選択肢を取らなかつた日本はBETAの物量に対抗するため、質と量の両立が必要であつた……

斯衛の参戦は前線の幾ばくかの量と何より士気の回復による全体の質の向上を引き起こした

これにより日本は再度BETAに対して拮抗した状況を取り戻すことに成功する

.....

京都丹波地方

丹後丹波摂津のラインでは帝都に対する最後の砦として、斯衛の部隊が布陣している。

斯衛全軍出撃と言っても帝都を留守にするわけにはいかない。斯衛を3つに分けて

第7第16大隊を筆頭とする前線、將軍含む第1第2大隊を帝都守護、そして残りを前線に対する遊撃と帝都に対する砦としてこれらの地方に配置していた。

そしてその中の丹波地方に齊御司和司が所属する第11大隊の姿があった……

side 齊御司和司

「斯衛出撃と聞いて覚悟はしていたけど、なんだか肩透かし食らった気分だ」

「殿下の激励で跳ね上がったこのやる気はどこに向ければええんや……」

「帝都への備えと言えば聞こえはいいが、どっちかと言うと後方警戒みたいなものだしな（少しホツとしたとは流石に言えんよなあ）」

斯衛出撃に際して第11大隊に任せられたのは、前線部隊の交代要員としてと万が一の時の帝都の守りとして丹波地方で後方警戒の任務だった。

井伊は勿論のこと本多や他の隊員も、肩透かしを食らって少し不満気味な様子である。普通に考えれば帝都を留守に出来ないことなんてわかりそうだが、もしかしたらわかっているも前線に向かうのは自分の隊だと信じて疑わなかったのかも知れない。

「後方とは言え、日本海側から上陸した少数の小型BETAが警戒網をくぐり抜けてくるかもしれないので気の抜かないようにしてくださいよ」

「流石にそこまで腑抜けてないさ。いつ前線に駆り出されるかわからないしな……」

年齢的なこともあって、本多は本人がどう思っているかはともかく冷静沈着だ。内心自分も前線で戦いたいだろうに流石は三十路手前、顔にも出していない。

まあ小型種云々は警戒担当が相当又けてない限り大丈夫だろうから  
気を引き締めるための方便だろうな……

さらに言えば自分の言った、いつ前線に駆り出されるかわからない  
っていうのも今のところ即座にどうこうってはないだろう。

と言うのも、史実では京都防衛にて『斯衛に死の8分なし』なんて  
言われた斯衛だ。早々に部隊が壊滅なんて事態はないはず、しかも  
今回はこちらからの攻勢に出た感じだし状況も史実よりマシだから  
尚更だ。

実際、斯衛参戦からしばらくたったが部隊が大被害受けたとかそん  
な報告はないし

まあ、実際前線に出るとしたら前線組に疲労が出だす2、3週間後  
辺りになると思う。

それまで気持ち切らさないようにするのが一番か……

前世の知識が多分に影響してる自分からしたら『斯衛として』と  
いう自負があまりないからなあ。どちらかという五撰家という恵  
まれた環境に普段恩恵を受けていることへの対価的な気持ちが強い  
將軍の演説も、気持ちが高ぶるといふより煌武院悠陽という予想し  
てなかった人物の登場に対する驚きが強かったし……

それでも集団心理が働いたというか、周りがやる気になったら幾分  
か自分もそれに引つ張られて拒否感とかはなかった

とまあ、そういったわけです。今すぐ前線にとんでいきたいとまでは思  
えず、此度の任務はどちらかというとホッとさせられた気分だ

史実から考えれば、どう見積もっても今回のBETA侵攻は英国の  
時以上、つまりは半年以上は続くだろうので前線に赴くのは確実と  
言える。

その時を無事乗り越えられるよう祈るばかりだ

s i d e o u t . . . . .

丹波地方や丹後、摂津地方ではこのような後方展開した部隊が陣ど  
ついていた。

一部を除いては士気は非常に高く、自分たちが前線に赴く時を待つ  
ている。そしてその時が来れば、今現在前線にて戦っている者達と  
同様に、己の責務を果たすため奮闘するに違いないだろう

最後に、帝都にて彼ら斯衛だけでなく帝国軍全体の士気を鼓舞する存在を忘れてはいけない。

斯衛全軍出撃ということは紫の機体も姿を見せているのである。

前線に出るなんて事はないがその姿があるというその事実が何より重要なのだ

後方で戦況を見つめる帝国唯一の紫の機体、その見つめる先には一体どのような未来が広がっているのだろうか……

第29話 斯衛として（後編）（後書き）

ぐだぐだになってきたけどもうすぐ日本侵攻の話は終える予定です

斯衛がどんな陣形使ってるか知りません……

でも鶴翼は出てた気がするので別にいいかと思いい適当に



### 第30話 変えられぬ因果

斯衛参戦から2週間と少したった9月1日夜

戦線は斯衛参戦以降にBETAの攻勢が比較のおとなしくなっていたこともあり、広島と岡山の県境あたりで安定している。

制圧された地に新たなハイブが建設されるような様子はなく、このままBETAが撤退するまで耐え凌げば日本を守りきることが出来るだろう。

そして、アメリカからの直接的な援助が閉ざされた日本は国連の増援と大東亜連合に助勢を求めており、今現在の戦力にこれが成ればBETAを早期に日本から叩き出すことも可能かもしれない。なんとか先の光明が見えだしたことにより将兵たちに余裕が戻ってきていた。

斯衛の第一陣も今の戦線が安定しているうちにその役目を交代するべく、交代要員として戦線後方に展開していた部隊はその時を待っていた……

丹波地方斯衛第11大隊

丹波地方に展開する斯衛第11大隊も全機出撃態勢を整えて、指令が下るのを待っている。

安定している戦線への出撃ということでは皆気負うでもなく比較的冷静な様子である。斉御司和司とその小隊もその例に漏れず、適度な緊張感の下で待機中の時間を過ごしていた。

「いよいよ前線へと出撃か、戦線は安定してるみたいだが……まあ大丈夫だろう、本多たちがそうそう抜かれるなんてことないだろうし」

管制ユニットの中で一人つぶやくが聞く人は誰もいない。

一応大尉として第2中隊の中隊長としてここにいるので、あまりあれな発言は流せない。

BETA戦初陣前なのにあまりガチガチになってないのは、やはり安定した戦線に出るからだろうか。どちらかというと、BETA戦研究の際に最悪と言える戦場の様相を知っていたからかもしれない。それでも実際にBETAの前に出るとどうなるかはわからないが……

他の隊員たちも待機時間を管制ユニットの中でそれぞれ過ごしている。

そんな時、僚機である本多の赤の武御雷から通信がはいる

「和司様、少々気になることが。5分程前に振動センサーに微弱な反応を確認したんですがそちらでも何かありませんか？R型ならさらに詳しくわかるかもしれませんが」

「ん……、今確かめてみる。確かに微妙にセンサーが振れてるな。でもBETAの地下侵攻ならもつと極端に出るだろうし。多分向こうでも確認されてるだろうけど、念のため本部に報告いれとくか」

日本では体に感じられないような微弱な地震は毎日起きている。実際、震度1以下の地震にセンサーが反応したのは一度や二度の話ではない

今回もその類の話だろうと思われた。BETAの地下侵攻ならもつと不自然に揺れるはずだ、そんな風に……

「おい！忠篤、さっきから揺れが強くなってないか？」

「こちらでも確認しました。これは……マズいことになったかもしれません」

「直ぐに他の隊にも連絡を、万が一気付いてなかったらマズい」

「はっ、直ちに。」

だんだんと素人目にも明らかかな程センサーが反応していた  
周りの部隊も自ら気付いたり、連絡が入ったりで慌ただしくなる

「しかし、いつの間にかここまで……。」

「今連絡を終えましたが、丹後や摂津でも同様に異常な振動が確認  
されているようで、本部も突然の事態に混乱している模様です」

「本当にどうなってやがるんだ、今まで気付かれなかったなんて」

「今はBETAがどうやって地下を掘り進んだかより、これにどう  
やって対処するかです。まずは奴らの到着予定時刻と規模がわから  
ないことには……。」

「今小隊で確認された複数のデータから割り出してる……、って後  
10分前後で規模が1万弱だと?！」

示された結果はなかなか絶望的な数値を叩き出していた。計器の

故障でなければ、現状の戦力では間違いなく対処できない。すぐにも援軍の要請を出さなければならぬが、現状の遊撃戦力は自分たちであり丹後や摂津でも同様に地下侵攻があるならそこから援軍は出せないと思われる

かと言って、退却するのは後ろに帝都があるのでそれも選択肢に入れない。

いつ援軍が来るかもわからないが自分たちの選択肢はここで援軍が来るまでBETAを食い止めることになるだろう……

それをすでにわかっているだろう大隊長から11大隊全体に通達していく

「既に皆気付いているだろうがBETAの地下侵攻が確認された。

あと10分足らずで地上に姿を表す、本部に援軍は要請したが地下侵攻が広範囲で確認されているため、出せるとしても何時になるかわからないそうだ。まずは出現範囲から外に出ないといけないので今すぐ大隊を動かす。その後帝都方面への進撃を阻止するため戦線を張ることになる、以上だ」

通達そこそこに出現予想範囲から離れるため大隊は京都方面に下がる。

もしかしたら帝都に直接の襲撃をするつもりだったのかもしれないが、後方待機の自分たちを本部と間違えた可能性もある。そう考えれば帝都直接よりマシだ、それでもマズい事態には変わらないが……

ここまで気づかれず地下を進んでいたのは驚愕だが、恐らく戦線が安定しているうちに少しずつ掘り進んでいたのだろう……。そして真上に自分たちがいたので進路を上に向けたとかならありそうな話だが  
とりあえず忠篤の言う通り、なぜより今どう乗り切るかに集中しないと

などと考えているうちに出現予想範囲より離脱して、丹波地方の京都よりである亀岡盆地手前に第11大隊が布陣した。

「BETAにしたらえらい大人しいと思っとなら、なかなか愉快な真似してくれるやないか」

「思えば今まで地下侵攻がなかったのがおかしかったかと、大陸ではよくあったというのに」

井伊、榊原、酒井は大陸でのBETA戦の経験があるからか突然の事態にもまだ余裕が見られる。しかしながら、3人とも言葉とは裏腹に緊張した面もちだ。酒井は相変わらず無口だが

実戦経験ある3人ですらこうなのだから、初陣の自分からしたらパ

二ツクにならなかつたのが唯一の救いである。地下侵攻などという考えられる限り最悪の状況で焦らない方がおかしい

柄にもなく、口数少なくなり焦っていた

今も大隊長が士気をあげるため何か言っているがあまり耳に入らない

「和司様、そろそろ来ます。戦闘に入る前に中隊に下知を」

「下知?...ああ、そうだった。すまない、ちょっと混乱していた」

そうだ。自分は中隊長でしかも青だ、あまり無様は見せられない。最低でも表面は取り繕わないと

「第2中隊に告げる、突然の事態となったが、我々の使命は変わらない。奴らを帝都に侵入させるわけにはいかない、斯衛として死力を尽くせ！」

半ば自分に言い聞かせるように告げた。本多の方を盗み見るにあれで良かったようだ...少し気が楽になった

そうこうしているうちにBETAの地上到達予定時刻になる。

光学センサーからもその様子が捉えられ、網膜投影にて確認する事が出来た。

次々と土砂が吹き上がっている様子が見える、他のセンサーでもBETAの出現を捉えだし、レーダーがBETAによって赤く染まっ  
ていく……

そこに僅かばかり展開していた戦闘車両群が砲撃をするが、立ち昇るレーダーに全て撃墜された。

「レーザー属種までいるのか?!」

誰が言ったかまでは分からないが、出現したBETA群にレーザー属種が含まれていたようだ。益々最悪の状況である

そして、地上に展開したBETA群が態勢を整えて進軍を開始する  
……

これに対して斯衛第11大隊も帝都方面に進もうとするBETA群に対して阻止戦闘に入った

5機を除き瑞鶴で構成された部隊が数千にのぼるBETA群に対し



て飲み込まれるような形となる。

どうしても接近戦となるがもともと瑞鶴も武御雷も接近戦特化の戦術機だ、むしろ全力を発揮しやすい状況となっていた。

しかし、それも戦術機側の話で衛士がどうかはまた違ってくる。

斯衛にも関わらず、接近戦適性の低めな青の武御雷の衛士は四苦八苦しなからBETAの攻撃を凌ぐ、突撃砲メインに抜けてくるBETAを撃ちまくった。

R型の運動性と頑丈さに助けられ、なんとか撃破されずに済んでいる

戦闘開始から10分程

さすがに斯衛というか死の8分という初陣衛士が死にやすい時間帯を過ぎても、まだ1機も欠けることなく第11大隊は戦闘を続けていた。

武器弾薬の消費量は馬鹿に出来ない量になっていたが、節約出来る状況じゃないので気にしていられない

そんな時、突如BETA群が道を空けるように一斉に左右に動く

「全機乱数回避！」

言われなくてもBETAの行動が何を示すか理解した衛士達は回避行動に入り、遅れたものもセンサーが初期照射に反応して、機体が自動回避運動を行う。

戦車級の排除に集中していた斉御司和司の武御雷もレーザー照射警報が鳴るとともに自動回避運動に入っていた。

回避しようとするも、部隊中央部にいた瑞鶴が避けきれず、特に重光線級に照射された数機は装甲が意味をなさずレーザーが機体を貫通して大破沈黙

光線級に照射された何機かが小中破した

「照射インターバルを使って全機反撃！」

撃破された数機を気にかけることも出来ず、レーザー属種に隙があるうちに即座に反撃する。

光線級には36mmの支援砲が重光線級には120mmの滑空砲が向けられ、数の少なかった重光線級は120mm弾の直撃を食らい地に沈んだ

「何機逝った？」

「第2中隊で1機、第3中隊で2機、部隊中央部にいた第1中隊では4機撃破されました。それにレーザーが機体を掠った何機かが小中破です」

本多からの報告に眉を潜める。武御雷は機動力の高さから撃破されたものはいなかったが、大隊37機中、7機も一度に撃破されてしまった。小中破したものも考えればかなり戦力が低下したことになる。

改めてレーザー属種の恐ろしさを実感するとともに重光線級を排除出来たことに安堵した。まだ残っている可能性もあるが減ったことは確かだ

「第2中隊は隊列を整えて戦力の低下した第1中隊のカバーに入る」

レーザー属種の攻撃で崩れた隊列を立て直し、中隊間でカバーしあえるように指示を出す。もともと、武御雷の分戦力が突出していた第2中隊が、1小隊分戦力が低下した第1中隊をカバーすべきだ。大隊長からも了承の旨が伝えられる

さらに厳しくなったがここで折れるわけにはいかない、斯衛として  
將軍のいる帝都を危険に晒すわけにはいかないのだ……

負担が増えて自分も長刀による接近戦をせざる得なくなった青の武  
御雷は、右手に長刀と左手に突撃砲を装備しての態勢になっていた  
レーザー属種の圧力が減り、少しばかりは跳躍が可能となったので  
たまに回避に跳躍を混ぜて乱戦をやり過ごす

それでも時間とともに各衛士の負担が増えて、隊全体を把握するの  
が困難になってきた時、突撃級何体かの集団が武御雷の小隊に向か  
って抜けていった。

突撃級の正面からの撃破は困難なため跳躍を使ってやり過ごすこと  
にし、まずは黒の3機が低空跳躍で回避、次に赤と青の機体が回避  
に入ろうとした

「次から次へと……」

「来ました、タイミング合わせてください」

「わかってる。」

「3、2、1、いきます！」

タイミングを合わせて跳躍しようとするが、さっきまで動いていた跳躍ユニットの片方が動かない

「な?! 跳躍ユニットが！」

跳躍ユニットが急に動かなくなったのは、実は先程のレーザー級の攻撃の際跳躍ユニットに掠っていたのだ。小破したが問題なく動いていたので、大丈夫だと思っていたのだがそうではなかったらしい原因はどうかあれ跳躍できなくなり平面機動でなんとか回避しようと機体を動かすが固まっている突撃級群を跳躍ユニットなしで回避しきるには無理があった

青の武御雷が突撃級の装甲殻にぶつかり18mの巨体に似合わぬ吹き飛び方で地面に投げ出された

「和司様! ……くっ、小隊各機はエスプリット01中心に円陣をしけ! 小型種一体たりとも通すな!」

「了解！」」

想定外の事態に慌てる赤の武御雷、いかに頑丈な武御雷といえども  
―ス硬度15以上の装甲殻の一撃は無事にはすまない……

「バイタルは……。負傷している」

まずは中の衛士の状態を確認する。生きてることに安堵するが負傷  
によりバイタルが安定していない

「和司様の機体は限界だ。ひとまずはこの機体に和司様を収容する、  
その間今の陣形を維持しろ。大隊長にはその間小隊が戦線から離れ  
ることを伝えてくれ」

大隊随一の戦闘力を誇る武御雷の小隊が戦線を抜けることは大隊に  
かなり負担をかけることになるが、五撰家のものが負傷して危ない  
状況ならそれも仕方ない

赤の武御雷が青の武御雷に寄り添い、中の衛士を助け出すため作業  
に入る。

「無事でいてくださいよ……。」

本多が青の武御雷の管制ユニットから衛士を助けだそうと、外部から管制ユニット解放の装置を動かす

「開いた！開かなければこじ開けなければならぬところだったが……武御雷の頑丈さに感謝だな。」

そして、管制ユニットの中が露わになる。

外部は大丈夫だったが、内部は血で酷いことになっていた

管制ユニット内で派手に揺さぶられたせいで打ちつけたようで、頭部から出血していた。口からも吐血が見られ内蔵も傷ついているかもしれない……

素人目にも早く手当てしなければならぬ状態なのは明らかだった

後方に下がり本格的な治療をしなければならぬが、まずは血を止めないといけない。医療キットを取り出し血を止めるために手当てしだすと、気絶していた本人から反応があった

「ぐう……、忠篤か……？」

「和司様！今の状態がわかりますか？」

「突撃級に…弾かれたのは、ゴホッ、覚えている」

「ふう、意識ははっきりしていますね。ツライなら話さなくとも大丈夫です。とりあえずこの場で出来る手当てはしたので私の機体に」

意識があり、ちゃんと受け答え出来ているということは今はまだ脳に影響は出ていないはず。

頭部の出血で脳への影響が危惧されたが今は大丈夫そうだ

それを確認した後、大柄な体で身体を担ぎ上げ赤の武御雷に戻り無理をかけないように補助シートに固定した

「エスプリット01は私の機体に収容した。しかしながら、すぐにも本格的な治療を施さないと和司様の身が危ない」

「こちらでも容態を確認している。既に本部に連絡してエスプリット01及び02の後退許可は得ている、すぐにでも離脱して治療を」

本多の報告に対して大隊長が答える。確認出来る状態から即座に本部に連絡してくれたようだ



「エスプリット02了解。……聞いたと思うが01と私02は戦線より離脱して01を安全圏までお連れする。後の指揮は第2小隊に任せる井伊ら3人はその指揮下に入れ」

「……井伊たちは……残るのか」

「この状況では武御雷が4機も抜ける余裕はありません」

「せや、和司様は気にせず治療しに下がってや」

「心配せずとも我々はもともと3人、連携に不備などありません」

「心配いらない」

井伊たち3人はそう言うのが嫌な予感しかしない……

「ちゃんと無事に……帰還すると……約束しろっ」

出血によりまた意識が朦朧としてくる

「それはこっちの台詞や、死にそんな顔して人の心配してる場合やないやろ。本多様もはよ行かな。まあ万が一のことあったら、後のことは頼むわ……」

「そうですね、靖国すらなくなったら帰る場所がなくなります」

「……」

「お前らっ……ふざけてないで「御免」う……」

興奮し過ぎると出血が再発する可能性があるため本多が鎮静剤をうつとそのまま意識を閉じた……

「ふざけてるつもりはないんやけどな……流石にこの状況じゃ」

「井伊、榊原、酒井。そろそろ離脱する、後は頼んだ」

そう言って赤の武御雷が機体を揺らしすぎないように静かに離脱していった

構わず戦闘を続ける3人に大隊長が声をかける

「いいのか？護衛小隊として随伴することも可能だったが……。それにお前たちはもともと武家ではない、斯衛の責務に殉じることはないぞ」

「この状況でそれがマズいってことくらい、馬鹿な自分でもわかるで」

「私たちも帝国軍人、帝都の危機にて斯衛の責務どうこうなど関係ありません」

「同じく」

「そうか……。愚問だったな。最後に、新型はお前たち3機のみだ、最大戦力として負担をかける、すまない」

何でもないかのように答える3人に大隊長もその覚悟を悟る、これ以上は何も言うことはないだろう

「それにな俺たちは斯衛の三羽鳥！……」このような地獄でBETA

の死肉をアサるのは「…「お誂え向き」ってなあ！」

.....

齊御司和司と本多忠篤の2人が離脱した後も斯衛第11大隊は帝都に迫るBETA群に対して激戦を続けた。

その戦闘はBETAの地下侵攻に対する混乱から本部が立ち直り、援軍が編成されそれらが到着するまで続く。

最終的に援軍が駆けつけた時には斯衛第11大隊はほぼ壊滅しており、出撃37機中未帰還機30機という状態だった。

そして未帰還機の中には新型として配備されていた武御雷5機中4機も含まれていた……

援軍には帝都配属の斯衛や、日本海に展開していた第1艦隊が駆けつけ、それによりBETAの帝都侵入だけは防ぐことは出来た。しかしながら、中国地方北部の防衛戦が丹後、丹波地方から出現したBETA群の一部に後ろから挟撃される形となり壊滅

そのまま合流したBETA群に日本海沿いに侵攻を許し、帝都防衛に必死になる帝国軍斯衛軍を後目にBETA群は日本海側を北東に向かい進撃

第1艦隊が並足して攻撃するなか能登半島より海中に侵入、佐渡に再上陸してその地を占領した

そんな中、その後数ヶ月で横浜に再度侵攻することを知る唯一の人物は、戦闘での負傷で血を流しすぎ後方で治療を開始しようとした時には意識不明  
治療によりなんとか命は取り留めたが、いつ目覚めるかわからない状態となっていた……

佐渡にてハイブの建設が確認されるなか戦線は一端膠着する

その間に帝国は防衛戦にてインフラがズタボロになった京都から既

に経済的な中心地となっていた関東に首都機能の移転を決定

京都は対BETA防衛戦の前線基地として使われることになる

そして……首都機能移転が進む最中の11月、密かに日本海を伝わってBETAの補充をしていた佐渡ハイブより軍団規模のBETA群が突如として南下を開始

史実と違い戦力はまだまだ保持していた帝国だったが、淡路島から琵琶湖を通り佐渡まで至る長大な戦線を維持するには戦力が足らず、BETAの物量による一点突破を防げず史実通り西関東を制圧され、多大な犠牲を出すことになる。

BETAの再侵攻に伴い、東京の首都機能移転は中断。仙台を第二帝都として代用する

また、同様に香月博士ら第4計画のチームも仙台に移っていた

横浜ハイブ建設により停滞するBETAに対して、史実と違い多摩川の防衛ラインに加え近畿中京を守るための戦力が帝国には必要だった

幸いに佐渡ハイブ建設に伴い、BETAが日本海を主に渡っていた影響で西側の圧力はかなり下がっており、横浜を両側から挟む形で

の防衛ラインに主力をあてることになる。

それでも史実の倍近い戦線に軍は破滅寸前

このままハイブが成長しBETAの圧力が高まれば、近畿、中京は勿論のこと関東も破棄しなければいけない……最低でも横浜ハイブの排除は帝国の急務となっていた。

そこに仙台に退避していた香月博士から横浜ハイブ攻略作戦が国連に提唱される。第4計画としてのそれに国連は即座に受諾、帝国も破滅寸前の状況に渡りに船と全面協力を約束  
参加打診を受けた大東亜連合も巻き込んで、横浜ハイブ攻略作戦は決定される

帝国が国命をかけて横浜ハイブ攻略作戦の準備を行っている1999年1月初め

3カ月に及ぶ昏睡状態から齊御司和司は目を覚まそうとしていた……

### 第30話 変えられぬ因果（後書き）

第二部終了

最後端折ったけど書いててもぐだる展開しか見えないので……  
もとからある程度省こうと思ってたので話考えてなかったし

いろいろむちゃだけどこの展開には一応理由もあります

ハイブの位置に関しては多分BETAにとって資源採掘的に外せない場所なんじゃないかと思えます

史実でも佐渡という海に囲まれた狭いところにも建ててるし、あの島にはBETAにしかわからないような資源があるのでは？と思ってしまいます

資源採掘が第一のBETAですから、進軍方向変えてでも佐渡ハイブは作りそうなんで回り道してもらいました。他には日本海渡っての直接上陸とかも展開として考えましたがまあこれでいいかなと

ただこれはBETAが資源採掘機械という設定からのただの想像でしかありません

横浜ハイブは……あれは作中で人類研究のためとか言われてましたがあの位置に意味があるのか。正直佐渡ハイブから近い人口密集地で人類に明け渡した後も再占領しやすいとかしか思い浮かびません



もしかしたら横浜にも重要資源あるのかも

まあ色々書きましたが、一番の理由が佐渡と横浜ないと困る人がいるからというところでしょうもない理由ですが

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2954r/>

---

工学系オタクの戦術機論

2011年4月16日23時29分発行